

講義科目名称：心理学

授業コード：1R001

英文科目名称：Psychology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
鎌田 依里			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	<p>心理学の歴史と方法                      本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。                      key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）</p>	鎌田依里
	第2回	<p>脳と心理学                      脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。                      key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害</p>	鎌田依里
	第3回	<p>心の発達                      年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。                      key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学</p>	鎌田依里
	第4回	<p>発達障害                      平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では代表的な発達障害あるAD/HD、SLD、自閉スペクトラム症の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。                      key words：発達障害、AD/HD、SLD、自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育</p>	鎌田依里
	第5回	<p>感覚と知覚                      人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。                      key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚</p>	鎌田依里
	第6回	<p>学習                      一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。                      key words：古典的（レスポナント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデューラ）</p>	鎌田依里
	第7回	<p>記憶と思考                      感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。                      key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論</p>	鎌田依里
	第8回	<p>動機づけと情動                      人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるもののうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。                      key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理</p>	鎌田依里

	<p>第9回 性格 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちに、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：類型論，特性論，性格の5因子モデル，性格検査の信頼性と妥当性</p> <p>第10回 対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知，対人感情，関係の維持</p> <p>第11回 臨床心理学（1） 精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識，前意識，無意識，エス（イド），自我，超自我，エディプス・コンプレックス</p> <p>第12回 臨床心理学（2） 分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識，普遍的無意識，元型，症状の持つ意味，夢分析</p> <p>第13回 臨床心理学（3） クライアント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライアント中心療法，パーソン・センタード，静かなる革命，受容，共感，自己一致，建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件</p> <p>第14回 心理療法（1） 「コラージュ療法」演習 心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する。 key words：心理療法，芸術療法，コラージュ療法</p> <p>第15回 心理療法（2） 箱庭療法 箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。 key words：コラージュ療法，箱庭療法，空間象徴</p>	<p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p>
<p>科目の目的</p>	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解・思考】</p>	
<p>到達目標</p>	<p>1. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</p>	
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，社会学，生活文化と医療，大学の学び入門，大学の学び―専門への誘い―，多職種理解と連携 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ，公衆衛生学，看護技術論，臨床心理学，医療統計学</p>	
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験（レポート形式・70％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（30％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>	
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。 講義資料は、講義前までにActive Academyにて配布するので、各自ダウンロードしておくこと。</p>	
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>	
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・火・水・金の昼休み（4号館8階研究室）</p>	
<p>国家試験出題基準</p>	<p>なし</p>	

履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。
-------------	--

講義科目名称：教育学

授業コード：1R002

英文科目名称：Education

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
高野 利雄			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 人間の活動としての教育 教育とは何か 人間は教育によって何を達成しようとしているのか 第2回 学習権という人権 義務教育 教育の機会均等 子どもの権利条約 第3回 教育活動の時と場 人間の成長と発達課題 家庭・学校・社会での教育と学習 第4回 学校教育の柱と方法 学習指導要領 教科と特別活動 生徒指導提要 第5回 道徳教育とその位置づけ 特別の教科道徳の開始 道徳をどうとらえるか 第6回 学校教育現場の諸問題 いじめ 不登校 学級崩壊 第7回 教育活動の土台となる信頼関係 良好なコミュニケーション ゴードンメソッド 第8回 さまざまな学習形態 アクティブラーニング シチズンシップエデュケーション 第9回 キャリア教育 自らを生きる・生かす学び 第10回 障害児教育 特別支援教育の考え方と実状 インクルーシブ教育 第11回 家族の変化と教育 貧困格差と教育の課題 虐待への対応 第12回 チームとしての学校 学校保健 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 第13回 社会教育と生涯学習 学校以外の学習の場 自分はどこまで学び続けるか 第14回 教育に関する法と制度 福祉 医療 教育の連携 第15回 人生を支える学力とは	高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野 高野
科目の目的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。 【知識・理解・思考】	
到達目標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。	
関連科目	心理学、教育心理学	
成績評価方法・基準	試験（60％）、随時の提出物と授業への取り組み（40％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回の資料を熟読し、理解して備えること。1コマあたり4時間を目安とする。	
教科書・参考書	教科書・・・使用しない 参考書・・・講義時に紹介する	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：教育心理学

授業コード：1R003

英文科目名称：Educational Psychology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
原 芳典	原 芳典		

授業形態	講義（演習＝エクササイズを含む）15回	担当者
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 エクササイズ（思い出に残る先生）</p> <p>第2回 発達の視点を持つ 様々な発達理論 思春期とは？ エクササイズ（自分史グラフ）</p> <p>第3回 仲間関係の発達 ギャンググループ チャムグループ ピアグループ エクササイズ（自分たちの体験を振り返る）</p> <p>第4回 児童期 フロイトの自我理論 心理学のあゆみ エクササイズ</p> <p>第5回 乳幼児期① 生理的早産仮説 有能な赤ちゃん 愛着形成 エクササイズ</p> <p>第6回 乳幼児期② ビデオ学習「赤ちゃん」</p> <p>第7回 青年期の心理と課題 エリクソンの発達理論 エクササイズ（アイデンティティ・ステイタス）</p> <p>第8回 ジェンダー・アイデンティティ 自己概念 ジェンダー・アイデンティティ 男女の会話スタイル エクササイズ</p> <p>第9回 学校教育相談① ビデオ学習「多様な性の子どもたち」 学校教育相談の歩み エクササイズ（チェーン・インタビュー）</p> <p>第10回 学校教育相談② アサーション アクティ・リスニング エクササイズ（聞く態度で信頼関係はつくられる）</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育に至る経緯 発達障害の概念の整理 エクササイズ（視覚優位か聴覚優位か）</p> <p>第12回 教育現場での実践的諸問題① ビデオ学習「発達障害」 いじめ問題 エクササイズ</p> <p>第13回 教育現場の実践的諸問題② ビデオ学習「傷つき傷つけられた果てに」 摂食障害 自傷行為（リストカット） 自殺</p> <p>第14回 学校教育と自己肯定感 自己肯定感 エレファントシンドローム エクササイズ（OKマークをペタン）</p> <p>第15回 まとめ 自己実現 エクササイズ（様々な私） まとめ</p>	原 芳典
科目の目的	自分や周囲が体験してきた教育を振り返り、その心理的意味を考察することで、人間を理解し、人との関係の取り方や自分自身の有り様を見つめる。【知識・理解・思考】	
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、自分自身を考察し、他者との効果的な関係づくりを習得する	
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学	
成績評価方法・基準	定期試験50% および 課題（毎回提出を求める学習の理解や定着度を測る小レポートなどで次回にコメントや評価をつけて返却）の評価 50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらないが自分の教育体験をよく想起しておく（10分程度）	

教科書・参考書	<p>教科書は とくに使用しない。必要に応じて講義資料を提示する。</p> <p>参考書：  保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年  近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年  神田橋條治著「発達障害をめぐって」岩崎学術出版社 2018年</p>
オフィス・アワー	昼休み及び授業前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	とくになし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義 (13回) ・ 演習 (2回)	担当者
授業計画	<p>第1回 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>第2回 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>第3回 運動とスポーツの生理学② ―ATPと運動・スポーツ― ①運動時の酸素利用 ②トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>第4回 運動とスポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>第5回 運動とスポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>第6回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体力トレーニングの原理と原則</p> <p>第7回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―瞬発系、持久力系、回旋系― ①エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>第8回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ―評価 (アセスメント) ― ①評価 (アセスメント) ②コレクティブエクササイズ</p> <p>第9回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ―アスリートトレーニング― ①一例 (ケンブリッジ飛鳥) (目標まで3か月、週3回、1時間) ②ドローイン</p> <p>第10回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑤ ―筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養 (タンパク質) チェック</p> <p>第11回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑥ ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>第12回 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは?理想の自分とは?成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>第13回 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>第14回 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。小テスト実施。</p> <p>第15回 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。小テスト返却。レポート提出。</p>	<p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p>
科目の目的	<p>【知識・理解・思考】 「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明</p>	

	<p>する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。</p> <p>またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起り得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探究し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p>
到達目標	<p>「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。</p>
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内にレポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	<p>参考書</p> <p>「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院</p> <p>「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店</p>
オフィス・アワー	講義室または体育棟で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	



講義科目名称：健康スポーツ実技

授業コード：1R005

英文科目名称：Practice in Sports Science

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
岩城 翔平			

授業形態	実技	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング	岩城 翔平
	第2回 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	岩城 翔平
	第3回 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール	岩城 翔平
	第4回 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	岩城 翔平
	第5回 体力測定記録会 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）、体力測定記録会は小テストになる。	岩城 翔平
	第6回 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	岩城 翔平
	第7回 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	岩城 翔平
	第8回 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	岩城 翔平
	第9回 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	岩城 翔平
	第10回 心肺持久力記録会 20mシャトルランを実施する。この心肺持久力記録会は小テストとする。心肺機能や走力の向上を図るとともに、有酸素運動とATPの関係も学ぶ。	岩城 翔平
	第11回 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	岩城 翔平
	第12回 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル	岩城 翔平
	第13回 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	岩城 翔平
	第14回 球技・トレーニング メディシンボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	岩城 翔平
	第15回 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	岩城 翔平
科目の目的	<p><b>【コミュニケーション・協調】</b>                      運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。                      各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。                      各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう、そして将来チーム医療を実践するための、学生相互のコミュニケーション能力も身に付ける。</p>	

到達目標	①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。 ②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。 ③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内の実技（65％）。小テスト（35％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおける体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育棟で授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：生命倫理

授業コード：1R006

英文科目名称：Bioethics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
峯村 優一			

授業形態	講義（ディスカッションを含む）	担当者
授業計画	第1回 インTRODクシヨN 総論 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要 第2回 生命倫理の基礎（1） 生命倫理の社会的・歴史の変遷、四原則 第3回 生命倫理の基礎（2） 生命倫理の理論 第4回 生命倫理の基礎（3） 臨床倫理の四分割表 第5回 中絶（1） 中絶を守る立場と問題 第6回 中絶（2） 中絶を守る立場と問題 第7回 中絶（3） 中絶を批判する立場と問題 第8回 中絶（4） 中絶を批判する立場と問題 第9回 生命倫理の基礎と中絶のまとめ 生命倫理の基礎と中絶に関する重要な問題のまとめ 第10回 インフォームド・コンセント（1） インフォームド・コンセントの基本的な考え方、擁護する立場と問題 第11回 インフォームド・コンセント（2） インフォームド・コンセントを批判する立場と問題 第12回 安楽死（1） 安楽死とは？安楽死を擁護する立場と問題 第13回 安楽死（2） 安楽死を批判する立場と問題 第14回 生と死 人間の生と死 第15回 インフォームド・コンセント、安楽死、生と死のまとめ インフォームド・コンセント、安楽死、生と死に関する重要な問題のまとめ、期末 試験相談	峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一 峯村優一
科目の目的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、ディスカッションを通して、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。【態度】	
到達目標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになること、また生命倫理の各トピックに関する倫理的問題を考察して、医療者として適切な判断ができるようになることを目指します。	
関連科目	哲学、公衆衛生学、生活文化と医療、社会学、生物学、心理学	
成績評価方法・基準	ディスカッション（20%）、期末試験（80%）による総合評価。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業に関する資料を配布します。資料に目を通してください。1コマあたりの学習時間の目安2時間。	
教科書・参考書	（教科書） 指定なし。レジュメを配布します。 （参考書） 神里彩子・武藤香織編 2015=2019 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会 加藤尚武・加茂直樹編 1998=2014 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社	
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応します。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。	

講義科目名称：哲学

授業コード：1R007

英文科目名称：Philosophy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
赤羽 悠			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 哲学とは何か 宗教と哲学 哲学と社会学・人類学	赤羽 悠
	第2回 古代哲学（1） 「真理」をめぐって 【ソクラテス／プラトン／アリストテレス】	赤羽 悠
	第3回 古代哲学（2） 「生き方」を考える 【ストア派／エピクロス】	赤羽 悠
	第4回 中世哲学 神学と哲学 【アウグスティヌス／トマス・アキナス】	赤羽 悠
	第5回 近世・近代哲学（1） 「私」をめぐって 【デカルト】	赤羽 悠
	第6回 近世・近代哲学（2） 「国家」はなぜ存在するのか 【ホッブズ／ロック／ルソー】	赤羽 悠
	第7回 近世・近代哲学（3） 「経験」と懐疑主義 【ロック／バークリー／ヒューム】	赤羽 悠
	第8回 近世・近代哲学（5） 「理性」と「啓蒙」 【カント】	赤羽 悠
	第9回 近世・近代哲学（5） ドイツ観念論の展開 【フィヒテ／ヘーゲル】	赤羽 悠
	第10回 近代哲学の問い直し（1） 「真理」と「道徳」を問う 【ニーチェ】	赤羽 悠
	第11回 近代哲学の問い直し（2） 「意識」と「主観」を問う 【フロイト、マルクス】	赤羽 悠
	第12回 現代哲学（1） 「現象」を考える 【フッサール、メルロ＝ポンティ】	赤羽 悠
	第13回 現代哲学（2） 「実存」をめぐって 【ハイデガー、サルトル】	赤羽 悠
	第14回 現代哲学（3） 「全体主義」の経験から考える 【アーレント】	赤羽 悠
	第15回 講義の総括 現代哲学のその後 改めて、哲学とは何か	赤羽 悠
科目の目的	哲学をすることは、日常からかけ離れた抽象的なことをあれこれ考えることではなく、身近にあるが、しかし容易には答えの出ない問題を、普段よりもう一段掘り下げて考えてみることであり、歴	

	<p>史上の偉大な哲学者が行ってきたことも、実はそうしたことにほかならない。この講義では、そのような哲学者たちの思考の営みをみながら、受講者自身が生きていくなかで問題に直面する際、役立つような哲学的思考を身に着けてもらうことを目指す。</p> <p>講義は「授業計画」に従って進めるが、受講者の理解度等をふまえて若干進度を変更する場合がある。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【関心・意欲・活動】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史上の哲学者がどのような問いを立て、その問いにどのように取り組んできたのかを理解する。</li> <li>2. 1を通じ、哲学的に問いを立てるといったことがどういうことかを学ぶ。</li> <li>3. 以上を通じ、生きていくなかで直面する様々な問題に対処するにあたり必要とされる、哲学的な思考を身に着ける。</li> </ol>
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「人間と宗教」、「社会学」、「心理学」、「生命倫理」等の科目と関連を有する。</li> </ul>
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期末筆記試験（論述）の成績による（100 %）。</li> <li>● 詳細については初回講義時に説明する。</li> </ul>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予習については特に求めない。講義の場で話を聞き、またそれについてその場で考えることに集中してもらいたい。</li> <li>● 他方、授業後に内容を振り返り、扱われたテーマについて自分なりに考えをまとめる復習の作業はおこなってほしい。そのために必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）を配布し、それに基づいて行う。</li> <li>● 初学者にもわかりやすい哲学史の教科書としては、竹田青嗣・西研編『はじめての哲学史』（有斐閣アルマ）などがあるが、講義をそれに沿って行うわけではない。</li> <li>● 哲学とは何かについて考えるうえでは鷲田清一著『哲学の使い方』（岩波新書）などが役立つが、こちらもあくまで参考として挙げておきたい。</li> <li>● その他の参考文献については、講義の中で紹介したい。</li> </ul>
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義の前後（場所：教室もしくは非常勤講師控室）</li> </ul>
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：現代文学

授業コード：1R008

英文科目名称：Modern Literature

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
徳本 善彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：「文学」とは何か 日本の近代化と「文学」について歴史的観点から学ぶ。</p> <p>第2回 寺田寅彦「団栗」を読む 小説世界の時間・空間を整理し、小説を立体的に読む。</p> <p>第3回 芥川龍之介「トロッコ」を読む 小説の物語的要素を捉え、小説世界の構造を理解する。</p> <p>第4回 宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」を読む 小説の虚構世界とテキストが成立した時代状況を重ねて読解する。</p> <p>第5回 川端康成「葬式の名人」を読む 小説に書かれた言葉の身体／身体という言葉について考える。</p> <p>第6回 矢田津世子「茶粥の記」を読む 虚構としての小説、本当らしく語るといふことについて。</p> <p>第7回 上林暁「花の精」を読む 私小説のテキストを吟味して小レポートに取り組む。</p> <p>第8回 原民喜「夏の花」を読む 小レポートの講評／原爆・戦争と文学について。</p> <p>第9回 武田泰淳「もの喰う女」を読む 戦後の「肉体」ブームと「食べる」ことについて。</p> <p>第10回 井伏鱒二「遥拝隊長」を読む 戦争と記憶の問題について小説テキストから考える。</p> <p>第11回 安岡章太郎「ガラスの靴」を読む 占領下の日本とアメリカの関係を小説から読み解く。</p> <p>第12回 三島由紀夫「憂国」を読む 政治の季節と天皇の問題について同時代状況を概観する。</p> <p>第13回 石牟礼道子「死民たちの春」を読む 経済成長と公害、東京と地方などの問題を詩から捉え直す。</p> <p>第14回 村上春樹「アイロンのある風景」を読む 比喩を介して語り、災害と文学について。</p> <p>第15回 多和田葉子「ゴットハルト鉄道」を読む 他者の言語で書く・考えること、自分の言葉を相対化すること。</p>	徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦 徳本善彦
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学作品を読み、不明な事柄を調べることで当時の時代状況や社会問題などを理解する。</li> <li>2. テキストの中に問題を読み取り、深く考えることで筋道の通った読解を見出す。</li> <li>3. 小レポートの作成を通して、自分の考察を論理的に表現する力を身につける。【コミュニケーション・協調】</li> </ol>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学作品の書かれた当時の時代状況からの視点を体験することで、読む視点の複数性を理解する。</li> <li>2. テキストの中に問題を見出すことを通して、情報を批判的に評価する読解力を養う。</li> <li>3. 小レポート・期末レポートの作成に取り組むことで、自分の意見を客観的・論理的に表現する技術を身につける。</li> </ol>	
関連科目	芸術・哲学・社会学	
成績評価方法・基準	授業内小レポート（50%）、期末レポート（50%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前＝講義で使用するテキストを読み問題を整理する。（1.0時間）</li> <li>・授業後＝授業内容の復習。（0.5時間）</li> </ul>	
教科書・参考書	教科書：使用しない（講義資料は1週間前を目処にActive Academyを通して配布します。各自で印刷して授業に持参して下さい）。	
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：人間と宗教

授業コード：1R009

英文科目名称：Human Beings and Religion

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
竹村 一男			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 宗教を学ぶにあたって 宗教を学ための必要な基礎的事項について説明する。講義の前半は宗教の種類、宗教の研究分野、そして、3大宗教について、その概要と現状に言及する。後半は芸術作品や世界遺産の中から宗教に関する画像を中心に紹介する。</p>	竹村 一男
	<p>第2回 宗教本質論 宗教とは何か 過去から現在に至る哲学、神学、心理学などの代表的な思想、及び昨今の脳科学は、宗教をどのように解釈してきたかを解説する。更に、最も難解なテーマである「宗教とは何か」について考えてみたい。</p>	竹村 一男
	<p>第3回 キリスト教概説 世界最多の宗教人口をもつキリスト教の教義と歴史、現状について講述する。また、その文化・歴史など画像を交え説明する。特に新約聖書、福音書の解説については、ジョットの絵画による概要説明を行う。</p>	竹村 一男
	<p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。コーランの記述内容、スンニ派とシーア派の相違点、更に昨今の国際情勢におけるイスラームなどその現状にも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、その文化・歴史や伝播の経緯など画像を交え説明する。インドにおける仏教の成立と展開を中心に、中国仏教、南伝仏教、チベット仏教にも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。日本への仏教の伝来とその展開、各宗派による仏教思想の比較などを中心に解説し、更に寺院建築や仏像、曼荼羅など仏教文化遺産についても画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第7回 日本の民俗宗教 日本の宗教の基層をなす民俗宗教について、祖霊信仰や民俗神道、神社神道などを中心にその文化と歴史について講述する。日本の民俗宗教には様々な儀礼や祭祀が含まれるが、仏教との神仏習合も多々みられる。それらの特徴的な事例についても、画像を交え紹介する。</p>	竹村 一男
	<p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教ユダヤ教とヒンドゥー教について、その文化・歴史などを講述する。ユダヤ教はキリスト教・イスラム教の、ヒンドゥー教は仏教の起源となった宗教であるが、現在においても多数の信徒をもつ。その経緯と、なぜ民族の枠内に留まったかについて解説し、旧約聖書の記述については、地球環境史との関係もふまえて、画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え講述する。特に儒教については礼教（道徳）面が強調されることが多いが、その宗教面についても解説する。さらに、両宗教が日本に与えた影響などにも言及する。</p>	竹村 一男
	<p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。現在はこれらの新宗教も多くの信徒を持つに至り、家庭の宗教として信仰される例も多い。上記以外の幾つかの宗教団体、海外の新宗教などについても画像を交え解説する。</p>	竹村 一男
	<p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 宗教を対象とする研究には、神学などの信仰者の視点によるものと、比較宗教学のように中立的な視点からのものがある。本講座は後者に属するが、ここでは比較宗教学、宗教社会学、宗教心理学などの中立的な社会科学の視点からなされてきた研究学説について解説する。さらに、反社会的教団の特徴や、講師の研究事例なども交えて講述する。</p>	竹村 一男

	<p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について講述する。古来より、宗教は芸術にも様々な影響を及ぼしてきた。その中で、特に美術と音楽、舞踊について、画像や映像を参考に解説する。また、宗教史跡、宗教建造物などの文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題について解説する。現状の宗教動向に加え、反社会的教団による事件、IS問題、民族紛争などの事例について講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。宗教団体と医療組織、特定教団の教義と輸血問題、終末医療などの医療現場における宗教の事例についても紹介する。</p> <p>第15回 神話・文学における宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は、聖典などに見られる印象的な言説や、文学作品における記述の紹介と、全講義のまとめを行う。</p>	<p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p> <p>竹村 一男</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・社会理解にも繋がる。</p> <p>なお、本講義は特定の宗教の視点によるものではなく、中立的な観点から広範に宗教を扱う。受講生各自の宗教観は人それぞれであろうが、医療現場における患者（被治療者）の宗教観も様々であるため、医療者には中立的かつ広範な視点での宗教理解が必要となってくる。医療に携わろうとする者はそのことを理解したうえで、私達人間に与えられた生命をまもること、与えられた生命をよりよく生きることが大切かと考える。【関心・意欲・活動】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。</li> <li>● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。</li> <li>● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。</li> </ul>	
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度（計15回15時間）、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。最初は簡単な概説書でもよいが、以下に推薦文献をあげる。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『神道とは何か』伊藤 聡（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『森林の思考・砂漠の思考』鈴木秀夫（NHKブックス）、『現代医学と宗教』日野原重明（岩波書店）など。また、信仰者以外の人にとっては「聖書」や「コーラン」は難渋な書物であろうが、聴講によって基礎知識を得た後に読むと、理解が変わってくる。	
教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書1 『ブッダの言葉』中村 元訳（岩波文庫） 参考書2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）	
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各回のプリントを事前にActive Academyにアップロードしておきます。受講者はプリントアウトして授業に出席してください。	



講義科目名称：芸術

授業コード：1R010

英文科目名称：Art

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
東 晴美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイドダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第2回</p> <p>ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第3回</p> <p>劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p>	東 晴美
	<p>第4回</p> <p>観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p>	東 晴美
	<p>第5回</p> <p>身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第6回</p> <p>ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第7回</p> <p>能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p>	東 晴美
	<p>第8回</p> <p>狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第9回</p> <p>歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p>	東 晴美
	<p>第10回</p> <p>文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p>	東 晴美
	<p>第11回</p> <p>ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p>	東 晴美
	<p>第12回</p> <p>アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p>	東 晴美

	<p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ:ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>	東 晴美 東 晴美 東 晴美
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとり、芸術について学びます。</p> <p>まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。</p> <p>次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われるがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。</p> <p>最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。</p> <p>これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。【関心・意欲・活動】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。</li> <li>・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。</li> <li>・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。</li> <li>・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。</li> </ul>	
関連科目	社会学	
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。	
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)	
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。	

講義科目名称：法学（日本国憲法含む）

授業コード：1R011

英文科目名称：Law(the Constitution of Japan)

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
西川 久貴	西川久貴	小泉始	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 法学1 法律にはどういったものがあるのか、法は何の役にたっているのか、結局法とは何か	西川久貴
	第2回 法学2 法も数ある文化の一つである、道徳的にはダメでも法的にはダメじゃない	西川久貴
	第3回 法学3 法律は絶対なの？、正義って何？	西川久貴
	第4回 法学4 法はどいうところで活躍しているのか、国家って何？	西川久貴
	第5回 法学5 犯罪ってどういうもの？	西川久貴
	第6回 法学6 家族って何？、夫婦って何？	西川久貴
	第7回 法学7 契約って何？	西川久貴
	第8回 法学8 働くことの意味は何？、法学ってどういう学問？（前半のまとめとして）	西川久貴
	第9回 憲法総論 憲法の意味、国民主権、平和主義、憲法9条の考え方	小泉 始
	第10回 基本的人権1 人権とは、人権の種類、公共の福祉、幸福追求権、法の下での平等	小泉 始
	第11回 基本的人権2 精神的自由権、人身の自由	小泉 始
	第12回 基本的人権3 経済的自由権、社会権、参政権	小泉 始
	第13回 統治機構1 権力分立の原理、国会	小泉 始
	第14回 統治機構2 内閣、裁判所、憲法改正	小泉 始
	第15回 まとめ 個人の自由・平等という考え方を通しての社会問題についての意見発表	小泉 始
科目の目的	<b>【知識・理解・思考】</b> 私たちが生活し、働く社会は、便利である反面、現在大変複雑になっています。他方で、法は、社会に抜け難く組み込まれています。これは単なる道徳とは違います。社会人として、生き抜いていくためには、単に損か得かというだけの判断では、不足です。そのため、法学をとおして、法の知識だけでなく、法的な考え方を理解することを目的とします。	
到達目標	1 社会人として、複雑な社会を理解し、様々なトラブルや悩みを法的に解決する糸口を見つけれれることを目標としています。 2 日本国憲法のベースにある人権や法の支配といった価値を学び、その価値をもとに考えられるということを目標としています。	
関連科目	哲学，社会学，経済学，生命倫理，環境学	
成績評価方法・基準	筆記試験（短い論述問題含む）により評価（100％）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義内容に関する時事問題又は身近な問題についての自分なりの検討。準備学習に必要な学習時間の目安は30分です。	
教科書・参考書	教科書は使用しません。  参考書：「法学テキストの読み方」大橋洋一（有斐閣） 「法と社会 新しい法学入門」碧海純一（中公新書） 「現代法学入門（第4版）」伊藤正己 加藤一郎編（有斐閣双書） 「憲法（第6版）」芦部信喜 高橋和之補訂（岩波書店）	
オフィス・アワー	講義の前後。講義室または講師控室	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	講義資料がある場合は、講義の前日までにはActive Academyにアップロードするので、各自プリントアウトのうえ持参ください。
-------------	---

講義科目名称：社会学

授業コード：1R012

英文科目名称：Sociology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
坂本 祐子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）	坂本 祐子
	第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 （小レポートのフィードバック含む）	坂本 祐子
	第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障	坂本 祐子
	第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能	坂本 祐子
	第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化	坂本 祐子
	第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り	坂本 祐子
	第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）	坂本 祐子
	第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環 （小レポートのフィードバック含む）	坂本 祐子
	第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア	坂本 祐子
	第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり	坂本 祐子
	第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー	坂本 祐子
	第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮	坂本 祐子
	第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援	坂本 祐子
	第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 医療従事者としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か	坂本 祐子
	第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方	坂本 祐子
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【実践・探求・研究】	
到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる	
関連科目	法学（日本国憲法含む） 経済学 生活文化と医療 地域ボランティア活動論	
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自講義中に使用できるように準備しておくこと。
-------------	---

講義科目名称：生活文化と医療

授業コード：1R013

英文科目名称：Culture and Medicine in Life

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
鈴木 英恵			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション 第1回から第15回までの講義内容と、授業の進め方の説明をします。講義の後半では、病氣や災いを祓い、福をもたらす群馬県多野郡上野村の正月飾りの初絵（福神信仰）についてお話をします。</p>	鈴木 英恵
	<p>第2回</p> <p>生活文化（民俗学）と医療の接点？！ 私たちの生活は、先人たちの知識と知恵、そして技術の上に成り立っています。このことは過去から現在に続く生活文化（民俗学）の学問につながります。ここでは、先人の知恵である諺から、身体機能の意味を考えます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第3回</p> <p>民間信仰と石仏 路傍に佇む地蔵、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象として古くから造立されてきました。ここでは近世後期に盛んに造られた道祖神を取り上げ、その信仰内容を説明します。あわせて、現代社会における道祖神の役割も考えてみます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第4回</p> <p>映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 越後や北陸地方の村々をめぐる瞽女は、自立した生活を送るために、幼いころから努力して三味線と唄の技術を獲得しました。瞽女的生活様式をみていきましょう。</p>	鈴木 英恵
	<p>第5回</p> <p>医療民俗学とは？！ 医療民俗学が対象とするのは、医療の専門的な技術と知識を持たない世間一般の人びとが実践している医療習俗です。ここでは、医療民俗学の創設とその調査研究の特徴についてお話をします。</p>	鈴木 英恵
	<p>第6回</p> <p>年中行事と病い 年中行事には、予め病いや災いを払う習俗がたくさんあります。ここでは、テキストを中心に病いと暦の関係、病いの治癒祈願の方法を理解します。</p>	鈴木 英恵
	<p>第7回</p> <p>名づけとキラキラネーム 子どもの名前は、どのようにして決まるのでしょうか。伝承的な名づけの方法と、現代におけるキラキラネームの命名方法の特徴を考えます。あわせて、子どもの誕生とその習俗について理解します。</p>	鈴木 英恵
	<p>第8回</p> <p>いのちと生死の表現 『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図などの描写から、過去の人びとがどのように生死、人の一生を考えていたのかを読み解いてみましょう。</p>	鈴木 英恵
	<p>第9回</p> <p>いのち観と人生儀礼 「いのち」とは一体、何を指すのでしょうか。ここでは「いのち」についてじっくり考える時間を持ちます。テキストの内容をもとに、人の一生と人生の節目となる各種儀礼の意味を理解します。</p>	鈴木 英恵
	<p>第10回</p> <p>モノに宿る靈魂 普段私たちが何気なく使うモノには、その人自身の靈魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、初節供に贈答される人形と靈魂観の関係についても考えてみましょう。</p>	鈴木 英恵
	<p>第11回</p> <p>課題レポートの説明 本講義では、「生活文化と医療」をテーマにしたレポートを提出してもらいます。今後、皆さんは医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは自らの生活文化を軸に、医療に関連する事項や死生観をテーマにします。授業のなかで課題レポートの内容と書き方を説明します。</p>	鈴木 英恵
	<p>第12回</p> <p>日々の暮らしに見る高齢者の生きがい 群馬県利根郡川場村の高齢者はとても元気です。村内には年間を通し、道の駅に農作物を出荷している人が多くいます。高齢者の元気の秘訣を道の駅と関連付けて考えてみます。</p>	鈴木 英恵
	<p>第13回</p> <p>長寿祝いの習俗と儀礼 テキストから全国各地の長寿祝いの方法を学びます。高齢化社会を象徴する儀礼の特徴をみていきます。老いと福祉に関する回想法についても理解します。</p>	鈴木 英恵

	<p>第14回 高齢者の生きがい、健康そして長寿へ地域社会の老年層は、地域固有の伝統芸能を後世に伝えようと、日々練習を重ねています。ここでは、世代を超えて継承される獅子舞を事例に、高齢者の活躍の場と健康維持の方法を見ていきます。</p> <p>第15回 まとめ（看取り、葬送と先祖供養）これまでの授業のまとめと、現代社会における先祖供養の方法を見ていきます。供養は、個人やその家の考えによって異なります。ここでは、地域社会の伝統的な故人を偲ぶ習俗と先祖供養の方法を理解します。</p>	<p>鈴木 英恵</p> <p>鈴木 英恵</p>
科目の目的	<p>本講義では、現代医療（医師や医学書から学んだ医療技術、知識）ではなく、私たちの生活に古くから根付いてきた伝統的な病いの捉え方、健康祈願、治癒方法について取り上げます。これらの伝統的な医療習俗の内容をていねいにみていきます。過去から現在に続く生活文化には、医療と健康に関係するものが多くあります。ここでは、群馬県内を中心に地域医療の対象となる人びとの暮らしに焦点をあて、人びとが病いをどのように考え、健康を願って日々過ごしているのかを考えていきます。医療技術は日々進歩しますが、人は現代医療を受け一方で健康や病いの克服を願って、お守りや護符、ときには神仏への信仰を心の拠り所としています。本講義をとおし、人びとの生活文化から医療との接点を実感し、患者やその家族の精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。【実践・探求・研究】</p>	
到達目標	<p>私たちの日々の生活に目を向けて、医療・健康・病い治癒などに関連する医療習俗を学ぶことは、患者やその家族との豊かなコミュニケーション能力を高めると同時に、心理・精神的な面もサポートできると考えます。実生活の中から医療、看護などに関連する教養を深め、物事を考え発展させる能力を身につけることを目標とします。</p>	
関連科目	<p>生命倫理、社会学</p>	
成績評価方法・基準	<p>試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。課題未提出者の単位取得は認めません。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>医療に関連すること（病いの存在と治癒祈願、健康維持の方法など）に興味を持ってください。人は生きていく限り、病いと向き合って生きていきます。自分の身体の体調が悪いとき、あるいは病いや怪我をしたとき、どのような行動をして健康な身体を取り戻すでしょうか。自身を含み、身近な人たち（父母、祖父母、友人知人など）は如何にして病いと向き合い、正常な身体を取り戻しているのかを考えてみましょう。四季を通し、人びとの生活文化を注意深く観察することで、医療と結びつく接点や課題を発見できるようになります。それらの意味をひとつずつ考えることで、「なぜ」という疑問を解決することができます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：板橋春夫 2019『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社</p> <p>参考書1：福田アジオほか編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館  参考書2：根岸謙之助 1991『医療民俗学論』雄山閣  参考書3：宗田一 1984『健康と病の民俗誌 医と心のルーツ』健友館</p>	
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称：経済学

授業コード：1R014

英文科目名称：Economics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。	飯島 正義
	第2回 経済学の歩み（1） アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。	飯島 正義
	第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。	飯島 正義
	第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。	飯島 正義
	第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。	飯島 正義
	第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。	飯島 正義
	第7回 政府の役割 市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。	飯島 正義
	第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作政策、預金準備率操作政策、金融の量的緩和等について説明します。	飯島 正義
	第9回 財政政策経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。	飯島 正義
	第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。	飯島 正義
	第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。	飯島 正義
	第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。	飯島 正義
	第13回 貿易・国際収支（1） 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。	飯島 正義
	第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。	飯島 正義
	第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。	飯島 正義
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における小テスト40%（3～4回、プリント参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。 小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。	
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。	
国家試験出題基準	該当しません。	

履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。
-------------	---

講義科目名称：地域ボランティア活動論

授業コード：1R015

英文科目名称：Volunteer Activities in a Community

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
竹澤 泰子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ボランティア活動の歴史と変化 ボランティア活動が時代により変化していることについて述べる。	竹澤
	第2回 経験談の発表 学生各自が経験したボランティア活動について発表を行う。その経験を分析して学んだ点や問題点を考察する。	竹澤
	第3回 エゴグラム の記入 記入したエゴグラムから自己分析を行い、ボランティア活動時や将来の就労時に必要な、自己の性格を客観的に把握する。	竹澤
	第4回 経験談1 母親勉強会等の託児ボランティア、子供食堂、高齢者の生活支援、アルパ演奏会等長年活動しているゲストスピーカーを招聘する。	竹澤
	第5回 経験談2 3.11東日本大震災後、数十回の炊き出し、生活用品支援、わかめ販売促進活動支援等に従事し、カンボジアに小学校を十数校建設した実績をもつゲストスピーカーを招聘する。	竹澤
	第6回 ボランティア活動の分析 ゲストスピーカー2名の経験談を分析し、ボランティア活動を行う上での注意点や問題点を考察する。	竹澤
	第7回 専門職のボランティア活動 国内における専門職ボランティアの活動量の少なさに着目し、原因探求と将来への対応の仕方について討論する。	竹澤
	第8回 ボランティア活動の紹介・日米の活動比較 講師が行うテディベアギフティング（悲しい経験をした方々へベアの温もりと優しさを与える活動）について紹介する。また、日米でのボランティア活動の違いについて考察する。	竹澤
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の多様性を理解する。</li> <li>・心の温もりがボランティアの基礎である事を認識する。</li> </ul> <b>【関心・意欲】</b>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、地域社会のニーズと連携に目を向け貢献しつつ、学生自らの将来像、医療人としての職業観の確立の基礎作りができる。</li> <li>・ボランティア活動の学習から、自分の性格を再考し、他人への思いやりの気持ちを生むことができる。</li> </ul>	
関連科目	なし	
成績評価方法・基準	レポート（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容を分析し把握できるように、自分の価値基準を確立しておくこと。なお、自分の意見提示ができることが望ましい。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり4時間	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：環境学

授業コード：1R016

英文科目名称：Environmental Studies

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景 第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち 第3回 生活を支える資源と持続可能社会 再生可能資源と再生不能資源、持続可能性とは 第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ 第5回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、足尾鉍毒、四大公害病 第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として 第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD 第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり 第9回 気候変動（Ⅰ） 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加 第10回 気候変動（Ⅱ） 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測 第11回 気候変動（Ⅲ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定 第12回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 1次エネルギー、再生可能エネルギー 第13回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物と3R 第14回 低炭素社会と循環型社会の融合 再生可能エネルギー・再生可能資源を中心とした社会づくり 第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える	西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。 <b>【知識・理解・思考】</b>	
到達目標	1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習（自筆ノートの整備）を行う。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）	
オフィス・アワー	授業の前後・非常勤講師室	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：生物学A

授業コード：1R017

英文科目名称：Biology A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質	佐藤久美子
	第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）	佐藤久美子
	第2回～3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割	佐藤久美子
	第4回～5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成、配偶子の形成～	佐藤久美子
	第6～7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成、遺伝子の働き ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス	佐藤久美子
	第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因———遺伝子変異	佐藤久美子

科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解・思考】
-------	--

到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる。 ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する。 ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
------	---

関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
------	-------------------

成績評価方法・基準	定期試験の成績（80%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（20%）により評価する。
-----------	---

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
-------------------------	---

教科書・参考書	<p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂）  2. アメリカ版「大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社）  3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）</p>
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や生物学分野の基礎研究が医療に活かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回・2回 生命活動とエネルギー ①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・人工光合成研究開発の現状と未来計画 ・呼吸：生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について ・外呼吸と内呼吸の関係 ・動物と植物のエネルギー連関～光合成と呼吸～</p> <p>第3回・4回 遺伝ーヒトを中心にーその1 ①DNA複製のしくみ ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ ④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ⑤性染色体の不活性化 ⑥エピジェネティクス</p> <p>第5回・6回 遺伝ーヒトを中心にーその2 ①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 ・常染色体性優性遺伝病、劣性遺伝病と伴性遺伝病 ・保因者、患者の出現頻度ーハーディーワインベルグの法則の有用性ー ②多因子遺伝病 ③染色体異常 ④ミトコンドリア病 ⑤体細胞遺伝病</p> <p>第6回・7回 ヒトの受精と初期発生 ①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ・始原生殖細胞の形成 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p> <p>第8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチンプロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞周期調節のしくみとがん化 ⑤細胞分裂の限界と老化</p>	<p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【知識・理解・思考】</p>	
到達目標	<p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。</p> <p>②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。</p> <p>③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。</p> <p>④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。</p> <p>⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>	
関連科目	生物学A、化学、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	

成績評価方法・基準	定期試験の成績（80%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（20%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルー-ボックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。



講義科目名称：数学A

授業コード：1R019

英文科目名称：Mathematics A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤 求			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 指数表現 指数法則、非自然集乗、科学的表記法と精度。	佐藤求
	第2回 変数計算 実用的な文字式の計算。x以外の文字にも慣れる。	佐藤求
	第3回 関数 方程式・関数・恒等式、パワフルで支配的な項とは？	佐藤求
	第4回 対数 対数の導入、対数法則。	佐藤求
	第5回 対数の利用 常用対数による近似、対数方眼紙の利用。	佐藤求
	第6回 複素数 虚数の導入と計算法、複素共役、極座標表示と回転。	佐藤求
	第7回 確率・統計的判断 期待値、事後確率、統計処理、検定の趣旨、相関関係と因果関係の違い。	佐藤求
	第8回 論理と命題 必要条件・十分条件・必要十分条件。裏・逆・対偶。論理的な判断とは？	佐藤求
科目の目的	<p>高校までの数学のうち科学の基礎となる部分を復習する。 科学的知見に基づく医療を行うために欠かせない、定量的な評価、論理的な分析を行う能力の基礎を身につける。 【知識・理解・思考】</p>	
到達目標	<p>1. 基礎的かつ必要となる数学概念の復習。 2. 感覚的にではなく、数值的・論理的に現象を捉えるセンスを身につける。 3. 数値だけが一人歩きするようなことの無いよう、適用できる範囲の判断ができるようになる。</p>	
関連科目	数学B、化学A・B、医療基礎数学、医療基礎物理学、医療基礎化学、医療電気・電子工学I・II	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。 前回分の演習問題、作業課題はこなしておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：自作テキスト 参考書：特になし</p>	
オフィス・アワー	<p>金曜日終日、研究室にて。 (それ以外の時間でもこちらが空いているようなら気軽にどうぞ。)</p>	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	数学Bも履修することが望ましい。	

講義科目名称：数学B

授業コード：1R020

英文科目名称：Mathematics B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤 求			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 三角関数の基礎 一般角、弧度法、三角比から三角関数へ、三角関数の基本的性質とグラフ。	佐藤求
	第2回 三角関数のグラフの読み取りと加法定理 三角関数のグラフの読み取り。加法定理。	佐藤求
	第3回 加法定理の応用 同じ周期の三角関数の合成、和と積の変換。	佐藤求
	第4回 微分の導入 微分の定義、整式の微分。	佐藤求
	第5回 微分の基本性質1 微分の線形性、積の微分、合成関数の微分、	佐藤求
	第6回 微分の基本性質2、三角関数の微分 逆関数の微分、高次導関数、三角関数の微分、三角関数の近似。	佐藤求
	第7回 積分の導入 不定積分、定積分。	佐藤求
	第8回 区分求積と物理への応用・微分方程式 変化する量に対する積。仕事、エネルギー、微分方程式の初歩。	佐藤求
科目の目的	高校までの数学のから半歩だけ踏み出し、ニュートン以降の科学を支える数学的技法「微積分」の基礎を固める。【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 科学に必要な数学概念の復習。 2. 時間変化する現象に対する数値的取り扱いを学ぶ。	
関連科目	数学A、医療基礎数学、医療基礎物理学、医療電気・電子工学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。 前回分の演習問題、作業課題はこなしておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)	
教科書・参考書	教科書：「工学を理解するための応用数学 -微分方程式と物理現象-」(コロナ社) 佐藤求 参考書：特になし	
オフィス・アワー	後期時間割決定後に入力	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	数学Aも履修することが望ましい	

講義科目名称：化学A

授業コード：1R021

英文科目名称：Chemistry A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
酒井 健一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。	酒井健一
	第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、物質の単位などについて解説する。	酒井健一
	第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。	酒井健一
	第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。	酒井健一
	第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異的な形、一般的な性質について解説する。	酒井健一
	第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。	酒井健一
	第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。	酒井健一
	第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。	酒井健一
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。【知識・理解・思考】	
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
関連科目	生化学 化学B 医療基礎化学	
成績評価方法・基準	試験（70%）、授業内課題（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護所で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人（2016） 参考書（1）：大学で学ぶ化学 川瀬雅也・山川純次著 化学同人（2019） 参考書（2）：まるわかり！ 基礎化学（教養基礎シリーズ） 田中永一郎監修 松岡雅忠著 南山堂（2018）	
オフィス・アワー	月曜日午後（4号館7階712研究室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	

講義科目名称：化学B

授業コード：1R022

英文科目名称：Chemistry B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
酒井 健一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 化学の世界 化学物質および原子・分子について解説するとともに、化学反応に関する基礎を学ぶ。	酒井健一
	第2回 化学反応と熱 熱化学方程式、ヘスの法則などについて解説する。	酒井健一
	第3回 化学平衡と溶液 化学平衡、酵素、水溶液の性質などを解説する。	酒井健一
	第4回 有機化合物 有機化合物の種類と性質を解説する。	酒井健一
	第5回 アミノ酸、糖類など アミノ酸、タンパク質、糖類、核酸などを解説する。	酒井健一
	第6回 無機顔愚物と製法 無機化合物とは何か、種別に具体的な性質などを解説する。	酒井健一
	第7回 生体分子と医薬品 生体分子と医薬品の種類や機能メカニズムを紹介する。	酒井健一
	第8回 化学のまとめ 総集編と講義内試験	酒井健一
科目の目的	本講義では、医療人として必要な基礎的化学に加え、さらに進んだ生命体への取り組みに必要な基本的知識を習得する。【知識・理解・思考】	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
関連科目	生化学 医療基礎化学	
成績評価方法・基準	試験（70%）、授業内課題（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：まるわかり！基礎化学 田中永一郎編 松岡雅忠著 南山堂（2018） 参考書（1）：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人（2016） 参考書（2）：大学で学ぶ化学 川瀬雅也・山川純次著 化学同人（2019）	
オフィス・アワー	月曜午後（4号館7階712研究室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	

講義科目名称：物理学A

授業コード：1R023

英文科目名称：Physics A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。	山崎真
	第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力。	山崎真
	第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。	山崎真
	第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。	山崎真
	第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。	山崎真
	第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。	山崎真
	第7回 円運動 等速円運動。	山崎真
	第8回 バネと単振動 単振動。	山崎真
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 【知識・理解・思考】	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。	
関連科目	物理学B、医療基礎物理学、数学A・B、医療基礎数学	
成績評価方法・基準	定期試験（90%）、授業内レポート（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分～1時間程度	
教科書・参考書	教科書・参考書：講義中に指示する。	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：物理学B

授業コード：1R024

英文科目名称：Physics B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱	山崎真
	第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱	山崎真
	第3回 熱現象 3 気体分子運動論	山崎真
	第4回 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉	山崎真
	第5回 波動 2 ドップラー効果	山崎真
	第6回 電気の基礎 1 クーロン力、電界、電位	山崎真
	第7回 電気の基礎 2 電気力線とガウスの法則、コンデンサ	山崎真
	第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊	山崎真
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 【知識・理解・思考】	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。	
関連科目	物理学A、医療基礎物理学、数学A・B、医療基礎数学	
成績評価方法・基準	定期試験（90%）、授業内レポート（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分～1時間程度（定期試験前の復習は別）	
教科書・参考書	教科書・参考書：講義中に指示する。	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：英語リーディング

授業コード：1R126 1R127

英文科目名称：General English Reading

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
杉田 雅子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介	杉田
	第2回 Lesson 1 Communication communicationの持つ力についての会話練習、英文読解。(課題) 英語で自己紹介をしてみる。	杉田
	第3回 Lesson 2 Friendship 課題のフィードバック。様々なfriendshipの形についての会話練習、英文読解。(課題) Grammar for omunicationのLet's Try (Lesson 1, 2)	杉田
	第4回 Lesson 3 Health 課題のフィードバック。Healthに留意することの意義についての会話練習、英文読解。	杉田
	第5回 Lesson 4 Environment 絶滅危惧種を守るためにすべきことについての会話練習、英文読解。(課題) Grammar for CommunicationのLet's Try (Lesson 3, 4)	杉田
	第6回 Lesson 5 Fashion 課題のフィードバック。着物の変遷に関する会話練習、英文読解。	杉田
	第7回 Lesson 6 Food 人気のある食べ物についての会話練習、英文読解。(課題) Grammar for CommunicationのLet's Try (Lesson 5, 6)	杉田
	第8回 Lesson 8 Study Abroad 課題のフィードバック。海外留学の意義についての会話練習、英文読解。	杉田
	第9回 Lesson 9 College Life in the U. S. 日本とアメリカの大学生活の違いについての会話練習、英文読解。Grammar for CommunicationのLet's Try (Lesson 8, 9)	杉田
	第10回 Lesson 10 Steve Jobs 課題のフィードバック。Steve Jobsの生涯に関する会話練習、英文読解。	杉田
	第11回 Lesson 11 Volunteer Work ボランティア活動の意義に関する会話練習、英文読解。(課題) Grammar for Communication のLet's Try (Lesson 10, 11)	杉田
	第12回 Lesson 12 Internship 課題のフィードバック。インターンシップの意義に関する会話練習、英文読解。	杉田
	第13回 Lesson 13 Travel 交通手段の発展の歴史に関する会話練習、英文読解。(課題) Grammar for Communication のLet's Try (Lesson 12, 13)	杉田
	第14回 Lesson 14 Culture 課題のフィードバック。カルチャーショックに関する会話練習、英文読解。	杉田
	第15回 Lesson 15 An International World 留学を通して得られたものについての会話練習、英文読解。	杉田
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の考え・意見を持ち、それらを表現する。【コミュニケーション・協調】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。</li> <li>・テキストのトピックについて調べ、自分の考え・意見を持ち、グループやペアでの話し合いを通じて、他者の考え・意見も聞き、最終的に自分の考え・意見をまとめ、表現することができる。</li> <li>・テキスト教材の音声を聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。</li> <li>・extensive readingの目標は10,000words。易しい英文を楽しみながら読むことができ、口語表現、日常生活での英語表現が理解できる。</li> </ul>	
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基	定期試験 (60%) 課題(30%) extensive reading(10%)	

準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。exercise等もあらかじめやっておく。 復習：その日に学習したことを整理し、英文を理解する。課題を行う。予習復習合わせて約1時間。extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。
教科書・参考書	教科書：Journeys: Communication for the Future 阿野幸一ほか4名（朝日出版社）
オフィス・アワー	講義日の昼休み、研究室（4号館8階研究室26）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。辞書を授業に持ってくること。



講義科目名称：医療英語会話

授業コード：1R128 1R129

英文科目名称：Medical English Conversation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions and commonly used phrases and questions for use in class.	David Andrews
	第2回 Unit 1: Meeting patients	David Andrews
	第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history	David Andrews
	第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms	David Andrews
	第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for 1st Presentation	David Andrews
	第6回 1st Presentation + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.	David Andrews
	第7回 Quiz (short test) on Unit 4 + Unit 5: Taking a specimen	David Andrews
	第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Conducting a medical examination	David Andrews
	第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Assessing pain	David Andrews
	第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Advising about medication + Prepare for 2nd Presentation	David Andrews
	第11回 2nd Presentation + Part II of Unit 8: Advising about medication Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.	David Andrews
	第12回 Quiz (short test) on Unit 8 + Unit 9: Improving Patients' mobility	David Andrews
	第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Maintaining a good diet	David Andrews
	第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Caring for inpatients	David Andrews
	第15回 Unit 12: Coping with emergencies + Prepare for Final Presentation	David Andrews
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine. 【コミュニケーション・協調】	
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.	
関連科目	Related to all English courses	
成績評価方法・基準	1. In-class quizzes (short tests) (30%: 3% x 10 quizzes) These will cover material from the text and will be graded in class. 2. Two midterm presentations (done in pairs but graded individually) (35%: 1st=15%; 2nd=20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics. 3. Final presentation (done in pairs but graded individually) (35%) Final presentation will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-12.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogs, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Listening practice is also important. Please use the online resources to practice listening. Each chapter will	

	require about 30-60 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 6 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	教科書 : Caring For People
オフィス・アワー	During lunch of class day in my office
国家試験出題基準	無し
履修条件・履修上の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.

講義科目名称：医療英語リーディング

授業コード：1R027 1R134 1R135

英文科目名称：Medical English Reading

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
杉田 雅子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction, Unit 1 Test Your Reading Skill 授業の説明、各自のreading skillのチェック、単語力のチェック。	杉田
	第2回 Unit 2 Team Medicine topicの英文読解、内容の把握。team medicineには何が必要かを考える。接頭辞と接尾辞 1	杉田
	第3回 Unit 2 Team Medicine topicの英文読解、内容の把握。接頭辞と接尾辞 2	杉田
	第4回 Unit 3 Tiny Bugs, Big Impact topicの英文読解、内容の把握。tiny bugsが人間の社会に及ぼした影響を理解する。接頭辞と接尾辞 3	杉田
	第5回 Unit 3 Tiny Bugs, Big Impact topicの英文読解、内容の把握。Handrubの英語表現を覚える。接頭辞と接尾辞 4	杉田
	第6回 Unit 4 Where Medicine Meets Religion topicの英文読解、内容の把握。医療と宗教の関わり方と解決策を考える。接頭辞と接尾辞 5	杉田
	第7回 Unit 4 Where Medicine Meets Religion topicの英文読解、内容の把握。接頭辞と接尾辞 6	杉田
	第8回 Unit 5 Prenatal Screening: Decisions, Decisions topicの英文読解、内容の把握。出生前スクリーニングの問題点を理解する。接頭辞と接尾辞 7	杉田
	第9回 Unit 5 Prenatal Screening: Decisions, Decisions topicの英文読解、内容の把握。接頭辞と接尾辞 8	杉田
	第10回 Unit 10 What Is "Upstream" Thinking? topicの英文読解、内容の把握。upstream thinkingとは何かを理解する。接頭辞と接尾辞 9	杉田
	第11回 Unit 10 What Is "Upstream" Thinking? topicの英文読解、内容の把握。接頭辞と接尾辞 10	杉田
	第12回 Unit 13 What Comes First When Helping Others topicの英文読解、内容の把握。医療従事者自身の身体的、精神的ケアを考える。接頭辞と接尾辞 11	杉田
	第13回 Unit 13 What Comes First When Helping Others topicの英文読解、内容の把握。接頭辞と接尾辞 12	杉田
	第14回 Unit 15 Japan's Healthcare System Is the Envy of the World topicの英文読解、内容の把握。日本の国民皆保険制度を考える。接頭辞と接尾辞 13	杉田
	第15回 Unit 15 Japan's Healthcare System Is the Envy of the World Reading Skill のチェック topicの英文読解、内容の把握。各自のreading skillの再チェック。単語力の再チェック。	杉田
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力、表現力の養成と強化。医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。</li> <li>・トピックの内容をまとめ、関連する事柄について、自分の意見・考えを表現できる。</li> <li>・各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。extensive reading の目標は10,000 words。</li> <li>・テキストの音声聞いて単語や文章を正しく聴き取ることができる。</li> <li>・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。</li> </ul>	
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (80%) 医療英単語テスト(10%) extensive reading(10%)	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。課題を行う。 予習復習合わせて約1時間。
教科書・参考書	教科書：Medical Explorer 大野直子&ダシルヴァ石田牧子（成美堂）
オフィス・アワー	講義日の昼休み、研究室（4号館8階研究室26）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。辞書を授業に持ってくること。

講義科目名称：英語会話

授業コード：1R028

英文科目名称：General English Conversation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Course introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions and commonly used phrases and questions for use in class. Also, greetings and name order.	David Andrews
	第2回 Unit 1: Did you pack this bag yourself? Becoming familiar with common words and phrases used at airports.	David Andrews
	第3回 Unit 2: Can I pay in yen? Becoming familiar with common words and phrases used on an airplane.	David Andrews
	第4回 Unit 4: I'd like a ham sandwich, please + Unit 14: What's an egg sunny-side up? Becoming familiar with common words and phrases related to ordering food.	David Andrews
	第5回 Unit 5: Do you have a room for tonight? + Prepare for 1st Presentation Becoming familiar with common words and phrases related to staying at a hotel.	David Andrews
	第6回 1st Presentation + Unit 6: Can I use my card in this A.T.M.? Presentations will consist of performing skits in pairs based on the material covered thus far. Becoming familiar with common words and phrases related to banks and money.	David Andrews
	第7回 Unit 8: I have a sunburn Dealing with minor medical issues.	David Andrews
	第8回 Unit 9: Do you have anything cheaper? Becoming familiar with common words and phrases used when shopping.	David Andrews
	第9回 Unit 10: Where are you from? Learning how to talk about where you are from.	David Andrews
	第10回 Unit 11: Where should we meet? + Prepare for 2nd Presentation Becoming familiar with words and phrases used when arranging a meeting/date.	David Andrews
	第11回 2nd Presentation + Unit 12: What are you doing tomorrow? Presentations will consist of performing skits in pairs based on the material covered thus far. Learning how to make plans.	David Andrews
	第12回 Unit 15: I want to do a bungee jump! Describing what you want to do.	David Andrews
	第13回 Unit 16: I've lost my bag! Becoming familiar with words and phrases used if you lose something.	David Andrews
	第14回 Unit 17: I think we're lost! Understanding directions and asking for assistance.	David Andrews
	第15回 Unit 20: What time is your flight? + Prepare for Final Presentation Becoming familiar with words and phrases that will help you get back home!	David Andrews
科目の目的	The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability, and to familiarize students with words and expressions that will be useful when traveling abroad. The course introduces students to practical strategies useful for communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is on oral comprehension (listening) and communication (speaking). [技能・表現]	
到達目標	By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate with others in a variety of common situations they may encounter when traveling abroad.	
関連科目	All English courses.	
成績評価方法・基準	Grades are based on in-class quizzes (short tests) (30%), two midterm presentations (35%: 1st=15%; 2nd=20%), and a final exam (presentation) (35%)	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson. Students will listen to typical English conversation audio recordings, study relevant grammar and vocabulary and complete exercises. In addition, students will need about 4-6 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	教科書：「PASSPORT to New Places (English for International Communication・With full audio CD)」Angela Buckingham, Norman Whitney (OXFORD) 教科書：「PASSPORT to New Places (English for International Communication・WORKBOOK)」Lewis Lansford (OXFORD) For many of the activities, the use of smartphones, tablets, or notebook computers in class is encouraged.
オフィス・アワー	During lunch on the day of class in my office
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の 注意	Students are expected to participate in class discussions and projects. Attendance policy is consistent with university rules. Students are expected to conduct themselves with academic integrity and honesty.

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：1R029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
杉田 雅子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Writing:Paragraphとは何か、一文を書いてみる (Unit 1・Lesson 1, Lesson 2) パラグラフとは何か。よいパラグラフの条件 英語における語順の重要性。Writing Exercise	杉田
	第2回 Writing:Narrative Paragraph (Unit 2・Lesson 1) 課題のフィードバック。Narrative Paragraphの特徴、特有の表現。Writing Exercise	杉田
	第3回 Writing:Descriptive Paragraph (Unit 2・Lesson 2) 課題のフィードバック。Descriptive Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第4回 Writing:Comparison/Contrast Paragraph (1) (Unit 3・Lesson 1) 課題のフィードバック。Comparison/Contrast Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第5回 Writing:Comparison/Contrast Paragraph (2) (Unit 3・Lesson 2) 課題のフィードバック。Comparison/Contrast Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第6回 Writing: Cause/Effect Paragraph (1) (Unit 4・Lesson 1) 課題のフィードバック。Cause/Effect Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise Writing Exerciseのフィードバック。Cause/Effect Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第7回 Writing: Cause/Effect Paragraph (2) (Unit 4・Lesson 2) 課題のフィードバック。Cause/Effect Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第8回 Writing: Opinion Paragraph (1) (Unit 5・Lesson 1) 課題のフィードバック。Opinion Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第9回 Writing: Opinion Paragraph (2) (Unit 5・Lesson 2) 課題のフィードバック。Opinion Paragraphの特徴、特有の表現。 Writing Exercise	杉田
	第10回 Writing: ParagraphからEssayへ (Unit 6) 課題のフィードバック。パラグラフからエッセイへの展開。	杉田
	第11回 Reading:医療系の文献を読む (1) パラグラフ・ライティングを意識しながら読む。	杉田
	第12回 Reading:医療系の文献を読む (2) topic sentence, supporting sentences, concluding sentenceなどを意識しながら読む。	杉田
	第13回 Reading:医療系の文献を読む (3) パラグラフ間の関係を意識しながら読む。	杉田
	愛14回 Reading:医療系の文献を読む (4) アブストラクトの特徴、特有の表現 (1)	杉田
	第15回 Reading: 医療系の文献を読む (5) アブストラクトの特徴、特有の表現 (2)	杉田
科目の目的	パラグラフライティングの基礎を学ぶことを通して、英語の文献を読む力と英語で考えを述べる力を付ける。 【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラグラフライティングの基礎を学び、短い英文や数パラグラフの文章を書くことができる。</li> <li>・パラグラフライティングの基礎をもとに、専門分野の英語文献をパラグラフライティングの観点から分析的に読むことができる。</li> <li>・パラグラフライティングの観点から、専門分野の英語文献の書き方が理解できる。</li> </ul>	
関連科目	英語リーディング、医療英語リーディング、英語会話、医療英語会話	

成績評価方法・基準	授業中の課題（70%）、期末課題（30%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：テキストに目を通し、練習問題をやる。復習：課題を通じて、学んだことを定着させる。学習時間は合わせて1時間。
教科書・参考書	教科書：A Guide to English Academic Writing for Beginners 田地野 彰（朝日出版社） その他：プリント
オフィス・アワー	授業日の昼休み（4号館8階26研究室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	予習は必ずすること。授業に辞書を持ってくること。



講義科目名称：中国語

授業コード：1R030

英文科目名称：Chinese

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
深町 悦子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス、中国語とは？ 発音、漢字、声調	深町 悦子
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	深町 悦子
	第3回 子音の発音と音節 母音、子音、音節表の読み方	深町 悦子
	第4回 発音のまとめ 自分の名前を中国語で読む練習	深町 悦子
	第5回 第1課の学習 第1課 [私は日本人です] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第6回 第1課の復習と第2課の学習 第2課 [これは中国語の教科書です] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第7回 第2課の復習と第3課の学習 第3課 [マクドナルドに行きましょう] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第8回 発音の総合復習と第1課から第3課までの復習 中間レポート提出	深町 悦子
	第9回 第3課の復習と第4課の学習 第4課 [明日の天気はあまりよくない] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第10回 第4課の復習と第5課の学習 第5課 [私は今年18歳です] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第11回 第5課の復習と第6課の学習 第6課 [食堂は図書館のむかいにあります] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第12回 第6課の復習と第7課の学習 第7課 [私は11時に寝ます] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第13回 第7課の復習と第8課の学習 第8課 [私は中日辞典を1冊買いに行きたい] 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第14回 第8課の復習と第9課の学習 第9課 [私は本屋でアルバイトをしています] 文法 単語 本文 置換練習 文法 単語 本文 置換練習	深町 悦子
	第15回 第1課から第9課までの復習 総合復習	深町 悦子
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。【コミュニケーション・協調】	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、音声ファイルを聞きながら発声して覚えるように。	

教科書・参考書	教科書：グッと入門中国語（金星堂） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

講義科目名称：コリア語

授業コード：1R031

英文科目名称：Korean

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
青木 順			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。  文化として伝統茶を紹介する。	青木 順
	第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら） 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第6回 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。【コミュニケーション・協調】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>	
関連科目	特になし。	
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40％）・期末テスト（60％）	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定(コピー)
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30~12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。
履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。

講義科目名称：ドイツ語

授業コード：1R032

英文科目名称：German

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
高 裕輔			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス・Lektion 1 ドイツ語の学習のための導入、ドイツ語のアルファベット、ドイツ語の発音の特徴	高
	第2回 Lektion 1 人称代名詞、動詞の現在人称変化1	高
	第3回 Lektion 2 名詞と冠詞の格変化 名詞と冠詞の格変化 名詞と冠詞の格変化	高
	第4回 Lektion 3 名詞の複数形・人称代名詞	高
	第5回 Lektion 4 動詞の現在人称変化2・命令法	高
	第6回 Lektion 5 定冠詞類・不定冠詞類	高
	第7回 Lektion 5 定冠詞類・不定冠詞類	高
	第8回 Lektion 6 前置詞1	高
	第9回 Lektion 6 前置詞2	高
	第10回 Lektion 7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞1	高
	第11回 Lektion 7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞2	高
	第12回 Lektion 8 分離動詞と非分離動詞・接続詞1	高
	第13回 Lektion 8 分離動詞と非分離動詞・接続詞2	高
	第14回 Lektion 9 動詞の三基本形・過去人称変化	高
	第15回 Lektion 10 現在完了・再帰表現	高
科目の目的	ドイツ語の初歩的な文法だけではなく、発音や会話表現の習得を主な目的とします。これら学習を通じて、これまで学習してきた英語以外に多様な言語があること、そして言語が多様なだけではなくその世界には多様な文化や風習があることを理解することが重要な目的となります。また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける【コミュニケーション・協調】に示された能力向上の一環として行われます。	
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。自習能力の獲得。	
関連科目	「多職種理解と連携」、「英語リーディング」、「医療英語会話」	
成績評価方法・基準	期末試験（50%）、レポート（50%）。積極的な参加が好ましいです。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありません（15分程度）が、復習が極めて重要であるため予習より多くの時間を費やしてください。また1度の復習だけでは記憶に定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう（30分×3程度）。最初の復習はその日のうちに、授業から時間を置かずに行うことが望ましいです。	
教科書・参考書	教科書： Deutsche Grammatik System und Praxis（身につくドイツ文法<Leicht>）郁文堂 ISBN978-4-261-01251-4 辞書： 特に指定はしないが、例えば、新キャンパス独和辞典 郁文堂 ISBN978-4-261-07306-5	
オフィス・アワー	主に授業の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業へは積極的な参加が好ましいです。	

講義科目名称：ポルトガル語

授業コード：1R033

英文科目名称：Portuguese

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
宮入 亮			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション ポルトガル語について、簡単な挨拶、ポルトガル語の読み方 ポルトガル語の読み方	宮入 亮
	第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文	宮入 亮
	第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar	宮入 亮
	第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)	宮入 亮
	第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかけの表現 曜日の表現 動詞ir	宮入 亮
	第6回 今おこなっていることの表現、天気表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar	宮入 亮
	第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)	宮入 亮
	第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形	宮入 亮
	第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形	宮入 亮
	第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法	宮入 亮
	第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞	宮入 亮
	第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現	宮入 亮
	第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形	宮入 亮

	第14回 比較の表現ができる 比較の表現 第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現	宮入 亮 宮入 亮
科目の目的	<p>【コミュニケーション・協調】</p> <p>ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会が多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお薦めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>	
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	<p>期末試験(70%)、授業5回毎に行う小テスト(3回実施で各10%、計30%) 小テストは第5回、第9回、第13回の授業内で実施します。各小テストは、翌週に返却し解説します。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。 ただし、復習は授業直後と授業直前に毎回30分ほど行ってください。</p>	
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他. 『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』. 朝日出版社.</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編). 『デイリー日葡英・葡日英辞典』. 三省堂. 市之瀬敦他(編). 『プログレッシブポルトガル語辞典』. 小学館.</p> <p>その他、資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>	
オフィス・アワー	<p>授業前、授業後の時間 (水曜日1限・2限の授業前後)</p>	
国家試験出題基準	特になし	
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>	

講義科目名称：情報処理

授業コード：1R130 1R131

英文科目名称：Information Processing

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 本講義の概要と授業準備 本講義の概要と授業準備として、パソコンEdu.の利用方法、具体的な活用について学ぶ テキスト（目次） 本書と連携サイトの活用法	星野 修平
	第2回 コンピューターの仕組み コンピューターの構成要素、ファイルの仕組みについて学ぶ テキスト（第1章） コンピューターの仕組み	星野 修平
	第3回 インターネット ネットワーク、インターネットの仕組み、ネットコミュニケーション、クラウドコンピューティングについて学ぶ テキスト（第2章） インターネット	星野 修平
	第4回 情報セキュリティ コンピュータ・ウィルス、ネット詐欺の手口、パスワード管理、個人情報保護と情報漏洩について学ぶ テキスト（第3章） 情報セキュリティ	星野 修平
	第5回 情報倫理 フェイク情報、SNS利用のリスク、メールのマナーについて学ぶ テキスト（第4章） 情報倫理	星野 修平
	第6回 著作権 著作権の基礎知識、正しい利用について学ぶ テキスト（第5章） 著作権	星野 修平
	第7回 プログラミング・AI プログラミングとアルゴリズム、プログラミング、AI（人工知能）について学ぶ テキスト（第6章） プログラミング・AI	星野 修平
	第8回 レポート作成（Word） 1 レポート作成における見出しや文字、段落、オブジェクトの挿入、レポートの体裁について学ぶ テキスト（第7章） レポート作成（Word）	星野 修平
	第9回 レポート作成（Word） 2 演習 レポート作成における見出しや文字、段落、オブジェクトの挿入、レポートの体裁について学ぶ テキスト（第7章） レポート作成（Word） ▼レポート作成サンプルファイル	星野 修平
	第10回 集計表（Excel） スプレッドシートによる集計表作成について学ぶ テキスト（第8章） 集計表（Excel）	星野 修平
	第11回 グラフ作成（Excel） 1 スプレッドシートによるグラフ作成について学ぶ テキスト（第9章） グラフ作成（Excel）	星野 修平
	第12回 グラフ作成（Excel） 2 演習 スプレッドシートによるグラフ作成について学ぶ テキスト（第9章） グラフ作成（Excel） ▼集計表、グラフ作成サンプルファイル	星野 修平
	第13回 プレゼンテーション作成（PowerPoint） 1 プレゼンテーション作成について学ぶ テキスト（第10章） プレゼンテーション作成（PowerPoint）	星野 修平
	第14回 プレゼンテーション作成（PowerPoint） 2 演習 プレゼンテーション作成について学ぶ テキスト（第10章） プレゼンテーション作成（PowerPoint） ▼プレゼンテーション作成サンプルファイル	星野 修平



	第15回 デジタルノート術 (OneNote) デジタルノート (OneNote) の利用と学習活用について学ぶ テキスト (第11章) デジタルノート術 (OneNote)	星野 修平
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。 具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、PowerPoint、プレゼンテーションなどについての演習を行う。【コミュニケーション・協調】	
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。	
関連科目	情報リテラシー、医療画像情報学Ⅰ、医療画像情報学Ⅱ、放射線情報システム学、医療画像情報学演習	
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100% ミニテストの結果は、リアルタイムに表示されます。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業（30分）、自己学習（30分）、関連項目の学習（20分）、ミニテスト（10分）を演習を通して実施します。関連する項目を事前学習（45分）で理解し、併せて関連サイトを自己学習（45分）することが望まれます。	
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：基礎から学ぶICTリテラシー 日経BP出版（群馬パース大学団体契約版）	
オフィス・アワー	授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 事前にE-mail にて予約（s-hoshino@paz.ac.jp）	
国家試験出題基準	3-4-1-A, 3-4-1-B, 3-4-1-C, 3-4-1-D	
履修条件・履修上の注意	放射線学科・臨床工学科の合同開講となります。 クラス分けは、初回までに掲示版にて連絡いたします。 MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint) ウェブブラウザをインストールしたPC (WindowsPC, Mac等) を持参してください。	

講義科目名称：情報リテラシー

授業コード：1R035

英文科目名称：information literacy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>本講義の概要と授業準備 本講義の概要と授業準備として、パソコンEdu.の利用方法、具体的な活用について学ぶ</p>	星野修平
	<p>第2回</p> <p>コンピュータの仕組み（1） コンピュータシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. ハード、ソフト、ネットの仕組み パソコン/周辺機器 ・パソコンの仕組み・インタフェースを極める</p>	星野修平
	<p>第3回</p> <p>コンピュータの仕組み（2） コンピュータシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. ハード、ソフト、ネットの仕組み パソコン/周辺機器 ・記録メディアの賢い使い方・パーソナルコンピューティングの30年</p>	星野修平
	<p>第4回</p> <p>コンピュータの仕組み（3） パソコンEdu. ハード、ソフト、ネットの仕組み パソコンEdu. ハード、ソフト、ネットの仕組み ソフトウェア/AI ・イチから学ぶ OSの仕組み ・AI（人工知能）&amp;機械学習</p>	星野修平
	<p>第5回</p> <p>インターネットの技術（1） インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. ハード、ソフト、ネットの仕組み インターネット/Wi-Fi（無線LAN） ・インターネットの仕組み</p>	星野修平
	<p>第6回</p> <p>インターネットの技術（2） インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. ハード、ソフト、ネットの仕組み インターネット/Wi-Fi（無線LAN） ・無線LAN&amp;モバイル通信の活用術・無線LAN（Wi-Fi）の規格</p>	星野修平
	<p>第7回</p> <p>情報セキュリティ（1） 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. セキュリティの基礎知識と対策 セキュリティの基礎知識 ・基本から学ぶ情報セキュリティ</p>	星野修平
	<p>第8回</p> <p>情報セキュリティ（2） 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. セキュリティの基礎知識と対策 ネットの脅威と対策 ・ネットの護身術 ・安心・安全のパスワード管理法</p>	星野修平
	<p>第9回</p> <p>著作権と情報倫理（1） 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. 著作権と情報倫理を学ぶ 知らないと困る法律とネットのモラル</p>	星野修平
	<p>第10回</p> <p>著作権と情報倫理（2） 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. 著作権と情報倫理を学ぶ 教育著作権検定・メールの作法</p>	星野修平
	<p>第11回</p> <p>ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. スマホ&amp;タブレットの使い方 iPhone&amp;Androidの快適操作術・スマホ+パソコン活用</p>	星野修平
	<p>第12回</p> <p>情報収集と保管・管理 情報収集と保管・管理に必要なパソコン&amp;周辺機器について学ぶ パソコンEdu. パソコン&amp;周辺機器活用 情報収集/整理/活用 ・PDF/印刷 ・バックアップ ・</p>	星野修平

	<p>第13回 SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. クラウドサービス活用術 SNSを安全に使う ・ SNSの上手な歩き方</p> <p>第14回 クラウドサービス クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. クラウドサービス活用術 Web/クラウドサービス ・クラウドサービスの賢い使い方 ・Webアプリの世界</p> <p>第15回 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。</p>	<p>星野修平</p> <p>星野修平</p> <p>星野修平</p>
科目の目的	<p>情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。 本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。【知識・理解・思考】</p>	
到達目標	<p>情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。</p>	
関連科目	情報処理	
成績評価方法・基準	<p>演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100% ミニテストの結果は、リアルタイムに表示されます。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。関連する項目を事前学習（45分）で理解し、併せて関連サイトを自己学習（45分）することが望まれます。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：「基礎から学ぶICTリテラシー」 日経BP出版（群馬パース大学団体契約版） （＊ 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。）</p>	
オフィス・アワー	<p>授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 事前にE-mail にて予約(s-hoshino@paz.ac.jp)</p>	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	<p>放射線学科・臨床工学科の合同開講となります。 MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint) ウェブブラウザをインストールしたPC (WindowsPC、Mac等) を持参してください。</p>	

講義科目名称：囲碁で学ぶ情報戦略

授業コード：1R036

英文科目名称：Strategic Information by Go

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
土屋 仁	酒井真樹		

授業形態	講義、実践対局	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(自己紹介) 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説(6路盤) 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明(6路盤) 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解(9路盤) 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①(19路盤) 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①(19路盤) 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②(19路盤) 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③(19路盤) 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④(19路盤) 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局(19路盤) 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局(19路盤) 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥(19路盤) 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局(まとめ)(19路盤) すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>	酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹 酒井真樹
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力、問題を解決する能力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、放射線業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ(検査における優先順位)を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。このことは、多様な情報を適切に分析し、問題を解決する方法を身に着けることができる。【実践・探求・研究】</p>	
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。	
関連科目	放射線救急医学	
成績評価方法・基準	ミニテスト(実践アンケート含む:毎回、次回講義の前に解説を行う)(20%)、6、12回演習問題(80%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。</li> <li>・準備学習時間の目安は20分。</li> </ul>	
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>	
オフィス・アワー	講義の前後(講義室にて)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：大学の学び入門

授業コード：1R132 1R133

英文科目名称：Introduction to College Learning

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
杉田 雅子	星野 修平	鎌田 依里	峯村優一

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは	杉田
	第2回 調べる 情報を探す、情報の宝庫図書館の使い方	杉田
	第3回 インターネットリテラシー1 インターネット利用のルールとマナー (1)	星野
	第4回 インターネットリテラシー2 インターネット利用のルールとマナー (2)	星野
	第5回 聞く・ノートを取る・読む1 講義の聞き方、ノートの取り方、本や資料の読み方(1)	杉田
	第6回 読む2・考える 本や資料の読み方(2)、考える力をつけるには	杉田
	第7回 書く：レポートの書き方1 レポートとは何か、レポート作成の手順、よいレポートとは	峯村
	第8回 書く：レポートの書き方2 論文作法	峯村
	第9回 書く：レポートの書き方3 講義レポートの形式	峯村
	第10回 自分自身の課題を見つける 入学以来の自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す	杉田
	第11回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する	鎌田
	第12回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする	鎌田
	第13回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する	鎌田
	第14回 アカデミック・スキルの実践 (1) 聞く・考えることの実践 ゲストスピーカー：樋口建介理事長	杉田
	第15回 アカデミック・スキルの実践 (2) 聞く・考えることの実践 ゲストスピーカー：栗田昌裕学長、國元文生群馬パース病院長	杉田
科目の目的	大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。 【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル）	
関連科目	全科目	
成績評価方法・基準	杉田担当課題（10%、課題に対するフィードバックは次回の授業で行う）、星野担当課題（20%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う）、鎌田担当意見文・感想文（30%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う）峯村担当小テスト（40%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。	
教科書・参考書	なし。プリントを使用。	
オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階26研究室 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室	

	峯村：授業の前後、昼休み 4号館8階研究室 鎌田：授業の前後、月・火・水・金の昼休み、4号館8階研究室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy上で配布しますので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。

講義科目名称：大学の学び－専門への誘い－

授業コード：1R038

英文科目名称：Introduction to Healthcare Profession

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平	加藤 英樹	岩井 譜憲	齋藤 祐樹
	谷口 杏奈		

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 「大学の学び入門－専門への誘い－」 概論 1. この授業の進め方 ・グループディスカッション (GD)とグループワーク (GW) ・コミュニケーション・スキルについて 2. 医療技術学における専門性とコミュニケーション ・診療放射線技師におけるコミュニケーションの重要性 3. フリートーク (A1) 【診療放射線技師とは何か】について 4. レポート課題	星野・加藤・岩井・齋藤・谷口
	第2回 「診療放射線学」とは何か 0. 前回の振り返り 1. 講義 ・診療放射線技師の法的な役割 (テキストAⅠ) ・診療放射線技師の教育制度とは (テキストAⅡ) ・診療放射線技師の卒後教育と学位取得 (テキストAⅡ) 2. フリートーク (A2) 【診療放射線技師と求められる教育】について 3. グループディスカッション 4. レポート課題	星野・加藤・岩井・齋藤・谷口
	第3回 診療放射線技師の仕事 (1) 0. 前回の振り返り 1. 講義 ・診療放射線技師の仕事 (テキストAⅢ) (一般撮影・血管撮影・特殊撮影) ・ゲストスピーカーによる講義 2. フリートーク (B1) 【診療放射線技師の仕事 (1)】について 3. グループディスカッション 4. レポート課題	星野・加藤・岩井・齋藤・谷口
	第4回 診療放射線技師の仕事 (2) 0. 前回の振り返り 1. 講義 ・診療放射線技師の仕事 (テキストAⅢ) (CT・MRI・特殊撮影) ・ゲストスピーカーによる講義 2. フリートーク (B2) 【診療放射線技師の仕事 (2)】について 3. グループディスカッション 4. レポート課題	星野・加藤・岩井・齋藤・谷口
	第5回 診療放射線技師の仕事 (3) 0. 前回の振り返り 1. 講義 ・診療放射線技師の仕事 (テキストAⅢ) (女性が活躍できる業務について) ・ゲストスピーカーによる講義 2. テーマ提示 (B3) 【診療放射線技師の仕事 (3)】について 3. グループディスカッション 4. レポート課題	星野・加藤・岩井・齋藤・谷口
	第6回 診療放射線技師の仕事 (4) 0. 前回の振り返り 1. 講義 ・診療放射線技師の仕事 (テキストAⅢ) (核医学・放射線治療) ・ゲストスピーカーによる講義 2. フリートーク (B4) 【診療放射線技師の仕事 (4)】について 3. グループディスカッション 4. レポート課題	星野・加藤・岩井・齋藤・谷口

第7回	<p>診療放射線技師が働く職場（1）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 講義 ・診療放射線技師の仕事（テキストAIV） （大学病院・総合病院・小規模病院・診療所での仕事） ・ゲストスピーカーによる講義</p> <p>2. フリートーク（C1）【診療放射線技師が働く職場（1）】について</p> <p>3. グループディスカッション</p> <p>4. レポート課題</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第8回	<p>診療放射線技師が働く職場（2）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 講義 ・診療放射線技師の仕事（テキストIV） （放射線機器メーカー、研究所での仕事） ・ゲストスピーカーによる講義</p> <p>2. フリートーク（C2）【診療放射線技師が働く職場（2）】について</p> <p>3. グループディスカッション</p> <p>4. レポート課題</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第9回	<p>診療放射線技師の仕事と働く職場（グループワーク）（1）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. グループワーク（GW）の進め方</p> <p>2. 講義「プレゼンテーションの方法」</p> <p>3. グループワーク（GW） ・発表の準備 プレゼンテーションの作成</p> <p>4. レポート課題</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第10回	<p>診療放射線技師の仕事と働く職場（グループワーク）（2）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. グループワーク（GW） ・発表の準備 プレゼンテーションの作成</p> <p>2. レポート課題</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第11回	<p>診療放射線技師の仕事と働く職場（プレゼンテーション）（1）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 成果の発表 ・グループディスカッションの発表 グループ（1）から（5）の順に、第1回から第8回のディスカッションの内容を発表する。</p> <p>2. 総評1</p> <p>3. レポート課題</p> <p>4. プレゼンテーション評価</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第12回	<p>診療放射線技師の仕事と働く職場（プレゼンテーション）（2）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 成果の発表 ・グループディスカッションの発表 グループ（6）から（10）の順に、第1回から第8回のディスカッションの内容を発表する。</p> <p>2. 総評2</p> <p>3. レポート課題</p> <p>4. プレゼンテーション評価</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第13回	<p>専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション（1）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 講義 ・「放射線技師に必要な医療安全とは」テキストV ・ゲストスピーカーによる講義</p> <p>2. フリートーク（D1）「診療放射線機器の安全管理」について</p> <p>3. グループディスカッション</p> <p>4. レポート課題</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口
第14回	<p>専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション（2）</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 講義 ・「放射線技師に求められる必要な接遇とは」テキストVI ・ゲストスピーカーによる講義</p> <p>2. フリートーク（D2）【診療放射線技師に求められるマナー・エチケット】とは</p> <p>3. グループディスカッション</p> <p>4. レポート課題</p>	星野・加藤・岩井・斎藤・谷口



	<p>第15回 専門職として診療放射線技師の医療コミュニケーション (3)</p> <p>0. 前回の振り返り</p> <p>1. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療放射線技師における組織とは (テキストⅦ)</li> <li>(放射線技師に求められる共働とチーム医療)</li> <li>・ゲストスピーカーによる講義</li> </ul> <p>2. フリートーク (D3) 【放射線技師に求められる共働とチーム医療】について</p> <p>3. グループディスカッション</p> <p>4. レポート課題</p>	<p>星野・加藤・岩井・斎藤・谷口</p>
科目の目的	<p>診療放射線学及び医療技術学における社会的役割、医療人としての心構え等を学び、学生自らの職業観や将来像を確立するするために、診療放射線学や医療コミュニケーションに関する講義、フリートーク、グループワークを通して、自らの診療放射線技師像を育み、専門基礎分野、専門分野の学習の学ぶ意義と医療における知識と理解を明確にする。また、生涯にわたり、専門分野を探究しその発展に貢献する意欲をもつこと。</p> <p>またグループ・ディスカッションを通して他者との共同作業を経験し、保健医療分野での諸課題を見出し、科学的な洞察による判断ができることを目的とする。【実践・探求・研究】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療放射線技師の職務内容と職域が説明できる。</li> <li>2. 理診療放射線技師を目指す学生として必要な社会的な礼節およびコミュニケーションをもって行動できる。</li> <li>3. 自らの診療放射線技師像を説明することができる。</li> <li>4. 放射線学を学ぶことに興味を持ち、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を示すことができる。</li> </ol>	
関連科目	<p>大学の学び入門 すべての専門基礎分野、専門分野の科目</p>	
成績評価方法・基準	<p>提出課題 (50%)、グループ・ディスカッション (GD)、グループワーク (GW)の活動状況 (20%)、発表点 (30%)の総合点による評価</p> <p>レポート課題の評価等は、希望者にはオフィスアワー時にお知らせします。なお、レポート提出をAAで行うため、レポート返却は行いません。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前の情報収集・学修 (60分)、事後学修とレポート作成 (60分)</p>	
教科書・参考書	<p>教科書:診療放射線技師プロフェッショナルガイド 東村享治 文光堂</p>	
オフィス・アワー	<p>各教員ともに、事前予約にて実施。</p> <p>単位認定者(s-hoshino@paz.ac.jp)事前にE-mailにて予約すること</p>	
国家試験出題基準	<p>3.1.1.A`C, 3.6.1`3</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>グループディスカッション・グループワークでは、インターネットによる情報検索、プレゼンテーション資料作成を行うので、学内Wifiに接続可能なPCを持参すること。</p>	

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：1R039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
土屋 仁	矢島 正栄	中 徹	古田島伸雄
	大濱和也	早川有子	

授業形態	講義15コマ	担当者
授業計画	第1回 医療における法的責任	土屋 仁
	第2回 緊急時における脳の診断	土屋 仁
	第3回 医療における技術の発生とチーム医療	大濱 和也
	第4回 チーム医療と適正・安全治療	大濱 和也
	第5回 チーム医療における臨床工学技士の役割	大濱 和也
	第6回 看護師・保健師・助産師とは 看護師・保健師・助産師の職務と職域	矢島 正栄
	第7回 看護師・保健師・助産師の仕事 看護師・保健師の仕事の実際を知る	矢島 正栄
	第8回 看護師・保健師・助産師の仕事 助産師の仕事の実際	早川有子
	第9回 理学療法士とは－職務と職域を知る	中 徹
	第10回 理学療法士の仕事の実際を知る	中 徹
	第11回 学療法士とチーム医療について	中 徹
	第12回 臨床検査技師とは－職務と職域を知る	長田 誠
	第13回 臨床検査技師の仕事の実際を知る	長田 誠
	第14回 臨床検査技師とチーム医療について	長田 誠
	第15回 放射線・放射能のマネジメント	土屋 仁
科目の目的	医療は複数の職種がそれぞれの専門性を全うし、かつ相互に協力し合って行われて人間を守る行為であるというチーム医療論を理解する。 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解能力を高めること」を目的とした科目である。	
到達目標	①各医療専門職の職務と職域が説明できる ②各医療専門職の具体的な仕事内容を知ることができる ③自らの専門職と他専門職との連携について考えることができる	
関連科目	大学の学び入門	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習として、学科の職種におけるチームワーク医療、および各回の他の学科の職種について事前に下調べを30分程度で行うこと。復習として、理解し得た事項を箇条書きにしてノートにまとめておくこと（30分程度）。	
教科書・参考書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。	
オフィス・アワー	藤田先生は講義終了後の時間に対応可 大濱先生は月曜日～木曜日の午後（16:00～18:00）研究室にて対応可 中先生は月曜日12:15～15:00 土屋先生は随時相談可能 矢島先生は随時相談可能	
国家試験出題基準	特に該当しない	
履修条件・履修上の注意	最初2コマと最後1コマが学科のチーム医療論で、残りは3コマずつ他学科の職種理解とチーム医療の話です。最終回の1コマでレポート課題が出されますので、全ての講義をよく聴いて受講してください。	

講義科目名称：解剖学Ⅰ

授業コード：1R040

英文科目名称：AnatomyⅠ

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 序論 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織	浅見知市郎
	第2回 序論 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語	浅見知市郎
	第3回 骨格系 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節	浅見知市郎
	第4回 骨格系 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔	浅見知市郎
	第5回 骨格系 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨	浅見知市郎
	第6回 骨格系 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨	浅見知市郎
	第7回 筋系 筋の構造と機能 頭頸部の筋	浅見知市郎
	第8回 筋系 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋	浅見知市郎
	第9回 筋系 脈管系 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋 血管系総論	浅見知市郎
	第10回 脈管系 心臓 刺激伝導系 心臓の血管(冠状動脈) 肺循環と体循環	浅見知市郎
	第11回 脈管系 動脈系 静脈系	浅見知市郎
	第12回 脈管系 胎生時の循環系 リンパ系(リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺	浅見知市郎
	第13回 脈管系 消化器系 血液・血球・造血組織 粘膜 腺 歯	浅見知市郎
	第14回 消化器系 口蓋 舌 唾液腺 咽頭	浅見知市郎
	第15回 消化器系 食道 胃	浅見知市郎
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる人体解剖学の総論・骨格系・筋系・脈管系・口腔から胃までの消化器系の構造を習得する。【知識・理解・思考】	
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。	
関連科目	解剖学Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。	
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特に無し	
オフィス・アワー	講義終了後の休み時間に教室で質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。	
国家試験出題基準	【診療放射線技師】 《専門基礎分野》-1-1-A-a, b, c, d B-a, b, c C-a, b, c 2-A-aB-a, b C-a, b, c, d 4-A-a, b, c, d B-a 6-A-a, b, c, d, e B-a, b 7-A-a, b B-a 8-A-a, b	
履修条件・履修上の注意	Active Academy配付期間：講義の1週間前から学期末まで。	

講義科目名称：解剖学Ⅱ

授業コード：1R041

英文科目名称：Anatomy II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 消化器系 小腸（十二指腸 空腸・回腸） 大腸 肝臓	浅見知市郎
	第2回 消化器系 呼吸器系 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔	浅見知市郎
	第3回 呼吸器系 咽頭 喉頭 気管 気管支 肺	浅見知市郎
	第4回 泌尿器系 生殖器系 腎臓 尿管 膀胱 尿道 精巣・精巣上体	浅見知市郎
	第5回 生殖器系 精管 精嚢と前立腺 陰茎 精液と精子 卵巣 卵管 子宮 胎盤 膣と外陰部	浅見知市郎
	第6回 腹膜 内分泌系 腹膜 下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島	浅見知市郎
	第7回 神経系 神経系の構成 中枢神経系（脊髄 延髄と橋 小脳 中脳）	浅見知市郎
	第8回 神経系 間脳 大脳	浅見知市郎
	第9回 神経系 脳の血管 脳室と脳脊髄膜	浅見知市郎
	第10回 神経系 末梢神経（脳神経 脊髄神経）	浅見知市郎
	第11回 神経系 脊髄神経 自律神経系（交感神経 副交感神経）	浅見知市郎
	第12回 神経系 感覚器系 伝導路 視覚器（眼球）	浅見知市郎
	第13回 感覚器系 視覚器（眼球の付属器） 平行聴覚器（外耳 中耳 内耳）皮膚 角質器	浅見知市郎
	第14回 感覚器系 発生学 皮膚の腺 受精から着床 発生の第2週・第3週	浅見知市郎
	第15回 発生学 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生	浅見知市郎
科目の目的	医療技術者としての基本となる消化器系（腸・肝・胆・膵）、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に関する解剖学と発生学の知識を習得する。【知識・理解・思考】	
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。人体の発生過程を説明でき、各臓器・器官の由来胚葉を知っている。	
関連科目	解剖学Ⅰ	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。	
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特に無し	
オフィス・アワー	講義終了後の休み時間に教室で質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。	
国家試験出題基準	【診療放射線技師】 ≪専門基礎分野≫-1-7-B-b C-a, b D-a, b, c 5-A-a, b, c, d B-a C-a, b 9-A-a, b, c, d B-a, b 10-A-a, b, c B-a, b, c C-a, b, c 11-A-a, b, c, d 12-A-a B-a, b C-a D-a E-a 13-A-a, b B-a C-a	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。	

講義科目名称：生理学 I

授業コード：1R042

英文科目名称：Physiology I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岩崎 信一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官 第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達 第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮 第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節 第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム 第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能	岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー【知識・理解・思考】に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	解剖学 I・II、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.5+期末試験の点数×0.5 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)	
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義日の12:10~12:50(非常勤講師室にて)	
国家試験出題基準	1-1-1-A-b, c, d 1-1-1-D-a 1-1-2-A-a 1-1-2-B-b 1-1-4-B-a 1-1-10-A-a, c 1-1-10-B-a 1-1-10-C-a, b, c 1-1-12-B-a, b 1-1-12-C-a 1-1-12-D-a 1-1-12-E-a	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：生理学Ⅱ

授業コード：1R043

英文科目名称：Physiology II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岩崎 信一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1・2回 内分泌系の機能 ホルモン的一般的特徴、内分泌器官の機能 第3-5回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節 第6・7回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節 第8・9回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み 第10・11回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節 第12・13回 血液の生理学 血液の組成とその機能 第14・15回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム	岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一 岩崎 信一
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー【知識・理解・思考】に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.5+期末試験の点数×0.5 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)	
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義日の12:10~12:50(非常勤講師室にて)	
国家試験出題基準	1-1-3-A-a, b 1-1-5-A-a, d 1-1-5-C-a, b 1-1-6-A-a, b, c, d, e 1-1-7-A-b 1-1-7-B-a, b 1-1-7-C-a, b 1-1-8-A-b 1-1-9-A-a, b, c, d 1-1-11-A-a, b	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：病理学

授業コード：1R044

英文科目名称：General Pathology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
田村 遵一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 序論 病理学とは 病因論 内因外因。公害病と医原病。疾病の分類。</p> <p>第2回 先天異常 奇形。奇形の種類。遺伝の関与。遺伝異常による疾患。遺伝性疾患の診断と治療。</p> <p>第3回 代謝異常1 細胞の障害と適応。変性。壊死とアポトーシス。細胞の適応。</p> <p>第4回 代謝異常2 物質沈着による細胞障害。脂質代謝異常と疾患。タンパク質代謝異常と疾患。</p> <p>第5回 代謝異常3 糖代謝異常と疾患。有機質、無機質代謝の異常と疾患。</p> <p>第6回 循環障害1 循環器系 循環血液量の異常。充血うっ血、出血虚血、ショック。</p> <p>第7回 循環障害2 閉塞性の循環障害。血栓症。播種性血管内凝固。塞栓症。側副循環とは。リンパ系の疾患。</p> <p>第8回 炎症と免疫、膠原病1 炎症。炎症の原因、経過、治療。創傷治癒。炎症の各型。</p> <p>第9回 炎症と免疫、膠原病2 免疫とアレルギー。自然免疫系と適応免疫系。免疫担当細胞。抗体と補体。能動免疫と受動免疫。</p> <p>第10回 炎症と免疫、膠原病3 免疫不全。先天性免疫不全。HIV感染症。移植と自己免疫。主要組織適合複合体。膠原病。</p> <p>第11回 腫瘍1 腫瘍の定義と分類。異型度、分化度、悪性度。悪性腫瘍の転移と進行度。</p> <p>第12回 腫瘍2 腫瘍の発生病理。腫瘍の発生原因。がん発生の外因、内因。</p> <p>第13回 腫瘍3 悪性腫瘍の診断、治療、予防。</p> <p>第14回 老化と死 老化とは？ 死とは？</p> <p>第15回 病理検査 病理検査の意義。細胞診、組織診。手術時の迅速診断。病理解剖。病理組織、細胞診の作製過程。</p>	<p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p>
科目の目的	<p>放射線学には、疾患・病気に対する臨床的知識と理解が必要とされる。実臨床へ関わるには、画像を含む診断に至るすじ道について学ぶことは大切であり、その一助として、疾患の原因・経過および結果を追及し形態機能的変化を明らかにする病理学を総論的に学ぶ。先天異常、代謝異常、循環異常、炎症、腫瘍という病因の五大カテゴリーと、老化と死についても概略を学ぶ。関連科目の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。到達度は試験により判定する。 【知識・理解・思考】</p>	
到達目標	<p>病理学的な分野の基礎事項に関して、放射線学に必要な内容の理解と知識を得る。</p>	
関連科目	<p>生化学 解剖学Ⅰ、Ⅱ 生理学Ⅰ、Ⅱ 病理学 薬理学</p>	
成績評価方法・基準	<p>試験（100%）</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回の講義内容を復習し重要事項を理解する。講義前に配布予定の授業資料を参照し、講義内容を把握しておく。0.5時間</p>	
教科書・参考書	<p>参考書：シンプル病理学 改訂第7版 南江堂 入門人体解剖学 改訂第5版 南江堂</p>	
オフィス・アワー	<p>講義の前後 場所：講義室</p>	
国家試験出題基準	<p>1. 人体の構造と機能および疾病の成り立ち 2. 臨床医学の基礎 病態の基礎 疾病と障害の基礎</p>	

履修条件・履修上の注意	60%以上の理解度達成をもって、履修完了と認定する。
-------------	----------------------------



講義科目名称：薬理学

授業コード：1R045

英文科目名称：Pharmacology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
栗田 昌裕			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 薬理学とは 薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。	栗田昌裕
	第2回 薬物動態 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。	栗田昌裕
	第3回 麻酔薬と中枢興奮薬 全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬。	栗田昌裕
	第4回 解熱鎮痛薬・抗炎症薬と麻薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	栗田昌裕
	第5回 向精神薬と抗痙攣薬 向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬 筋弛緩薬の作用と応用。パーキンソン症候群の理解と抗パーキンソン薬の作用。	栗田昌裕 栗田昌裕
	第6回 自律神経薬 自律神経の基礎知識。 コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬。 アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。	栗田昌裕
	第7回 オータコイド オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。	栗田昌裕
	第8回 強心薬 強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。 抗狭心症薬と抗不整脈薬 狭心症治療薬の作用と投与方法。不整脈の分類と治療。抗不整脈薬の種類。	栗田昌裕 栗田昌裕
	第9回 利尿薬と降圧薬 利尿薬。利尿薬の臨床的応用。降圧薬。抗動脈硬化薬。	栗田昌裕
	第10回 消化器病薬と駆虫薬 消化性潰瘍治療薬。健胃・消化薬。消化管運動促進薬。 制吐薬。下痢と止痢薬。潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬。駆虫薬。	栗田昌裕
	第11回 呼吸器病薬 呼吸器病薬。抗結核薬。	栗田昌裕
	第12回 内分泌薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	栗田昌裕
	第13回 血液病薬と抗癌薬 貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 抗癌薬の開発と化学療法。抗癌薬の副作用と組み合わせ。	栗田昌裕
	第14回 化学療法薬と免疫療法薬 化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。	栗田昌裕
	第15回 消毒薬 滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。	栗田昌裕
科目の目的	ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保健医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする科目である。具体的には、医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。	
到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、診療放射線技師に必要とされるレベルに到達することを目標とする。	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	試験（100％）。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約1時間。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」（医学書院）。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み。
国家試験出題基準	【診療放射線技師】
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

講義科目名称：生化学

授業コード：1R046

英文科目名称：Biochemistry

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 鮎子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割ついて生化学的な視点から解説する。	木村鮎子
	第2・3回 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、糖代謝と病態との関係を解説する。	木村鮎子
	第4-6回 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。	木村鮎子
	第7・8回 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。	木村鮎子
	第9回 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ 核酸の構造や性質を解説する。また、DNA の翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。	木村鮎子
	第10・11回 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。	木村鮎子
	第12・13回 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体内で必要不可欠なミネラルの種類、欠乏症、過剰症について概説する。	木村鮎子
	第14回 ホメオスタシスとホルモン ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。	木村鮎子
	第15回 免疫の生化学 生体内の化学成分がどのように免疫システムに関与しているのかを解説する。	木村鮎子
	科目の目的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を有する医療人の育成を目指す。【知識・理解・思考】
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように関係しているのかを理解する。	
関連科目	医学概論、臨床生化学	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。	
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂） イメージできる生化学・栄養学（MC メディカ出版）	
オフィス・アワー	講義終了後教室または研究室にて質問を受け付ける 質問は E-mail (ay-kimura@paz.ac.jp) でも随時受け付ける	
国家試験出題基準	≪人体の構造と機能および疾病の成り立ち≫— I-1-A-a, ≪人体の構造と機能および疾病の成り立ち≫— I-2-A-a, ≪人体の構造と機能および疾病の成り立ち≫— I-2-B-b, ≪人体の構造と機能および疾病の成り立ち≫— I-11-A-d,	

履修条件・履修上の注意	特になし
-------------	------

講義科目名称：公衆衛生学

授業コード：1R047

英文科目名称：Public Health

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 博一	木村 朗		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 公衆衛生学総論・新型コロナウイルス感染症の概要 公衆衛生学・新型コロナウイルス感染症の概要について講義する。	木村博一
	第2回 感染症疫学総論 感染症疫学について概説する。	木村博一
	第3回 感染症各論 結核、エイズならびに新興再興感染症について概説する。	木村博一
	第4回 疫学総論（集団の健康と疾病の概念） 疫学概要、記述疫学、分析疫学ならびにコホート研究について概説する。	木村 朗
	第5回 疫学各論（疫学の方法） 系統誤差・偶発誤差、因果関係論ならびに保健統計について概説する。	木村 朗
	第6回 生活習慣病総論（ライフスタイルと健康） NCDの概要、動脈硬化性疾患、予防ならびに健康教育について概説する。	木村 朗
	第7回 親子保健（発達・成長と健康） 親子保健（発達・成長と健康）の概要と課題について概説する。	木村 朗
	第8回 労働衛生・産業保健の概要 社会・環境と健康の概要と課題について概説する。	木村 朗
	第9回 健康危機管理（1） 食品衛生・食の安全について概説する。	木村博一
	第10回 健康危機管理（2） 感染症発生時や災害時の対応について概説する。	木村博一
	第11回 院内感染対策概説 院内感染の現状と対策について概説する。	木村博一
	第12回 成人保健概説 精神保健や自殺対策について概説する。	木村 朗
	第13回 生活環境・環境と健康・地球温暖化 生活環境・環境と健康・地球温暖化などの諸問題について概説する。	木村 朗
	第14回 保健医療行政概説 地域包括ケアシステムを含む保健医療行政について概説する。	木村 朗
	第15回 がんの統計と疫学 がん対策・がん登録について概説する。	木村 朗
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。各種疾患対策、環境対策と統計、疫学、健康教育、試験検査が織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。	
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、情報処理	
成績評価方法・基準	定期試験（期末試験）100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり2時間	
教科書・参考書	【教科書】 「社会・環境と健康 公衆衛生学 2021年版」柳川 洋、尾島 俊之 編集（医歯薬出版） 【教科書】 「身体活動学入門」木村 朗（三共出版）	
オフィス・アワー	講義の前後（木村博一・木村朗） e-mail（木村博一）：h-kimura@paz.ac.jp e-mail（木村朗）：a-kimura@paz.ac.jp	
国家試験出題基準	専門基礎分野 3. 社会医学 1-A-a, 1-B-abcd, 1-C-ab, 1-D-abc 2-A-ab, 2-B-abc, 2-C-ab 3-A-ab, 3-B-ab 4-A-abc, 4-B-a, 4-C-a	
履修条件・履修上		



講義科目名称：内科学

授業コード：1R048

英文科目名称：Internal Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
岩崎 俊晴			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 概論1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。</p> <p>第2回 概論2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。</p> <p>第3回 消化器疾患1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。</p> <p>第4回 消化器疾患2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。</p> <p>第5回 呼吸器疾患1 感染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業界呼吸器疾患。</p> <p>第6回 呼吸器疾患2 突発性間質性肺炎。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。</p> <p>第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。</p> <p>第8回 循環器疾患1 心不全。不整脈。</p> <p>第9回 循環器疾患2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。</p> <p>第10回 循環器疾患3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。</p> <p>第11回 内分泌・代謝疾患1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。</p> <p>第12回 内分泌・代謝疾患2 糖代謝異常（糖尿病、低血糖）</p> <p>第13回 内分泌・代謝疾患3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。</p> <p>第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。</p> <p>第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。</p>	<p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p> <p>岩崎</p>
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。【知識・理解・思考】	
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、病理学、生理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	授業内での口頭試問または小テスト（50%）及び授業内でのレポート（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭にいれておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。	
教科書・参考書	参考書：「病気が見える」シリーズ 教科書なし	
オフィス・アワー	講義の後20分ほど学内に滞在している。講義した内容に質問があれば出席表を利用する。	
国家試験出題基準	≪専門基礎≫-I-1-1~13 ≪専門基礎≫-I-2-1~4 ≪専門基礎≫-I-3-1~4	

履修条件・履修上の注意	特になし。
-------------	-------



講義科目名称：看護技術論

授業コード：1R049

英文科目名称：Nursing Skills

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 英子	矢島正榮 西川薫	中島久美子 堀越政孝	萩原一美 堀込由紀
	清水美和子 内山かおる	山野えり子 長嶺めぐみ	

授業形態	講義(15回)	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス / 看護の役割とコミュニケーション 本科目の目的・目標、学習内容・方法について理解する。 保健・医療・福祉における看護の役割について学習する。また、対象とのコミュニケーションの在り方について学習する。	萩原英子 萩原一美
	第2回 感染管理とは 感染管理の考え方及びスタンダードプリコーションについて学習する。	長嶺めぐみ
	第3回 全身状態のアセスメントと異常の早期発見 バイタルサインとは何か、バイタルサインを測定する意義について学習する。	堀込由紀
	第4回 成人期(急性期)にある人の特徴と看護 急激な健康破綻をきたした人の特徴とその看護支援について学習する。	萩原英子
	第5回 成人期(慢性期)にある人の特徴と看護 慢性疾患と共に生きる人の特徴とその看護支援について学習する。	堀越政孝
	第6回 老年期にある人の特徴と看護 老年期にある人の特徴を踏まえ、高齢者とその家族に対する看護支援について学習する。	清水美和子
	第7回 ボディメカニクスの理解と移乗・移動の援助 ボディメカニクス及びポジショニングについて学習する。	清水美和子
	第8回 精神疾患を持つ人の特徴と看護 こころの健康問題を持つ人の特徴を踏まえ、その看護支援について学習する。	西川 薫
	第9回 妊産褥婦及び新生児の特徴と看護 妊産褥婦及び新生児の特徴を踏まえ、妊産褥婦及び新生児に対する看護支援について学習する。	中島久美子
	第10回 小児期の特徴と看護 小児の成長・発達の特徴を踏まえ、小児とその家族に対する看護支援について学習する。	内山かおる
	第11回 在宅で療養する人の特徴と看護 健康問題や障がいを抱えながら、在宅で暮らしている人々の特徴を踏まえ、在宅療養者とその家族に対する看護支援について学習する。	山野えり子
	第12回 地域で暮らす人々の健康を守る看護 人々の疾病を予防し、健康増進を図るための看護支援について学習する。	矢島正榮
	第13回 災害における看護 災害における健康障害と保健活動について学習する。	矢島正榮
	第14回 救急の場における看護 我が国の救急医療体制及び救急患者・家族の特徴について学習する。 また、一次救命処置及び自動体外式除細動器の取り扱いについて学習する。	萩原英子
	第15回 放射線治療を受ける患者の看護 放射線治療を受ける患者の特徴と看護支援について学習する。	萩原英子
科目の目的	診療放射線技師に求められる、対象の安全・安楽を保障する援助技術について考察するために、看護学概念や看護の基本的役割、対象のライフサイクル各時期における特徴を踏まえた支援の在り	

	方について理解する。 (ディプロマポリシーとの関連：【技能・表現】【思考・判断】【知識・理解】【態度】)
到達目標	1. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について説明することができる。 2. 人間のライフサイクル各時期における身体的・精神的・社会的特徴を説明することができる。 3. 対象の安全・安楽に配慮した基本的看護技術について説明することができる。 4. 診療放射線技師として、患者が安全・安楽に検査・治療が受けられるための支援方法を検討することができる。
関連科目	心理学、他職種理解と連携、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学
成績評価方法・基準	各回の課題またはミニッツペーパー(75%)、期末レポート(25%) ※各回の課題またはミニッツペーパーについては、各回5点満点とし、全15回実施する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は45分である。各講義終了後には復習として、配布された資料を見ながら、しっかり理解できたか確認すること。
教科書・参考書	特に指定しない。講義において必要な資料は当日配布する。
オフィス・アワー	各講義担当教員：授業開講日の12:10～13:00
国家試験出題基準	【診療放射線技師】 I-1-1-D-a、I-1-6-A-d、I-1-13-C-a、I-2-1-E-e、I-2-2-L-c、I-3-2-A-a、b、 I-3-2-B-c、I-3-2-C-a、b、I-3-4-A
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習や課題等)は禁止する。

講義科目名称：臨床心理学

授業コード：1R050

英文科目名称：Clinical Psychology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
鎌田 依里			

授業形態	講義（13コマ）、演習（2コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。	鎌田依里
	第2回	無意識の心理学（1）精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	鎌田依里
	第3回	無意識の心理学（2）分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析	鎌田依里
	第4回	クライエント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライエント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライエント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件	鎌田依里
	第5回	臨床心理アセスメント（1） 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。 key words：面接法、観察法、検査法	鎌田依里
	第6回	神経発達症／神経発達障害（1） 平成19年に全国で特別支援教育が開始され、ここ数年で発達障害に対する理解が急速に広まりつつある。本講義では3つの代表的な発達障害の中からAD/HD・SLDの2つと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴と支援について学び、理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、SLD、知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）、特別支援教育	鎌田依里
	第7回	神経発達症／神経発達障害（2） 前回に続き、発達障害について学習する。本講義では3つの代表的な発達障害の最後の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学び、太田ステージ理論に基づく支援について理解を深める。 key words：自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育	鎌田依里
	第8回	こころの問題を理解する（1）「不安症／不安障害（神経症）」 不安症／不安障害（神経症）は主に心理的原因によって生じる心身の機能障害の総称であり、精神病とは異なる。本講義では不安症の種類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：分離不安症、選択制緘黙、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、広場恐怖症、全般不安症	鎌田依里

	<p>第9回 こころの問題を理解する（2）「身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害」神経症（ノイローゼ）の一類型として扱われていた「ヒステリー」は、DSM-III以降、ヒステリー概念が排除されたために、「転換ヒステリー」が「身体表現性障害」に、「解離性ヒステリー」は「解離性障害」として改められた。更に、DSM-5では「身体表現性障害」は「身体症状症」に、「解離性障害」は「解離症」に改められた。本講義では両者の下位分類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：身体症状症、転換性障害、病気不安症、解離性健忘、解離性同一症、離人感・現実感消失症</p> <p>第10回 こころの問題を理解する（3）「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害とは、思考・感情・行動などのパターンが平均から著しく逸脱し、社会生活や職業生活に支障をきたしている状態を指し、正常な状態とは言えないが病気であるとも言えない状態である。本講義ではパーソナリティ障害の分類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：猜疑性／妄想性パーソナリティ障害、シゾイド／スキゾイドパーソナリティ障害、統合失調型パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、反社会性パーソナリティ障害、回避性パーソナリティ障害、依存性パーソナリティ障害、強迫性パーソナリティ障害</p> <p>第11回 こころの問題を理解する（4）「気分障害」 DSM-IV-TRでは、気分障害とは感情が正常に機能しなくなった状態を指す。人は誰でも気分の浮き沈みを経験するが、気分障害においては、その浮き沈みの程度や期間が著しく、睡眠障害などの身体症状も現れる。本講義では気分障害の種類とその支援方法について学び、理解を深める。 key words：双極Ⅰ型障害、双極Ⅱ型障害、うつ病／大うつ病性障害</p> <p>第12回 こころの問題を理解する（5）「統合失調症」 統合失調症は、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患である。それに伴って、人々と交流しながら家庭や社会で生活を営む機能が障害を受け（生活の障害）、「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすい（病識の障害）という特徴を併せもっている。本講義では統合失調症の類型と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：緊張型、解体（破瓜）型、妄想型</p> <p>第13回 臨床心理アセスメント（2）質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words：質問紙法、POMS2</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント（3）描画法 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words：描画法、風景構成法</p> <p>第15回 総括 これまでの講義を通して学んだ知識や身に着けた技法について振り返り、自らの専門にどのように活かしていくかを検討する。</p>	<p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p> <p>鎌田依里</p>
<p>科目の目的</p>	<p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー：【思考・判断】</p>	
<p>到達目標</p>	<p>1. 臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成することができる。</p> <p>2. 人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。</p> <p>3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得し、対人支援に活用することができる。</p> <p>4. 治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法について理解を深め、患者と良好な関係を築けるようになる。</p>	
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学、教育学、教育心理学、生命倫理、哲学、人間と宗教、社会学、生活文化と医療、大学の学び入門、大学の学び—専門への誘い—、多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生学、看護技術論、医療統計学</p>	
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験（レポート形式・70%）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（30%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>	
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p> <p>講義資料は、講義の前日までにActive Academyにて配布するので、各自ダウンロードしておくこと。</p>	
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 下山晴彦編著（2009）「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房</p>	

	山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書
オフィス・アワー	月・火・水・金の昼休み（4号館8階研究室）
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

講義科目名称：画像診断学 I

授業コード：1R051

英文科目名称：Image Diagnostics I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	須藤高行	高橋綾子	平澤裕美
	対馬義人	熊坂創真	勝又奈津美、小山佳成

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴	加藤英樹
	第2回 検査法の基本 1：検査に係る事項の復習と診断過程の概要	須藤高行
	第3回 頭部の画像診断 1：解剖と生理学の復習	高橋綾子
	第4回 骨盤の画像診断 1：解剖、生理的变化、頻度の高い臨床上重要な疾患	平澤裕美
	第5回 造影剤 1：ヨード造影剤	対馬義人
	第6回 上腹部の画像診断 1：解剖の復習・肝胆道	対馬義人
	第7回 核医学診断 1：核医学の基本的検査	加藤英樹
	第8回 胸部の画像診断 1：病態から学ぶ解剖と重要疾患	熊坂創真
	第9回 骨軟部の画像診断 1：脊椎・脊髄疾患	勝又奈津美
	第10回 IVR 1：	小山佳成
	第11回 乳腺の画像診断 1：主にマンモグラフィー	加藤英樹
	第12回 消化管造影検査の画像診断 1：主に胃癌及び大腸癌	加藤英樹
	第13回 救急 1：外傷初期治療における画像診断の役割	加藤英樹
	第14回 心・大血管の画像診断 1：心疾患の画像診断と各モダリティの役割	加藤英樹
	第15回 科目全体の振り返りと総括 本科目で学んだ画像所見（典型症例）の振り返り	加藤英樹
科目の目的	本科目は、診療画像解剖学及び診療画像解析学で学んだ診療画像について、人体の内部構造がどのように抽出されるのかについて、画像診断学の立場から、正常画像と疾患を持つ画像とを対比させながら読影の補助として理解する。また読影において求められる、疾患の病態、原因、特徴について概要を合わせて理解する【知識・理解】	
到達目標	1 人体の内部構造がどのように放射線画像に描出されるのかを、画像解剖学で学んだ基礎的知識と関連づけて理解する。 2 放射線画像に描出される正常構造と異常とを対比して理解する。 3 診断や治療に必要な画像解剖と疾病の知識を学ぶ。	
関連科目	画像診断学Ⅱ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ、診療画像解析学Ⅰ・Ⅱ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ	
成績評価方法・基準	期末試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の予習60分、講義後の復習60分	
教科書・参考書	教科書：「画像診断コンパクトナビ」百島祐貴（医学教育出版社） 参考書：「読影の基礎第4版」読影の基礎編集委員会（共立出版社） 参考書：「ポケット正常画像A to Z」後閑武彦（メジカルビュー社）	
オフィス・アワー	加藤：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。	
国家試験出題基準	《専門基礎》－Ⅰ	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：画像診断学Ⅱ

授業コード：1R052

英文科目名称：Image Diagnostics II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	須藤高行	対馬義人	高橋綾子
	平澤裕美	熊坂創真	勝又奈津美、小山佳成

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴	加藤英樹
	第2回 検査法の基本 2：検査目的に準じた画像作成から画像診断までの概要	須藤高行
	第3回 造影剤 2：ガドリニウム造影剤・超音波造影剤	対馬義人
	第4回 上腹部の画像診断 2：膵臓・消化管・腎臓・副腎	対馬義人
	第5回 頭部の画像診断 2：臨床的に重要な病態／疾患	高橋綾子
	第6回 骨盤の画像診断 2：画像診断学Iで説明した病名の画像診断	平澤裕美
	第7回 核医学診断 2：核医学検査の役割と代表的な疾患	加藤英樹
	第8回 骨軟部の画像診断 2：骨関節疾患	勝又奈津美
	第9回 胸部の画像診断 2：画像で学ぶ解剖と重要疾患	熊坂創真
	第10回 IVR 2：	小山佳成
	第11回 乳腺の画像診断 2：乳癌の画像診断と各モダリティの役割	加藤英樹
	第12回 診断レポートの成り立ち：画像診断レポートの役割と構造	加藤英樹
	第13回 診断レポートの成り立ち：病期分類	加藤英樹
	第14回 救急 2：救急で遭遇する病態／疾患	加藤英樹
	第15回 科目全体の振り返りと総括 本科目で学んだ画像所見（典型症例）の振り返り	加藤英樹
科目の目的	本科目は、診療画像解剖学及び診療画像解析学で学んだ診療画像について、人体の内部構造がどのように抽出されるのかについて、画像診断学の立場から、正常画像と疾患を持つ画像とを対比させながら読影の補助として理解する。また読影において求められる、疾患の病態、原因、特徴について概要を合わせて理解する【知識・理解】	
到達目標	1 人体の内部構造がどのように放射線画像に抽出されるのかを、画像解剖学で学んだ基礎的知識と関連づけて理解する。 2 放射線画像に描出される正常構造と異常とを対比して理解する。 3 診断や治療に必要な画像解剖と疾病の知識を学ぶ。	
関連科目	画像診断学Ⅰ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ、診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の予習60分、講義後の復習60分	
教科書・参考書	教科書：「画像診断コンパクトナビ」百島祐貴（医学教育出版社） 参考書：「読影の基礎第4版」読影の基礎編集委員会（共立出版社） 参考書：「ポケット正常画像A to Z」後閑武彦（メジカルビュー社）	
オフィス・アワー	加藤：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。	
国家試験出題基準	《専門基礎》－Ⅰ－6－A～C	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：医療基礎生物学

授業コード：1R053

英文科目名称：Basic Biology in Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
原 孝光			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 人体を構成する物質 生体を構成する元素：酸素、炭素、水素、窒素 生体を構成する物質：糖質、脂質、タンパク質とアミノ酸、核酸	原孝光
	第2回 細胞の構造と機能 ・細胞膜 ・細胞小器官 ・細胞内構造体 ・細胞骨格と細胞の運動	原孝光
	第3回 エネルギー代謝 ・異化と同化 ・ATP ・酵素 ・解糖系とクエン酸回路 ・酸化リン酸化 ・脂質の分解	原孝光
	第4回 動物の組織 ・上皮組織と結合組織 ・骨格筋の構造 ・筋収縮機構 ・筋肉におけるエネルギー代謝 ・血液の組成	原孝光
	第5回 動物の器官 ・消化系：消化と吸収、肝臓と膵臓 ・循環系：心臓、血管系とリンパ系 ・呼吸系：肺とガス交換 ・排出系：腎臓とその働き ・感覚系：目、耳、その他	原孝光
	第6回 動物の器官・神経系 ・脳の構造と役割 ・末梢神経系 ・自律神経系 ・ニューロンと情報伝達：ニューロンの構造、活動電位、シナプス	原孝光
	第7回 ホルモンと生体調節 ・生体の調節とホルモン ・ホルモンの種類とその作用 ・ホルモンによる恒常性の維持 ・細胞調節因子	原孝光
	第8回 免疫 ・自然免疫：外的防御、内的防御、異物認識と応答 ・獲得免疫：体液性免疫と抗体、細胞性免疫 ・医学における免疫	原孝光
科目の目的	人体機能の理解に必要な生物学の基礎知識を修得する。前半は、生体を構成する物質、細胞の構造と機能などの微生物学を学び、後半は、動物の組織と器官、個体の調節、生体防御などマクロ生物学を学ぶ。本講義を通して、細胞生物学から人体生理学への橋渡しを行うとともに、生物学、解剖学、生理学の各科目の学修内容と合わせて、人体の構造と機能を総合的に理解できるようにする。【知識・理解・思考】	
到達目標	1, 生体を構成する物質の種類と特徴について説明できる。 2, 細胞の構造と機能について説明できる。 3, エネルギー代謝の種類と仕組みについて説明できる。 4, 組織の種類と筋肉の収縮について説明できる。 5, 動物の器官の種類と主な役割について説明できる。 6, 神経系の種類とニューロンの働き、情報伝達について説明できる。 7, ホルモンの種類と恒常性の維持の仕組みについて説明できる。 8, 免疫の種類と機能について説明できる。	
関連科目	生物学A・B、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ	



成績評価方法・基準	到達目標1～8：定期試験（70％）、レポート・小テスト（30％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布する資料に目を通し、不明点は各自で下調べをしてから授業に臨むこと。講義科目では、各回の講義に対して講義時間の2倍の授業外学修（自己学習）が必要となる。各講義は2時間と見做すため、各回の講義に必要な予習復習時間は4時間となる。本講義は、7.5回分の講義で構成されることから、全体で30時間の授業外学修（自己学習）を行うようにすること。
教科書・参考書	教科：指定しない（必要な資料は別途配布する） 参考書：「医療・看護系のための生物学（改訂版）」田村隆明（裳華房）
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室） メール：thara@gchs.ac.jp
国家試験出題基準	《専門基礎》-I-1-1-A~I 《専門基礎》-I-1-2-A~G 《専門基礎》-I-1-3-A~F
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療基礎数学

授業コード：1R054

英文科目名称：Basic Mathematics in Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義：1-8回 演習：1-8回 全ての授業回とも講義と演習の併用	担当者
授業計画	<p>第1回 数と式、方程式 基本的な式の操作と数の体系について確認し、方程式の立て方について学ぶ。</p> <p>第2回 三角関数 三角関数の性質について学び、基本的な関数操作法、計算法を修得する。</p> <p>第3回 指数関数と対数関数 指数関数と対数関数の性質について学び、基本的な関数操作、計算法を修得する。</p> <p>第4回 テイラー展開とオイラーの公式 関数のテイラー展開とその応用（オイラーの公式）について学ぶ。</p> <p>第5回 微分法 微分とは何かを考え、基本的な関数の導関数の求め方を修得する。</p> <p>第6回 積分法 積分とは何かを考え、積分の計算法について理解する。</p> <p>第7回 微分方程式 微分方程式とは何かを検討し、初等的に解ける微分方程式の解法を修得する。</p> <p>第8回 現象の数式表現 自然現象や社会現象を数式で表現することの意義を理解し、立式方法について検討する。</p>	<p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p>
科目の目的	高等学校の数学履修をもとにして、初等的な関数の活用法と微分積分学の基礎を学ぶ。自然科学、社会科学的な現象を表現し理解するために必要な基礎数学的素養を身につける。意味内容の理解に重点を置くが、最小限必要の計算力や微分方程式の解法の技術も育成する。【知識・理解・思考】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初等関数への理解を深め、様々な現象について複素数で表現することの意味と使い方を理解する。</li> <li>2. 方程式で表現することの意義を理解し、初歩的な微分方程式について立式と解法を理解する。</li> </ol>	
関連科目	専門基礎科目群の医療理工学系科目	
成績評価方法・基準	定期試験80% レポート20%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	連続性の高い授業であるため、復習を十分に行うこと。 準備学習（復習）：2時間程度	
教科書・参考書	教科書：指定しない。必要な資料は配布する。 参考書：1「大学新入生のための数学入門 増補版」石村園子 共立出版 2 高校の教科書、参考書	
オフィス・アワー	火曜日 13：00～19：00。他の曜日についてはメール等で確認のこと。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：医療基礎化学

授業コード：1R055

英文科目名称：Basic Chemistry in Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
酒井 健一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 化学とは何か 元素と原子 化学学習のための基礎	酒井健一
	第2回 元素の性質と周期律 分子とは何か 元素の性質 分子と化学結合	酒井健一
	第3回 物質の三態 気体、液体、固体の化学	酒井健一
	第4回 化学平衡 化学反応速度 化学平衡 中和滴定 反応の種類と速度	酒井健一
	第5回 無機物質と有機物質 無機および有機物質の一般的性質と種類	酒井健一
	第6回 放射線の化学 基礎放射化学・用語の解説	酒井健一
	第7回 放射化学概論 放射化学・放射線物理学など	酒井健一
	第8回 医療基礎化学まとめ 放射化学における基礎化学の役割	酒井健一
科目の目的	診療放射線技師に必要な基礎化学を学ぶ。具体的には、元素と原子の性質、物質の態様、化学のルール、有機無機化学を学び、さらに放射線と放射化学の概要を学ぶ。【知識・理解・思考】	
到達目標	診療放射線技師に必要な基礎的の化学を学び、さらに進んだ専門科目を深く理解するための道具とする。本講義で学ぶ化学では、(1) 元素とその性質や特性などを理解し、(2) 化学的な法則、定義、規則などを学ぶことができる。さらにこれらの知識に立脚して(3) 放射化学学習の入口へ到達できる。	
関連科目	放射化学、医療基礎物理学	
成績評価方法・基準	試験(70%)、課題・出欠(30%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示された項目について、教科書を用いて予習、さらに前回学んだ項目の復習を行う。学習時間は2~3時間。	
教科書・参考書	教科書：「書名(大学で学ぶ化学・化学同人)」 著者：川瀬雅也・山川純次 参考書：「書名(生命を知るための基礎化学-分子の目線でヒトを見る・丸善出版)」 著者：川井正雄 上記のほか、必要に応じて自製のプリントを配布する。	
オフィス・アワー	木曜日 13:00-15:00	
国家試験出題基準	特になし。	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：医療基礎物理学

授業コード：1R056

英文科目名称：Basics of Medical Physics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線の定義と種類 講義の概要について説明し、放射線の定義（電離放射線、非電離放射線）、宇宙線、素粒子について学習する。	山崎真
	第2回 量子論 光子・電子の粒子性と波動性及び量子の考え方について学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第3回 特殊相対性理論 特殊相対論の概要について意味を理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第4回 原子の構造 ボーアの量子論の概要、原子の殻構造、パウリの排他原理について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第5回 質量欠損、結合エネルギー、原子核の安定性 質量欠損と結合エネルギーの関係を定量的に理解できるよう学習し、演習問題を学習する。	山崎真
	第6回 原子核の壊変、放射能、放射性壊変の法則 放射性壊変（崩壊）の法則と原子番号、質量数の変化との関係を理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第7回 $\alpha$ 壊変、 $\beta$ 壊変、 $\gamma$ 線放射 $\alpha$ 壊変（崩壊）、 $\beta$ 壊変、 $\gamma$ 線放射が起こる機構（メカニズム）について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第8回 放射平衡 放射平衡（過渡平衡、永続平衡）の原理及び核種とその特徴について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
科目の目的	原子核の構造と崩壊について学ぶ。また、放射能の起源でもある原子核の崩壊について学ぶ。 【知識・理解・思考】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原子、原子核の構造について説明できる</li> <li>2. ローレンツ変換の計算ができる。</li> <li>3. 質量欠損について説明できる</li> <li>4. 量子数について説明できる</li> <li>5. 物質波について説明するとともに、その波長を計算できる</li> <li>6. トンネル効果の理由を説明できる</li> <li>7. <math>\alpha</math>線、<math>\beta</math>線、<math>\gamma</math>線とX線の違いを説明できる</li> <li>8. 放射平衡、過渡平衡について説明できる</li> </ol>	
関連科目	放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、同演習、放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、同演習	
成績評価方法・基準	定期試験（90%）、授業内レポート（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習：授業で取り上げた事項について理解し、確実な知識とするための復習を行うこと。 学習時間：1時間程度	
教科書・参考書	教科書：「放射線物理学 改訂2版」柴田徳思，中谷儀一郎，山崎真（通商産業研究社）	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅱ-2-1~3	
履修条件・履修上の注意		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 直流回路とオームの法則 電荷、電位、受動素子、抵抗率などを理解し、オームの法則を使用して直流直列回路を計算できる。	齋藤 祐樹
	第2回 直流回路計算 並列回路と直並列回路計算ができる。	齋藤 祐樹
	第3回 キルヒホッフの法則と電力 連立方程式を用いて回路計算できる。また、電力、電力量の説明ができ計算できる。	齋藤 祐樹
	第4回 電流による磁界 磁界による電磁気現象でビオサバルの法則およびアンペールの周回路の法則を説明でき、各種コイルの磁界を計算できる。	齋藤 祐樹
	第5回 電磁誘導 変圧器の原理であるファラデーの法則を説明でき、誘導起電力等を計算できる。	齋藤 祐樹
	第6回 静電場現象 静電気による電磁気現象で電界を説明でき、静電場の諸量を計算できる。	齋藤 祐樹
	第7回 電荷と静電容量 コンデンサの直列、並列回路計算ができる。	齋藤 祐樹
	第8回 既出事項のまとめ 第1～7回までの範囲で中間試験を行う。	齋藤 祐樹
	第9回 正弦波交流 瞬時値および実効値、最大値、平均値、インピーダンスを説明でき、R回路、L回路、C回路計算ができる。また、直列回路の計算ができる。	齋藤 祐樹
	第10回 交流の直並列回路 アドミタンスを説明でき、直並列回路を計算できる。	齋藤 祐樹
	第11回 共振回路 共振現象について説明でき、直列共振、並列共振時の諸計算ができる。	齋藤 祐樹
	第12回 半導体の性質とダイオード 絶縁体、導体、半導体の性質を説明でき、PN接合ダイオードおよび各種ダイオードについて説明できる。	齋藤 祐樹
	第13回 トランジスタ バイポーラトランジスタ、電界効果トランジスタの特徴を説明できる。	齋藤 祐樹
	第14回 演算増幅器 各種演算増幅器について説明でき、計算できる。	齋藤 祐樹
	第15回 過渡現象 R-L回路およびR-C回路の過渡現象について説明でき、計算できる。	齋藤 祐樹
科目の目的	診療放射線技師が取り扱う機器や装置は電気・電子工学の理論が基礎となっている。診断用X線装置等の諸特性を理解するためにはこれらの知識が必要である。国家試験においても医用工学として電気・電子工学に関する問題が出題されており、この科目を導入として十分な実力を備えるように取り組んでいく。【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 直流回路の理論について説明でき、回路計算ができる。 2. 磁界による電磁気現象について説明でき、それらの事象について計算できる。 3. 電界による電磁気現象について説明でき、それらの事象について計算できる。 4. 交流回路の理論について説明でき、回路計算ができる。 5. 半導体の性質および各種ダイオード、トランジスタについて説明できる。 6. 演算増幅器について説明でき、回路計算ができる。 7. 過渡現象について説明できる。	
関連科目	医療放射線機器工学 I、医療放射線機器工学 II	
成績評価方法・基準	定期試験 (50%)、中間試験 (50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習、復習を行う。特に復習は最低1時間以上行うこと。	
教科書・参考書	教科書：医用工学「診療放射線技師スリム・ベーシック (メジカルビュー社) 編集福士政広	

	参考書：基本からわかる電気回路講義ノート（オーム社）西方正司 参考書：First Stage 電子回路概論（実教出版株式会社）高木茂孝 鈴木憲次ほか
オフィス・アワー	金曜 12時～
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-Ⅲ-1-A-a～d <<専門基礎>>-Ⅲ-1-B-a～e <<専門基礎>>-Ⅲ-1-C-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-1-D-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-2-A-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-2-B-a～f
履修条件・履修上の注意	医療電気・電子工学Ⅱおよび医療電気・電子工学演習の導入になるため理解する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 直流回路 医療電気・電子工学Ⅰの復習および鳳・テブナンの定理を用いて回路計算ができる。	齋藤 祐樹
	第2回 交流回路 医療電気・電子工学Ⅰおよび2端子対回路におけるF行列を用いて計算できる。	齋藤 祐樹
	第3回 2極真空管 構造と特性を理解し特性計算ができる。	齋藤 祐樹
	第4回 半導体物性 原子・結晶からバンド構造を理解し半導体の性質を理解する。	齋藤 祐樹
	第5回 バイポーラトランジスタの接地 エミッタ接地、ベース接地、コレクタ接地およびバイアス回路を理解できる。	齋藤 祐樹
	第6回 バイポーラトランジスタの小信号増幅回路 増幅回路の等価回路を構成し増幅度を計算できる。また負帰還増幅回路を理解できる。	齋藤 祐樹
	第7回 電界効果トランジスタの小信号増幅回路 増幅回路の等価回路を構成し増幅度を計算できる。	齋藤 祐樹
	第8回 既出事項のまとめ 第1～7回までの範囲で中間試験を行う。	齋藤 祐樹
	第9回 電源回路 半波整流回路、全波整流回路、ブリッジ形全波整流回路およびコンデンサを用いた平滑回路を理解し、また、DC-DCコンバータについて理解できる。	齋藤 祐樹
	第10回 波形形成回路 抵抗とダイオードを用いたクリップ、リミッタ、スライサ回路を理解する。	齋藤 祐樹
	第11回 フィルタ回路 RC回路を用いてローパス、ハイパス、バンドパスフィルタについて計算できる。	齋藤 祐樹
	第12回 パルス回路 非安定、単安定、双安定マルチバイブレータについて理解する。	齋藤 祐樹
	第13回 アナログ・デジタル論理演算素子 アナログのNOT、OR、ANDゲートからデジタルのSRフリップフロップの動作を理解する。	齋藤 祐樹
	第14回 A/D、D/A変換 アナログ信号の標本化と量子化を行いデジタル信号への符号化また復元できるように理解する。	齋藤 祐樹
	第15回 生体の電撃反応 電流による電撃反応を細胞レベルから考え、マクロ、マイクロショックを理解できる。	齋藤 祐樹
科目の目的	臨床で使用されている各種デバイスの動作を理解するための科目である。前半は医療電気・電子工学Ⅰで取り上げた内容を掘り下げて習得していく。後半は電子工学の新たな分野に取り組んでいく。これまで電圧の大きさなどを考えてきたが、信号という概念に代わっていくので興味を持って理解してほしい。【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 複雑な直交流回路を計算できる。 2. アナログ増幅回路を理解できる。 3. 波形形成回路を理解できる。 4. デジタル処理・復元を理解できる。 5. 生体の電撃反応について理解できる。	
関連科目	医療放射線機器工学Ⅰ、医療放射線機器工学Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（50%）、中間試験（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習・復習は最低1時間は行うこと。	
教科書・参考書	教科書：使用しない	

	参考書：First Stage 電子回路概論（実教出版株式会社）高木茂孝 鈴木憲次ほか 参考書：電気電子材料（オーム社）大木義路ほか
オフィス・アワー	金曜日 12時～
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-Ⅲ-1-C-c      <<専門基礎>>-Ⅲ-1-D-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-2-C-a, b      <<専門基礎>>-Ⅲ-2-D-a～c
履修条件・履修上の注意	医療電気・電子工学Iの知識が必要である。



講義科目名称：医療電気・電子工学演習

授業コード：1R059

英文科目名称：Practice in Basic Electrical Engineering and Elec...

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 直流回路 オームの法則、キルヒホッフの法則を利用して直列回路計算ができる。</p> <p>第2回 磁界による電磁場 ビオサバールの法則およびアンペールの周回路の法則を用いて諸量を計算できる。</p> <p>第3回 電界による電磁場 電磁場の諸量を計算できる。また、コンデンサの回路計算ができる。</p> <p>第4回 交流直列回路 インピーダンスをベクトルで考え回路計算ができる。</p> <p>第5回 交流並列回路計算 アドミタンスをベクトルで考え回路計算ができる。</p> <p>第6回 共振回路 直並列共振回路で共振周波数、尖鋭度および選択度を計算できる。</p> <p>第7回 過渡現象 R-L, R-C回路の利得を計算できる。</p> <p>第8回 既出事項のまとめ</p> <p>第9回 2極真空管とダイオード 2極真空管の特徴を説明できる。半導体の性質を説明でき、PN接合ダイオードおよび各種ダイオードについて説明できる。</p> <p>第10回 トランジスタ バイポーラトランジスタ、電界効果トランジスタの特徴を説明できる。</p> <p>第11回 演算増幅器 各種演算増幅器について計算できる。</p> <p>第12回 波形形成回路 半波整流回路、全波整流回路、ブリッジ形全波整流回路のクリップ、リミッタ、スライサ回路の特徴を説明できる。</p> <p>第13回 フィルタ回路とパルス回路 ローパス、ハイパス、バンドパスフィルタについて計算できる。非安定、単安定、双安定マルチバイブレータについて説明できる。</p> <p>第14回 論理演算素子とデジタル化 ブール代数とカルノー図による論理圧縮法ができる。また、基数変換およびA/D-D/A変換ができる。</p> <p>第15回 生体の電撃反応 マクロ、マイクロショックを説明できる。</p>	<p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p>
科目の目的	<p>これまで開講してきた医療電気・電子工学I、IIの総まとめである。国家試験の医用工学に対応する科目である。過去問題を演習の課題として取り上げていく。計算が苦手な場合はこれを利用して取り組んで頂きたい。【思考・判断】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直交流回路について計算ができる。</li> <li>2. 電磁気現象について説明できる計算ができる。</li> <li>3. 半導体、ダイオードおよびトランジスタについて説明できる。</li> <li>4. 演算増幅器について計算ができる。</li> <li>5. 過渡現象について計算できる。</li> <li>6. 波形形成回路を説明できる。</li> <li>7. デジタル処理・復元を説明できる。</li> <li>8. 生体の電撃反応について説明できる。</li> </ol>	
関連科目	医療電気・電子工学 I・II	
成績評価方法・基準	定期試験 (90%) , 授業内レポート (10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：予習より復習に時間をかけること。 準備学習に必要な学習時間の目安：1コマにつき1時間程度	
教科書・参考書	教科書・参考書：講義中に指示する。	
オフィス・アワー	随時	

国家試験出題基準	<<専門基礎>>-Ⅲ-1-A-a～d <<専門基礎>>-Ⅲ-1-C-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-2-A-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-2-C-a～b	<<専門基礎>>-Ⅲ-1-B-a～e <<専門基礎>>-Ⅲ-1-D-a～c <<専門基礎>>-Ⅲ-2-B-a～f <<専門基礎>>-Ⅲ-2-D-a～c
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：医療電気・電子工学実験

授業コード：1R060 1R136 1R137

英文科目名称：Experiment in Basic Electrical Engineering and El...

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹	山崎 真	今尾 仁	

授業形態	実験	担当者
授業計画	第1-3回 ガイダンスおよび実験概論 実験の進め方、レポート指導及び実験事前教育。 第4-6回 交流回路（班別：前半1～4班、後半6～8班） 直列、並列回路におけるインピーダンス、アドミタンスおよび、共振現象について理解する。 第7-9回 フィルタ回路と演算増幅器（班別：前半1～4班、後半6～8班） CR回路によるステップ応答、周波数特性、演算増幅器による増幅度を理解する。 第10-12回 電源回路（班別：前半1～4班、後半6～8班） 半導体の整流作用による各種電源回路を理解する。 第13-15回 論理回路（班別：前半1～4班、後半6～8班） 論理演算、デジタル回路によるカウンタ、フリップフロップ回路を理解する。	
科目の目的	保健医療職として各種電気・電子実験において計測器を用いて基礎データを取ることで理論値と実測値を解析する。また、多様な情報を適切に分析して問題解決する方法を修得する。班別実習を行い、コミュニケーション能力を身につけて生涯にわたって専門分野を探究し実験を通じて先進・高度化する専門分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができるそれぞれの電子回路を理解するとともに実験機器の取り扱い方についても学習する。特に電気・電子回路の特性を理解し、直流理論交流理論について理解する。[思考・判断]	
到達目標	1. 交流回路の理論について説明でき、回路結線が行え特性を説明できる。 2. 半導体の性質について説明できる。 3. 電源回路の結線が行え動作を説明できる。 4. 演算増幅器について結線でき、動作を説明できる。 5. 過渡現象について説明でき、フィルタ回路の動作を説明できる。 6. デジタル回路の基本になる論理回路を結線でき動作を説明できる。	
関連科目	医療電気・電子工学Ⅰ、医療電気・電子工学Ⅱ、医療放射線機器工学Ⅰ	
成績評価方法・基準	レポート評価（100%）、レポートは提出時に指導し返却する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に実験テーマなど計画に従い実施するので必ず予習を1時間以上行うこと。	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	*	
国家試験出題基準	1. 電気・電子工学A-a、B-d、C-a、D-a 2. 診療画像機器の基礎A-c、B（a～f）、C-b、D（a～c）	
履修条件・履修上の注意	実験中は白衣着用し飲食・携帯電話や私語は慎むこと	

講義科目名称：医療統計学

授業コード：1R061

英文科目名称：Medical Statistics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義：1-15回 演習：1-15回 全ての授業回とも講義と演習の併用	担当者
授業計画	<p>第1回 医療統計学で利用されるデータの尺度 医療で利用される様々なデータを概観し、医療専門職者として統計学を学ぶことの意義を理解する。</p> <p>第2回 統計学の基礎1：データの可視化とデータ構造の表現 グラフプロットの重要性、データの代表値と分布の表現方法について学び、多数のデータの集約方法について検討する。</p> <p>第3回 統計学の基礎2：確率変数と確率分布 データ構造を決定する様々な確率分布について学ぶ。</p> <p>第4回 データ解析1：標本と抽出 標本抽出法と研究デザインについて学び、大数の法則と中心極限定理の利用法を理解する。</p> <p>第5回 データ解析2：母平均の点推定 母平均の点推定について学び、標準偏差と標準誤差の使用法を理解する。</p> <p>第6回 データ解析3：母平均の区間推定 信頼区間の考え方を学び、t分布の利用法を理解する。</p> <p>第7回 データ解析4：母比率の区間推定 母比率の区間推定について学び、一定の信頼性を得るために必要な標本数について検討する。</p> <p>第8回 データ解析5：母分散の区間推定 カイ2乗分布について学び、分散の区間推定法を理解する。</p> <p>第9回 データ解析6：検定 統計的検定で使用する用語について学び、その使用法を理解する。</p> <p>第10回 データ解析7：平均値の検定 対応がないデータと対応があるデータの母平均の検定法について学び、その利用法を修得する。</p> <p>第11回 データ解析8：様々な検定 母比率の検定、適合度の検定、独立性の検定について学び、その利用法を修得する。</p> <p>第12回 データ解析9：相関と回帰 変量間の関係性について分析する相関分析、回帰分析について学び、その利用法を修得する。</p> <p>第13回 データ解析10：分散分析 3群以上のデータや複数の要素を含むデータの平均値の差を検定する分散分析について学び、その利用法を修得する。</p> <p>第14回 2×2クロス集計表 2×2クロス集計表から算出される指標について学び、活用法を修得する。</p> <p>第15回 アンケート調査、質的データの解析 アンケート調査の方法と質的データの解析方法について学び、その特徴を理解する。</p>	<p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p>
科目の目的	医療に携わる者として、大学教養レベルの統計学の基本的な知識を身につけ、医療に関連する課題に対する正しい統計手法の適応について理解し、生涯にわたり医療における不確実な課題に統計学を応用できる態度を滋養する。特に放射線医療に関わる多種多様な情報について、適切に収集・分析するための知識と能力を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療における統計学の意義を説明できる。</li> <li>2. データ水準の違いについて説明できる。</li> <li>3. 実験計画について統計学的観点による検討ができる。</li> </ol>	
関連科目	情報処理・情報リテラシー、医療基礎数学、公衆衛生学、診療放射線学研究Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験80%、レポート20%	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	連続性の高い授業であるため、復習を十分に行うこと。 準備学習（復習）：60分程度
教科書・参考書	教科書：指定しない。授業で使用する資料は配布する。 参考書：「改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定3級対応 データの分析」日本統計学会 「改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎」田中豊，中西寛子他
オフィス・アワー	木曜日 13：00～19：00
国家試験出題基準	《専門基礎分野》3-1-C-a・b、3-1-D-a～c 《専門分野》6-1-A-a～c、6-1-B-a・b、4-1-A-a
履修条件・履修上 の注意	授業ではエクセルによる表計算を多用する。基本的な操作ができるよう準備して履修すること。

講義科目名称：放射線医療学概論

授業コード：1R062

英文科目名称：Introduction to Radiation Medical Healthcare

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線医療学とは①～この科目で考えてほしいこと 本科目で検討する課題を概観し、自立した診療放射線技師へのロードマップを検討する。	倉石 政彦
	第2回 放射線の発見と医学利用 放射線は発見された直後から診療・治療に利用されてきている。その歴史から放射線との向き合い方を検討する。	倉石 政彦
	第3回 放射線医療技術の歴史 僅か100年で飛躍的に拡張された放射線医療技術の発展経路を辿り、診療放射線技師の役割・責務についてディスカッションする。	倉石 政彦
	第4回 診療放射線技師という職 診療放射線技師に関する法令を確認し、その養成・教育制度についてディスカッションする。	倉石 政彦
	第5回 医学と医療、科学と技術 医学と医療、科学と技術の関係についてグループでディスカッションし、その内容を発表する。	倉石 政彦
	第6回 医療の社会性 医療の社会性（法律、政治・政策、経済）について調査し、グループで討論する。	倉石 政彦
	第7回 日本の医療制度と医療資源という考え方 日本の医療制度について理解し、医療施設や人は有限な資源であり、それらをどう生かすか、という観点について理解する。	倉石 政彦
	第8回 社会的存在である医療人 前2回の授業で学んだことを基に、医療人が社会的存在であることについてグループディスカッションをおこない発表する。	倉石 政彦
	第9回 医療専門職と医療技術の受益者 医療技術の受益者と技術の提供者の関係を検討し、医療機関を訪れる人の尊厳について考察する。	倉石 政彦
	第10回 患者中心の医療 前回の授業で学んだことを踏まえ、患者中心の医療についてグループディスカッションを行う。	倉石 政彦
	第11回 医療の質とその評価 医療の質を評価する観点と評価法について理解し、放射線技術部門の評価法についてディスカッションする。	倉石 政彦
	第12回 放射線医療学における研究対象 医科学研究と医療技術者の研究の在り方について社会との関連で考察する。	倉石 政彦
	第13回 放射線学の恩恵を受けるもの 放射線に関する知識や技術が必要とされる場面について、グループディスカッションを通して考察する。	倉石 政彦
	第14回 放射線医療学とは②～この科目で考えたこと 放射線医療の今後について考察するとともに、社会における診療放射線技師の役割について討論する。	倉石 政彦
	第15回 放射線医療学とは③～この大学で学ぶ学生として考えてほしいこと この科目で考えたことを踏まえて、これからの大学生活で学ぶことについて討論する。	倉石 政彦
科目の目的	診療放射線技師の業務内容は、エックス線の発見以降、放射線画像検査や放射線治療として発展してきた。放射線の医療における利用の歴史の変遷とともに、診療放射線学が扱う放射線画像検査、放射線治療の技術革新の変遷と医療専門職としての位置づけについて学び、放射線医療学がもたらしてきた社会的な機能を理解する。また、同様に放射線医学利用を扱う、放射線医学との違いについて対比し、その趣旨の違いについて医療専門職の立場から理解する。【実践・探求・研究】	

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線医学の歴史および放射線の医療における利用の歴史について述べるができる。</li> <li>2. 診療放射線技師職の制度・教育の変遷について説明できる。</li> <li>3. 科学と技術, 医学と医療の関係について説明できる。</li> <li>4. 医療専門職者と医療利用者との関係について述べるができる。</li> <li>5. 医療の社会性および日本の医療制度について説明できる。</li> <li>6. 医療の質と評価法について述べるができる。</li> <li>7. 診療放射線技師の仕事内容と研究について述べるができる。</li> <li>8. 診療放射線技師の社会的役割について述べるができる。</li> </ol>
関連科目	社会学, 経済学, 生活文化と医療, 大学の学び—専門への誘い—, 生命倫理
成績評価方法・基準	定期試験60%、レポート40%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：教科書・配布資料の該当部分を精読し、疑問点を抽出しておくこと。</p> <p>準備学習の時間：2時間程度</p>
教科書・参考書	教科書：「医療放射線技術学概論講義」山下一也著 PILAR PRESS
オフィス・アワー	火曜日 13:00～19:00。他の曜日についてはメール等で確認のこと。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	放射線を扱うものとしての歴史的な基礎知識から医学全般について知識を整理するとともに、今生きている社会での医療関連情報に注意を向け、学生自身の考えをまとめる習慣を持つこと。

講義科目名称：放射線救急医学

授業コード：1R063

英文科目名称：Emergency Medical Radiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池正行		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 救急医療概論とガイダンス 救急医療体制と救急医療機関の階層構造	加藤 英樹
	第2回 呼吸と循環のしくみと心肺停止	小池 正行
	第3回 心肺蘇生法 心肺蘇生法のABCとBLS(Basic life support)	小池 正行
	第4回 血管確保と動脈止血と静脈止血法	小池 正行
	第5回 救急医療におけるチーム医療 救急診療のチームワーク	加藤 英樹
	第6回 救急医療における診療放射線技師の役割	加藤 英樹
	第7回 救急医療と放射線診療 1 単純X線、CT	加藤 英樹
	第8回 救急医療と放射線診療 2 IVR、MRI	加藤 英樹
	第9回 外傷 1 外傷患者の単純撮影検査とCT検査	小池 正行
	第10回 外傷 2 外傷患者のIVRとその他の検査・治療	小池 正行
	第11回 非外傷 1 脳疾患におけるCT・MRI検査	加藤 英樹
	第12回 非外傷 2 胸部及び腹部疾患におけるCT検査	加藤 英樹
	第13回 迅速で正確な画像を提供するためのプロトコール	小池 正行
	第14回 各モダリティにおける再構成画像の有用性	小池 正行
	第15回 科目全体の振り返りと総括	加藤 英樹
科目の目的	救急医療で用いられる放射線画像検査は、迅速な画像提供、的確な画像診断が求められ、その結果に診療方針が直結する重要度の高い検査である。本科目では、患者の状態観察や呼吸や循環の生理、救急蘇生法などについて学ぶ。また医療従事者として、生命の大切さを尊重し、救急検査の特性や、心肺蘇生法、止血法など、救急措置や応急手当の具体的な方法を理解する。また典型的な救急放射線画像を提示し所見と病態の特徴を理解する。【知識・理解】	
到達目標	1. 呼吸や循環の生理、救急蘇生法などについて理解できる 2. 救急放射線検査について理解できる 3. 救急に必要な感染対策について理解できる	
関連科目	画像診断学Ⅰ～Ⅱ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ、診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ	
成績評価方法・基準	期末試験（60％） ミニテスト（20％） レポート（20％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分	
教科書・参考書	教科書：「好きになる救急医学 第3版」小林国男（講談社） 参考書：「若葉マークの画像解剖学 改訂第3版」磯辺智範（メディカルビュー社） 「超実践マニュアル 救急撮影」VERSUS研究会（医療科学社）	
オフィス・アワー	加藤：随時（前もってメールがあると良い） 小池：随時（前もってメールがあると良い）	
国家試験出題基準	≪専門≫2-1-E`F ≪専門≫2-2-C`D, H ≪専門≫2-4-D	
履修条件・履修上の注意		





講義科目名称：放射線文献講読Ⅱ

授業コード：1R065

英文科目名称：Literature Reading on Radiology II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	丸山 星		

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴</p> <p>第2回 論文の構造を理解する 基本的な成り立ちを再確認する</p> <p>第3回 論文を講読する1（放射線医学系の論文）</p> <p>第4回 論文を講読する2（放射線医学系の論文） 論文を要約してまとめる</p> <p>第5回 論文を講読する3（放射線医学系の論文） 論文を要約してスライド作成する</p> <p>第6回 論文を講読する4（放射線医学系の論文） 発表と質疑応答を中心に成果の中間報告をする</p> <p>第7回 論文を講読する5（放射線医学系の論文） 研究背景の記述方法を学ぶ</p> <p>第8回 論文を講読する6（放射線医学系の論文） 研究方法や結果の記述・表現方法を学ぶ</p> <p>第9回 論文を講読する7（放射線医学系の論文） 結果の解釈、考察から結論に至る論理的な記述方法を学ぶ</p> <p>第10回 論文を講読する8（過去の卒業研究論文） 学んだ知識を基に過去の卒業研究をレビューする①</p> <p>第11回 論文を講読する9（過去の卒業研究論文） 学んだ知識を基に過去の卒業研究をレビューする②</p> <p>第12回 英語論文を紐解く 英語論文を参照しながら論文の構造や表現について学ぶ</p> <p>第13回 学会、学会発表、論文執筆を考える 担当教員の経験等を基にディスカッションを行う</p> <p>第14回 プレゼンテーション演習 講読した論文についてプレゼンテーションをする</p> <p>第15回 科目全体の振り返りと総括</p>	<p>加藤英樹</p> <p>加藤英樹</p> <p>加藤英樹</p> <p>加藤英樹</p> <p>加藤英樹</p> <p>加藤英樹</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>丸山 星</p> <p>加藤英樹</p> <p>加藤英樹</p>
科目の目的	放射線学における学術論文を読解する能力を習得する。放射線学を構成する診療放射線学、診療画像解析学、核医学検査技術学、放射線治療技術学、医療画像情報学、放射線安全管理学の各分野の学術論文を読解する。基本的な論文の構造と成り立ちがどのようになっているのかを理解する。学生が卒業研究を進める上で必要な研究スキルを身に付けることを目指す。【知識・理解】【技能・表現】	
到達目標	放射線医学領域の論文をじっくり講読してその内容をまとめる。論文の構造を読解して、述べられている内容をまとめることができるようにする。 1 医療放射線学及び放射線技術学に関する学術研究とはどのようなものなのか論文を通じて理解すること 2 論文の体系、表現、型を理解すること 3 大まかな起承転結を読み解き、自分で要約できること	
関連科目	放射線文献講読Ⅰ，診療放射線技術と研究，診療放射線学研究Ⅰ～Ⅱ	
成績評価方法・基準	課題（レポート，論文の要約，質疑応答，プレゼンテーション）100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の予習60分、講義後の復習60分	
教科書・参考書	教科書：指定はない。例示する論文を教材とする予定 参考書：「続・あなたのプレゼン誰も聞いていませんよ！」渡部欣忍（江南社） 参考書：「研究方法論と基礎統計学」日本放射線技術学会（メディカルトリビューン社）	
オフィス・アワー	加藤：随時（前もってメールがあると良い） 丸山：随時（前もってメールがあると良い）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線物理学 I

授業コード：1R066

英文科目名称：Radiation Physics I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 指針 講義の概要や評価方法について理解する。 第2回 原子1 原子の構造とスペクトルを理解する。 第3回 原子2 ボーア模型と殻模型を理解する。 第4回 原子3 電離や原子の励起を理解する。 第5回 原子4 原子についての問題演習をする。 第6回 X線の発生1 特性X線とオージェ効果について理解する。 第7回 X線の発生2 制動X線について理解する。 第8回 X線の発生3 X線発生装置の効率を理解する。 第9回 X線の発生4 X線の発生の問題演習をする。 第10回 光子と物質の相互作用1 干渉性散乱と光電効果について理解する。 第11回 光子と物質の相互作用2 コンプトン散乱と電子対生成について理解する。 第12回 光子と物質の相互作用3 光子線束の減弱と平均自由行程について理解する。 第13回 光子と物質の相互作用4 光子線のエネルギーの吸収について理解する。 第14回 光子と物質の相互作用5 光子と物質の相互作用の問題演習をする。 第15回 総括 講義を全体を復習し、光子線についてを理解を深める。	山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真
科目の目的	「医療基礎物理学」で学習した原子、原子核に関する基礎知識を基に光子やX線と物質の相互作用、及び原子核の構造と崩壊について学ぶ。具体的には光子と物質の相互作用について学習する。次に、X線の減衰、平均自由行程、エネルギー吸収、半価層について学び、続いて原子核の構造について詳しく学ぶ。	
到達目標	1. ボーア模型について説明できる 2. X線の発生について説明ができる。 3. 量子数について説明できる。 4. 光と物質の相互作用について説明できる。 5. 光電効果について説明できる。 6. コンプトン散乱について説明できる。 7. 電子対生成について説明できる。 8. 減弱係数を用いた計算ができる。 9. 光子線のエネルギー吸収について説明できる。	
関連科目	医療基礎物理学，放射線物理学Ⅱ，同演習，放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ，放射線計測学Ⅰ・Ⅱ，同演習	
成績評価方法・基準	定期試験（90%），授業内レポート（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習：授業で取り上げた事項について理解し，確実な知識とするための復習を行うこと。 学習時間：1時間程度	
教科書・参考書	教科書：「放射線物理学 改訂2版」柴田徳思，中谷儀一郎，山崎真（通商産業研究社）	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅱ-2-1~3	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線物理学Ⅱ

授業コード：1R067

英文科目名称：Radiation Physics II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線の量と単位ほか 放射線の量と単位についての定義の意味を理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第2回 相互作用の係数、線量測定に関する量 線量測定に関する量をS I単位系で表し、その意味を理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第3回 放射能に関する量、放射線防護に用いる量 放射能に関する量をS I単位系で表し、その意味を理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第4回 電子線と物質との相互作用 電子線と物質との相互作用、阻止能、飛程の意味を理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第5回 電子の後方散乱、陽電子消滅、チェレンコフ放射 電子の後方散乱、陽電子消滅、チェレンコフ放射について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第6回 重荷電粒子と物質との相互作用 重荷電粒子と物質との相互作用について、電子線との類似点と相違点の観点から理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第7回 $\pi$ 中間子と物質との相互作用、中性子と物質との相互作用 $\pi$ 中間子と物質との相互作用について、荷電粒子と物質との相互作用との相違点の観点から理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第8回 中性子の減弱と吸収 中性子の性質及び中性子と物質との相互作用について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第9回 放射線発生装置 高電圧の発生方法と加速できる粒子の種類について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第10回 線形加速器 電場により加速できる粒子の原理と種類について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第11回 円形加速器 電場と磁場により加速できる粒子の原理と種類について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第12回 X線CTの原理と装置 CT値の意味と応用、物質によるCT値の違いを理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第13回 MRIの原理と装置 核磁気共鳴のメカニズム、緩和現象における計算問題について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第14回 超音波検査の原理と装置 超音波の物理的性質（速度、屈折、反射）、超音波検査の原理及び物理的特性について理解できるよう学習し、演習問題により理解を深める。	山崎真
	第15回 演習問題 全体をまとめ、重要な演習問題の解法について理解する。	山崎真
科目の目的	<p>本科目では、荷電粒子である「電子や重荷電粒子と物質の相互作用」、非荷電粒子である「中性子と物質の相互作用」の原理について学ぶ。また、これら放射線物理学が医学にどのように応用されているかについて理解することが目的である。X線撮影、放射線治療及び核医学への応用の観点から放射線物理を述べる。</p> <p>【知識・理解】</p>	

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子線と物質の相互作用について説明できる。</li> <li>2. 重荷電粒子と物質の相互作用について説明できる。</li> <li>3. 中性子と物質の相互作用について説明できる。</li> </ol>
関連科目	医療基礎物理学，放射線物理学Ⅰ，同演習，放射線計測学Ⅰ・Ⅱ，診療画像検査学概論，医療放射線機器学Ⅰ・Ⅱ，核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	定期試験（90%），授業内レポート（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習：授業で取り上げた事項について理解し，確実な知識とするための復習を行うこと。 学習時間：1時間程度
教科書・参考書	教科書：放射線物理学Ⅰと同じテキストを利用する。
オフィス・アワー	随時
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅱ-2-4~6
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線物理学演習

授業コード：1R068

英文科目名称：Practice in Radiation Physics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
山崎 真			

授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	既出問題の検討① 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第2回	既出問題の検討② 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第3回	既出問題の検討③ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第4回	既出問題の検討④ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第5回	既出問題の検討⑤ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第6回	既出問題の検討⑥ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第7回	既出問題の検討⑦ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第8回	既出問題の検討⑧ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第9回	既出問題の検討⑨ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第10回	既出問題の検討⑩ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第11回	既出問題の検討⑪ 診療放射線技師国家試験問題を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第12回	教員作成模擬試験問題の検討① 関東地区診療放射線技師教育研究会所属学校教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第13回	教員作成模擬試験問題の検討② 関東地区診療放射線技師教育研究会所属学校教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第14回	教員作成模擬試験問題の検討③ 関東地区診療放射線技師教育研究会所属学校教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
	第15回	教員作成模擬試験問題の検討④ 関東地区診療放射線技師教育研究会所属学校教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションすることで確認する。	山崎真
科目の目的	診療放射線技師として働く際に業務の基礎をなす放射線の物理的特性・物理作用について、修得した知識が必要な水準になることを確認する。		

到達目標	1. 放射線物理学の基礎知識について説明できる。 2. 放射線物理学の知識を活用できる。 3. 放射線物理学に関する誤った判断や不十分な論理展開を指摘できる。
関連科目	放射線物理学Ⅰ，放射線物理学Ⅱ
成績評価方法・基準	定期試験（90%），授業内レポート（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習内容：指定する既出問題の解答をつくり，その解答の導出過程を説明できるようにする。 学習時間：2時間
教科書・参考書	教科書：「放射線物理学 改訂2版」柴田徳思，中谷儀一郎，山崎真（通商産業研究社） また、直近10年分の診療放射線技師国家試験問題を準備すること。
オフィス・アワー	随時
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：放射化学

授業コード：1R069

英文科目名称：Radiochemistry

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
酒井 健一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射能と同位体（1） 放射能、同位体と原子番号	酒井健一
	第2回 放射能と同位体（2） 原子質量と結合エネルギー、放射性壊変の種類	酒井健一
	第3回 壊変現象（1） 壊変の法則、半減期と平均寿命、分岐壊変	酒井健一
	第4回 壊変現象（2） 有効半減期、放射平衡、放射能と質量	酒井健一
	第5回 天然放射性核種と人工放射性核種（1） 天然放射性核種、核反応	酒井健一
	第6回 天然放射性核種と人工放射性核種（2） 核反応断面積と放射化量、人工放射性元素	酒井健一
	第7回 放射性同位体の化学（1） ホットアトム化学、同位体交換反応	酒井健一
	第8回 放射性同位体の化学（2） 同位体効果、ラジオコロイド、オートラジオグラフィ	酒井健一
	第9回 放射性核種の分離法（1） 分離法の特徴と特殊性	酒井健一
	第10回 放射性核種の分離法（2） 分離法の種類 実験法の解説と実験器具の説明	酒井健一
	第11回 標識化合物の合成（1） 標識化合物、標識化合物の合成	酒井健一
	第12回 標識化合物の合成（2） 合成法の分類、標識化合物の分解の原因と保存法	酒井健一
	第13回 放射性同位体の化学分析への応用 化学分析とは、放射性同位体を利用した化学分析	酒井健一
	第14回 放射化学の核医学への応用（1） 核医学	酒井健一
	第15回 放射化学の核医学への応用（1） 医療現場で使用する標識化合物、PETの化学、分子イメージングほか	酒井健一
科目の目的	診療放射線技師は、病院の中で放射性核種を取り扱う職種であり、それらを保管・管理することをはじめ、検査を受ける患者に対する被爆管理の役割も担っている。そのため、放射線の本質を正しく理解し、安全に取り扱うことができるための正しい知識を学習し、管理運営できる技師を育成する。より詳しくは、放射線核種の構造と性質、取扱いや精製法に加え、医療に用いる放射性同位体の製法の理論を学習する。【知識・理解】	
到達目標	放射線核種の構造と性質、取扱い方法や精製法に加え、放射性同位体の製造法等を学習する。	
関連科目	放射化学演習 放射線物理学I 放射線物理学II	
成績評価方法・基準	定期試験（70%） 課題・出欠（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示された項目について、教科書を用いて予習するとともに、前回の授業で学んだ項目の復習を行う。 学習時間は2～3時間。	
教科書・参考書	教科書：放射線技術学シリーズ 放射化学 改定3版（オーム社、日本放射線技術学会 編、東静香・久保直樹 共著） 参考書：①放射線概論 第9版（通商産業研究社） ②臨床検査学講座 放射性同位元素検査技術学（医歯薬出版、藤井張生ほか4名共著） ③看護と放射線—放射線を正しく理解するために—（丸善出版、日本アイソトープ協会 編）	
オフィス・アワー	木曜日 15：00—17：00	
国家試験出題基準	診療放射線技師国家試験出題基準（H32年度版）カテゴリ2、4、放射化学に示された大項目1～5に記載された各中項目と小項目に示されたすべての項目を対象基準としている。	
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称：放射化学演習

授業コード：1R070

英文科目名称：Practice in Radiochemistry

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
酒井 健一			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 放射化学の復習（1） 放射能と放射性同位体、放射性壊変 第2回 放射化学の復習（2） 放射性同位体の化学、放射性核種の分離法 第3回 放射化学の復習（3） 放射平衡、核反応と放射性同位体の製造（核反応など） 第4回 放射化学の復習（4） 核分裂（自発核分裂、誘導核分裂、核分裂生成物）、放射性核種の分離法 第5回 放射化学の復習（5） 放射化学分析、ホットアトムの化学、放射性同位体の化学分析への利用 第6回 国家試験問題 第72回 演習 第7回 国家試験問題 第71回 演習 第8回 国家試験問題 第70回 演習 第9回 国家試験問題 第69回 演習 第10回 国家試験問題 第68回 演習 第11回 国家試験問題 第67回 演習 第12回 国家試験問題 第66回 演習 第13回 国家試験問題 第65回 演習 第14回 国家試験問題 第64回 演習 第15回 放射化学 総まとめ（国試問題まとめ）	酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一 酒井健一
科目の目的	前期で学習した「放射化学」の内容をより深く理解するための演習を行う。具体的には、放射性核種の分離法や製造法を学ぶほか、核反応および放射性核種の化学的性質を理解するための演習を行う。本科目では、講義を行うほか、化学分析等に係る実験器具と取り扱い方を解説する。【知識・理解】	
到達目標	自然界の放射性核種の分析への利用や変化、放射性同位体（RI）の分離法、放射化分析、RIの化学分析等への利用などを理解する。具体的には、アクティブ・ラーニングによる国家試験問題の解答・発表を通して放射化学をより深く理解するとともに、国家試験対策を行う。	
関連科目	放射化学 放射線物理学	
成績評価方法・基準	課題（70%） 出欠（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示された項目について、教科書および参考書を用いて予習するとともに、前回授業で学んだ項目の復習をお行う。 学習時間は2～3時間。	
教科書・参考書	参考書： 放射線概論 第9版（通商産業研究社、柴田徳思著） 参考書： 放射線技術学シリーズ 放射化学（オーム社、日本放射線技術学会編、東静香・久保直樹共著） 参考書： 放射線取扱の基礎 8版（丸善、日本アイソトープ協会編）	
オフィス・アワー	木曜日 15：00－17：00	
国家試験出題基準	診療放射線技師国家試験出題基準（H32年度版）カテゴリ2、4、放射化学に示された大項目1～5に記載された各中項目と小項目に示されたすべての項目を対象基準としている。（「4．放射化学」項に準じる）	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線生物学

授業コード：1R071

英文科目名称：Radiation Biology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線生物学序論 放射線と生物の関係	星野 修平
	第2回 放射線の生物作用① 物理学的過程	星野 修平
	第3回 放射線の生物作用② 化学的過程, 生化学的過程	星野 修平
	第4回 放射線の生物作用③ 生物学的過程能①DNA損傷	星野 修平
	第5回 放射線の生物作用④ 生物学的過程能①細胞の死	星野 修平
	第6回 細胞の放射線感受性 ベルゴニー・トリボンドーの法則, 突然変異	星野 修平
	第7回 まとめ① 細胞レベルまでの放射線の作用について, ディスカッションを通して知識を整理する	星野 修平
	第8回 人体への影響① 全身被ばくによる急性放射線死, 組織・臓器への影響	星野 修平
	第9回 人体への影響② 発がん, 遺伝的影響	星野 修平
	第10回 人体への影響③ 確率的影響, 確定的影響, 胎児・小児被ばく, 線量限度	星野 修平
	第11回 まとめ② 人体への放射線の影響について, ディスカッションを通して知識を整理する	星野 修平
	第12回 生物学的効果と放射線治療① 生物学的効果の修飾①	星野 修平
	第13回 生物学的効果と放射線治療② 回復	星野 修平
	第14回 生物学的効果と放射線治療③ 分割照射, 4R, LET, RBE,	星野 修平
	第15回 生物学的効果と放射線治療④ 放射線照射効果の修飾因子, 温熱療法	星野 修平
科目の目的	近年、放射線治療の先端化と多様化に伴い、分子生物・免疫学、医学物理学及び医療工学が複雑に相互関連してきた。本科目では放射線医科学者及び放射線技術科学者として癌治療に貢献する能力を身に付け、さらに放射線治療に関連する様々な臨床及び基礎研究を遂行する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、放射線生物学一般、放射線腫瘍学一般、放射線免疫学に関する内容を理解する。 【知識・理解・思考】	
到達目標	1. 放射線の生物への作用機序について説明できる。 2. 放射線の細胞に対する作用について説明できる。 3. 主要な組織・臓器に対する放射線の影響について説明できる。 4. 放射線の個体への影響について説明できる。 5. 妊婦の放射線被ばくと胎児への影響について説明できる。 6. 放射線の内部被ばくについて説明できる。 7. 放射線による発癌と遺伝的影響について説明できる。 8. 放射線の生物学的効果の修飾因子について説明できる。 9. 分割照射の意義とその放射線生物学的背景について説明できる。 10. 放射線のLETと生物学的効果について説明することができる。 11. 温熱療法について説明することができる。 12. 放射線に関する有資格者として放射線被ばくの影響を評価できる。	
関連科目	生物学A・B、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、医療基礎生物学、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射化学、放射線生物学演習、放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線腫瘍学、放射線安全管理学、診療放射線技師の義務と役割	
成績評価方法・基準	授業時間内に行う確認テスト（15%）、課題（15%）、定期試験（70%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：教科書の該当部分を精読し、疑問点を抽出しておくこと。 準備学習の時間：1時間程度	

教科書・参考書	教科書：福士政広（編集），診療放射線技師スリム・ベーシック 放射線生物学，メジカル・ビュー社，2009. 参考書：
オフィス・アワー	*
国家試験出題基準	《専門基礎》-II-1
履修条件・履修上の注意	放射線の生物への有害性が診療放射線技師資格の存在根拠である。放射線を正しく怖がるための基礎であり、放射線治療の基盤でもある本科目の内容を理解し、使える知識として修得してほしい。

講義科目名称：放射線生物学演習

授業コード：1R072

英文科目名称：Practice in Radiation Biology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 既出問題の検討① 第73回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第2回 既出問題の検討① 第72回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第3回 既出問題の検討① 第71回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第4回 既出問題の検討① 第70回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第5回 既出問題の検討① 第69回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第6回 既出問題の検討① 第68回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第7回 既出問題の検討① 第67回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第8回 既出問題の検討① 第66回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第9回 既出問題の検討① 第65回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第10回 既出問題の検討① 第64回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第11回 既出問題の検討① 第62回診療放射線技師国家試験を中心に、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第12回 教員作成問題の検討① 関東地区診療放射線技師教育研究会参加校の教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第13回 教員作成問題の検討② 関東地区診療放射線技師教育研究会参加校の教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第14回 教員作成問題の検討③ 関東地区診療放射線技師教育研究会参加校の教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
	第15回 教員作成問題の検討④ 関東地区診療放射線技師教育研究会参加校の教員が作成した問題について、正解に辿り着く道筋をディスカッションにより確認する。	倉石 政彦
科目の目的	診療放射線技師が行う放射線画像検査及び放射線治療において不可欠である放射線の物理作用及び化学作用の結果、起こりうる遺伝子、細胞、組織、臓器への生物作用が、人体へ与える影響について理解する。また、放射線の生物作用の性質を利用した放射線治療について学習する。さらに、	

	環境放射線や医療放射線の安全利用の根拠となる放射線が生物に与える影響について理解する。 【思考・判断】
到達目標	1. 放射線生物学の基礎知識について説明できる。 2. 放射線生物学の知識を活用できる。 3. 放射線生物学に関する誤った判断や不十分な論理展開を指摘できる。
関連科目	放射線生物学
成績評価方法・基準	レポート（50％），定期試験（50％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：該当する放射線生物学の単元の復習 準備学習の時間：概ね2時間
教科書・参考書	教科書：指定しない。直近10年分の診療放射線技師国家試験問題を準備すること。 参考書：福土政広（編集），診療放射線技師 グリーン・ノート 基礎編 2nd edition, メジカル・ビュー社, 2012.
オフィス・アワー	木曜日 終日。他の曜日についてはメール等で確認のこと。
国家試験出題基準	《専門基礎》-II-1
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線計測の基礎：放射線計測の目的、対象、量 放射線計測の目的と対象を明確にし、計測する量とその単位について理解する。	倉石 政彦
	第2回 放射線計測の理論1：放射線の種類 計測対象となる放射線の種類と発生源について学び、計測が必要となる場面と量について理解する。	倉石 政彦
	第3回 放射線計測の理論2：光子と物質との相互作用 光子と物質との相互作用について学び、光子線を検出する方法について理解する。	倉石 政彦
	第4回 放射線計測の理論3：電子と物質との相互作用 電子と物質との相互作用について学び、電子線を検出する方法について理解する。	倉石 政彦
	第5回 放射線計測の理論4：高LET放射線と物質との相互作用 縦荷電粒子線・中性子線と物質との相互作用について学び、これらを検出する方法について理解する。	倉石 政彦
	第6回 放射線計測の理論5：吸収線量、測定値の処理 吸収線量の意味について学び、二次電子平衡及びブラックグレイの空洞原理について理解する。	倉石 政彦
	第7回 放射線の計測装置1：電離箱 電離箱の構造について学び、電離箱による放射線計測の原理と特徴を理解する。	倉石 政彦
	第8回 放射線の計測装置2：比例計数管 比例計数管の構造について学び、これによる放射線計測の原理と特徴を理解する。	倉石 政彦
	第9回 放射線の計測装置3：GM計数管 GM計数管の構造について学び、これによる放射線計測の原理と特徴を理解する。	倉石 政彦
	第10回 放射線の計測装置4：シンチレーション検出器-2 シンチレーション検出器の構造について学び、これによる放射線計測の原理と特徴を理解する。	倉石 政彦
	第11回 放射線の計測装置5：シンチレーション検出器-2 シンチレーション検出器の回路構成について学び、エネルギー分析の原理と特徴を理解する。	倉石 政彦
	第12回 放射線の計測装置6：半導体検出器 シンチレーション検出器の構造について学び、これによる放射線計測の原理と特徴を理解する。	倉石 政彦
	第13回 放射線の計測装置7：蛍光を利用する線量計 熱蛍光線量計、蛍光ガラス線量計及びOSL線量計について学び、その特徴を理解する。	倉石 政彦
	第14回 放射線の計測装置7：その他の線量計-1 画像記録媒体、電子式線量計、化学線量計などについて学び、その特徴を理解する。	倉石 政彦
	第15回 放射線の計測装置7：その他の線量計-2 チェレンコフ検出器、霧箱、泡箱などのについて学び、その特徴を理解する。	倉石 政彦
科目の目的	医療では特に管理された放射線として導入し使用されることから利用の正当化、防護の最適化の判断基準に必要な基礎的知識を「放射線計測学 I」で習得する。本科目での基礎的知識とは、放射線と物質の相互作用、放射線と放射性物質に関する単位、照射線量から吸収線量などへの理論的展開、測定器の動作原理と諸特性、測定方法等の基礎知識を理解する。具体的には、放射線検出器の原理電離箱、比例計数管、GM計数管、シンチレーション検出器、半導体検出器、中性子検出器など検出器や測定された値の意味について学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	1. 放射線計測学の意義について説明できる。 2. 放射線の性質に基づいた放射線検出の原理を説明できる。 3. 様々な放射線計測機器の特徴を説明できる。 4. 計測対象や計測の目的に適合した計測装置を選択できる。 5. 得られたデータに適切な補正を施し、必要な計測量を算出できる。	
関連科目	放射線計測学 II、放射線物理学 I・II	
成績評価方法・基準	定期試験80%、レポート20%	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	連続性の高い授業であるため、復習により理解を確実なものとして次回の授業に臨むこと。 準備学習（復習）時間：2時間程度
教科書・参考書	教科書：「改訂2版 診療放射線技師スリム・ベーシック 放射線計測学」福士政広編 メジカルビュー社 教科書：「アイソトープ手帳」日本アイソトープ協会 参考書：「放射線概論」飯田博美編 通商産業研究社
オフィス・アワー	木曜日 13：00～19：00
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-5-1～3
履修条件・履修上の 注意	計算する機会が多いため電卓を持参すること。

講義科目名称：放射線計測学Ⅱ

授業コード：1R074

英文科目名称：Radiation Measurement II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 線量測定1：照射線量 照射線量の測定技術を学び、その評価方法を理解する。	倉石 政彦
	第2回 線量測定2：空気カーマ 空気カーマの測定技術を学び、その評価方法を理解する。	倉石 政彦
	第3回 線量測定3：吸収線量 吸収線量の測定技術を学び、その評価方法を理解する。	倉石 政彦
	第4回 線量測定4：放射線治療における各種パラメータ PDD、TMR、OPFなどの測定技術について学び、線量計算における使用法を理解する。	倉石 政彦
	第5回 線量測定5：高エネルギー放射線計測における補正 高エネルギー放射線計測において線量を正しく評価するための補正の意義と方法を理解する。	倉石 政彦
	第6回 線量測定6：個人被ばく線量 個人被ばく線量の測定方法について学び、正しく評価するための注意事項を理解する。	倉石 政彦
	第7回 線量測定7：空間線量分布 空間線量分布の計測技術を学び、評価方法を理解する。	倉石 政彦
	第8回 放射能測定1：計数管 GM計数管・比例計数管による放射能測定技術について学び、評価方法を理解する。	倉石 政彦
	第9回 放射能測定2：シンチレーション検出器 シンチレーション検出器による放射能測定技術について学び、評価の方法を理解する。	倉石 政彦
	第10回 放射能測定3：半導体検出器 半導体検出器による放射能測定技術について学び、評価の方法を理解する。	倉石 政彦
	第11回 エネルギー計測1：ガンマ線のエネルギースペクトル エネルギースペクトルの計測技術について学び、スペクトルの特徴を理解する。	倉石 政彦
	第12回 エネルギー計測2：連続エックス線のエネルギー測定 エネルギースペクトル、実効エネルギーの測定技術について学び、その特性について理解する。	倉石 政彦
	第13回 エネルギー計測3：ベータ線のエネルギー計測 エネルギースペクトル、吸収曲線の測定技術について学び、その特性について理解する。	倉石 政彦
	第14回 エネルギー計測4：アルファ線エネルギー、加速器エネルギー アルファ線エネルギー、加速器エネルギーの測定意義をについて学び、その特徴について理解する。	倉石 政彦
	第15回 放射線計測の意義 医療、社会における放射線計測の意義の観点から診療放射線技師の役割について検討する。	倉石 政彦
科目の目的	人間の感覚でとらえることができない放射線の性質や量を評価することは、生活環境を適正に保つため重要であり、放射線計測学はこれを正しく把握するための技術である。「放射線計測学Ⅰ」で学んだ放射線計測の基礎理論と計測装置の特性を活かして、線量計測、放射能計測及びエネルギー計測の具体的な計測技術について学ぶ。これらを通して、様々な場面・目的に合致した計測値を得るための放射線計測技術を理解することを目的とする。【知識・理解】	
到達目標	1. 線量（照射線量、空気カーマ、吸収線量）の計測方法について説明できる。 2. 放射線治療におけるパラメータ（PDD、TMR、OPFなど）を得る方法について説明できる。 3. 個人被ばく線量の計測方法を説明できる。 4. 空間線量分布の計測方法を説明できる。 5. 放射能の計測方法を説明できる。 6. 放射線のエネルギー計測方法を説明できる。	
関連科目	放射線計測学Ⅰ、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射線治療技術学	
成績評価方法・基準	定期試験80%、レポート20%	



準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	連続性の高い授業であるため、復習により理解を確実なものとして次回の授業に臨むこと。 準備学習の時間：1時間程度
教科書・参考書	教科書：「改訂2版 診療放射線技師スリム・ベーシック 放射線計測学」福士政広編 メジカルビュー社 教科書：「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法 一標準計測法12一」日本医学物理学会編 通商産業研究所 参考書：「放射線概論」柴田徳思編 通商産業研究社
オフィス・アワー	木曜日 13:00～19:00
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-5-4
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線計測学演習

授業コード：1R075

英文科目名称：Practice in Radiation Measurement

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 放射線計測の目的と対象、量と単位 放射線計測の目的と対象、量と単位について確認する。 第2回 放射線計測装置1：電離箱 電離箱の原理と特性について確認する。 第3回 放射線計測装置2：GM計数管 GM計数管の原理と特性について確認する。 第4回 放射線計測装置3：シンチレーション検出器 シンチレーション検出器の原理と特性について確認する。 第5回 放射線計測装置4：その他の計測装置 半導体検出器等の原理と特性について確認する。 第6回 線量測定 線量測定の原理と方法について確認する。 第7回 放射能測定 放射能測定の原理と方法について確認する。 第8回 エネルギー測定 エネルギー測定の原理と方法について確認する。 第9回 医療における放射線 医療における放射線の測定原理と方法について確認する。 第10回 環境放射線 環境放射線の測定原理と方法について確認する。 第11～15回 総合演習 国家試験既出問題を中心に演習し、知識を整理する。	倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦
科目の目的	本科目では、放射線計測学Ⅰ・Ⅱで学んだ事項について演習を通して整理し、放射線計測の知識と技術を確実なものとする。具体的には、放射線計測の目的に応じて計測すべき量を判断し、計測装置を選定することができ、得られたデータから計測目的に合致した量を正しく評価することができることを目的とする。【思考・判断】	
到達目標	1. 放射線計測の目的と対象に適した計測量と計測方法を説明できる。 2. 各種放射線測定装置の原理と特性を説明できる。 3. 各種放射線測定装置に必要な校正項目・方法を説明できる。 4. 計測された放射線量、放射能、エネルギーを評価する方法を説明できる。	
関連科目	放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射線安全管理学、放射線治療技術学	
成績評価方法・基準	定期試験60%、レポート40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：診療放射線技師国家試験の既出問題について、回答と解説を作成する 準備学習の時間：1時間	
教科書・参考書	教科書：指定しないが、診療放射線技師国家試験の過去10年分の問題を準備すること	
オフィス・アワー	木曜日 13:00～19:00	
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-5	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線計測学実験

授業コード：1R076

英文科目名称：Experiment in Radiation Measurement

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦	倉石 政彦	酒井 健一	山崎 真

授業形態	実験	担当者
授業計画	第1回 霧箱 霧箱による放射線の観察を行い、線種の違いによる飛跡の差異とその理由を理解する。	酒井 健一
	第2回 クロマトグラフィの基礎 物質の分離解析に利用されるクロマトグラフィの基礎的な実験を行い、その原理を理解し方法を習得する。	酒井 健一
	第3回 計測値の処理 自然放射線の線量率を計測し、統計的な性質を確認し、最尤推定値を求めるための処理方法を理解する。	酒井 健一
	第4回 距離の逆2乗則 光子線の量が発生源からの距離の2乗に反比例することを実験を通して確認し、その理由を理解する。	酒井 健一
	第5回 放射線の遮へい 線種により遮へいの効果が異なることを実験により確認し、その理由を理解する。	酒井 健一
	第6回 身の回りの放射線 空間線量率や食品等からの放射線量を測定する技術を習得する。	酒井 健一
	第7回 半価層測定による実効エネルギーの同定 診断用エックス線について半価層を測定し実効エネルギーを同定する方法を習得する。	倉石 政彦
	第8回 サーベイメータの方向依存性 各種サーベイメータの方向依存性を実験により確認する。	倉石 政彦
	第9回 GM計数管のプラトー特性 GM計数管のプラトー特性の測定技術を習得する。	倉石 政彦
	第10回 GM計数管の分解時間 2線源法によるGM計数管の分解時間の測定技術を習得する。	倉石 政彦
	第11回 ベータ線のエネルギー同定 ベータ線の吸収曲線からエネルギーを同定する方法を習得する。	倉石 政彦
	第12回 エネルギースペクトル シンチレーションスペクトロメータによりエネルギースペクトルの取得方法を習得し、評価法を理解する。	倉石 政彦
	第13回 討論1 第1回～第6回の実験について討論し、知識・技術を整理する。	酒井 健一 倉石 政彦
	第14回 討論2 第7回～第12回の実験について討論し、知識・技術を整理する。	酒井 健一 倉石 政彦
	第15回 討論3 放射線計測の意義、理論、技術について討論を通して確認する。	酒井 健一 倉石 政彦
科目の目的	「放射線計測学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識をもとに、放射線の存在や放射線の性質を確認する方法、エネルギーや量を把握するための放射線計測技術について実験を通して確認する。具体的には、霧箱による放射線の観察実験、分析に用いられるクロマトグラフィの基礎的な実験、電離箱やGM計数管の特性、などを行う。【思考・判断】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーベイメータによる線量率測定ができる。</li> <li>2. シンチレーションスペクトロメータによるエネルギー測定ができる</li> <li>3. GM計数管によるベータ線計測ができる。</li> <li>4. 霧箱による飛跡観察から線種を同定できる。</li> <li>5. ペーパークロマトグラフィの取得方法を説明できる。</li> <li>6. 放射線の性質等を確認するための実験方法を検討することができる。</li> </ol>	
関連科目	放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習の内容：各実験について、必要な知識・実験方法を確認する。 事後学習の内容：各実験について、レポートを作成する。 事前・事後学習の時間：1時間程度。	

教科書・参考書	教科書：指定しない。必要な資料は配布する。 参考書：放射線計測学Ⅰ・Ⅱで資料した教科書。その他、実験内容に関連する放射線基礎科学のテキスト。
オフィス・アワー	木曜日 13:00～19:00
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-5-2-C, Ⅱ-5-3-B, Ⅱ-5-4-A-a・e, Ⅱ-5-4-B, Ⅱ-5-4-C
履修条件・履修上の注意	データ整理にエクセルを使用するため、PCを持参すること。

講義科目名称：診療放射線学概論

授業コード：1R077

英文科目名称：Introduction to Radiological Technologist

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 診療放射線技師とは 診療放射線技師の歴史や職務について	倉石 政彦
	第2回 放射線とは 放射線の基礎知識（X線の発見や放射線の発見・種類・性質）	倉石 政彦
	第3回 放射線の人体に対する影響 放射線の人体への影響や放射線防護について	倉石 政彦
	第4回 放射線の医学的利用 放射線の医療への利用・X線を利用した検査法について	倉石 政彦
	第5回 診療放射線技師に関する法律	倉石 政彦
	第6回 診療放射線技師に求められる倫理観	倉石 政彦
	第7回 チーム医療における診療放射線技師の役割と責任	倉石 政彦
	第8回 診療放射線技師に求められる患者接遇 医療コミュニケーションの必要性	倉石 政彦
	第9回 画像診断門における診療放射線技師（1） 単純X線・X線CT装置と設備、診療放射線業務の概要と役割	倉石 政彦
	第10回 画像診断門における診療放射線技師（2） 単MRI・超音波装置と設備、診療放射線業務の概要と役割	倉石 政彦
	第11回 核医学部門における診療放射線技師 核医学関連装置と設備、診療放射線業務の概要と役割	倉石 政彦
	第12回 放射線治療部門における診療放射線技師 放射線治療装置と設備、診療放射線業務の概要と役割	倉石 政彦
	第13回 医用画像情報システムの実際と診療放射線技師	倉石 政彦
	第14回 放射線管理	倉石 政彦
	第15回 診療放射線技師に求められる医療安全管理	倉石 政彦
科目の目的	診療放射線技師のの基盤となる学術を診療放射線学と捉え、その歴史の変遷、学術体系化について概観し、構成する各論を学ぶ。診療放射線技師と関連する学術、構成する放射線技術、医療情報、医療安全を学び、診療放射線技師の責務と役割について理解する。【実践・探求・研究】	
到達目標	1. 診療放射線技師の業務が説明できる 2. 放射線関連機器の概要を説明できる。 3. チーム医療における診療放射線技師の役割を説明できる。 4. 対象との医療コミュニケーションの意義が説明できる	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、核医学検査技術学Ⅰ、Ⅱ、放射線治療技術学Ⅰ、Ⅱ、放射線システム情報学、放射線管理学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習の内容：当該授業で展開される診療放射線技術について情報収集し、疑問点を抽出する。 事後学習の内容：事前学習で抽出した疑問点について、授業で得られた知見に基づき検討する。 事前・事後学習の時間：2時間程度	
教科書・参考書	教科書：指定しない 参考書：診療放射線技師プロフェッショナルガイド、文光堂	
オフィス・アワー	倉石：火曜日 13：00～19：00。他の曜日についてはメール等で確認のこと。 他の教員：メール等で確認のこと。	
国家試験出題基準	3. 1. 1～2, 3. 1. 4, 3. 4. 1～3, 3. 6,	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：診療画像検査学概論

授業コード：1R078

英文科目名称：Introduction to Radiological Image Examination

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池正行	谷口 杏奈	徳重佑美子

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴	加藤英樹
	第2回 放射線検査の変遷と歴史	加藤英樹
	第3回 放射線画像の取得から診断までの全体フロー データ取得, 参照, 保存, 再利用の全体像	加藤英樹
	第4回 X線の基本特性と画像形成理論	小池正行
	第5回 X線画像の成り立ち 1 アナログ (一般撮影領域)	小池正行
	第6回 X線画像の成り立ち 2 デジタル (一般撮影領域)	加藤英樹
	第7回 検査における基準面、基準点、指標	徳重佑美子
	第8回 一般撮影検査 高頻度に行われる部位・撮影方法	徳重佑美子
	第9回 CT 検査	徳重佑美子
	第10回 MRI検査	谷口杏奈
	第11回 血管造影・IVR及び造影検査	小池正行
	第12回 超音波検査	谷口杏奈
	第13回 眼底カメラ検査, 他の検査	谷口杏奈
	第14回 診療放射線技師とチーム医療	谷口杏奈
	第15回 科目全体の振り返りと総括	加藤英樹
科目の目的	診療放射線技師の業務には大別して、診療画像検査と放射線治療がある。その中の診療画像検査の概要と意義を学ぶ。また、診療画像を得るにあたって、その物理現象と生物学的効果によって画像が構成される仕組みについて学ぶ。さらに、診療画像検査の対象は常に「人」であることから、受診者への対応 [ペイシエント・ケア] と [医療コミュニケーション] についても学ぶ。【知識・理解・思考】	
到達目標	1 多種多様な放射線検査について特徴と意義の概要を理解する 2 医用放射線画像がどのように形成されるのか概要を理解する 3 診療放射線技師の業務範囲と期待される役割を理解する	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験 (60%)、レポート (40%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分	
教科書・参考書	教科書：「図解診療放射線技術実践ガイド 第4版」遠藤啓吾 (文光堂)	
オフィス・アワー	各先生とも随時 (前もってメールがあると良い)	
国家試験出題基準	3.1.2～6、3.2.5、3.4.1、	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：診療放射線学実習直前演習

授業コード：1R079

英文科目名称：Preliminary Practice in Medical Radiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
倉石 政彦	助教以上の全教員		

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 臨床実習の基本的事項 臨床実習の意義、目的	倉石 政彦
	第2回 臨床施設でのマナー 医療人としての常識（行動、発言）	倉石 政彦
	第3回 臨床実習に臨む際の基礎知識 医療安全、感染症対策、情報管理、チーム医療	倉石 政彦
	第4回 グループワーク1：臨床実習の目標 臨床実習を経ることによりどのような変容を期待するか	倉石 政彦
	第5回 グループワーク2：臨床実習前の準備1：知識 臨床施設での活動についてどのような知識が必要か	倉石 政彦
	第6回 グループワーク3：臨床実習間の準備2：態度 臨床施設での活動についてどのような態度が要求されるか	倉石 政彦
	第7回 相互演習1 臨床施設における診療放射線技師の業務を想定し、当該場面における学生の言動についてチェック項目を作成する。	倉石 政彦
	第8回 相互演習2 臨床施設における診療放射線技師の業務を想定し、当該場面における学生の言動についてチェック項目を作成する。	倉石 政彦
	第9回 相互演習3 臨床施設における診療放射線技師の業務を想定し、当該場面における学生の言動についてチェック項目を作成する。	倉石 政彦
	第10回 相互演習4 臨床施設における診療放射線技師の業務を想定し、当該場面における学生の言動についてチェック項目を作成する。	倉石 政彦
	第11回 相互演習5 臨床施設における診療放射線技師の業務を想定し、当該場面における学生の言動についてチェック項目を作成する。	倉石 政彦
	第12回 相互演習6 臨床施設における診療放射線技師の業務を想定し、当該場面における学生の言動についてチェック項目を作成する。	倉石 政彦
	第13回 確認演習1 定めたチェック項目に則り、学生の行動・発言を互いに評価する。	倉石 政彦
	第14回 確認演習2 定めたチェック項目に則り、学生の行動・発言を互いに評価する。	倉石 政彦
	第15回 討論：臨床実習で何を獲得するか	倉石 政彦
科目の目的	本科目は、実習病院で行う「臨床実習」を履修するにあたり、実習の目的、意義を明確にし、臨床に必要な最低限の知識・技能及び医療人・社会人としての常識を確認することを目的とする。様々な医療行為・医療業務が理解できる能力を培い、自己学習を促進するための学習姿勢を涵養する。具体的には、社会人としての礼儀作法から自職種、他職種の業務内容を理解し、医療専門職としてのコミュニケーション、患者に対する接遇について学ぶ。	
到達目標	1. どのような診療放射線技師になりたいか説明できる。 2. 臨床実習に臨む意欲を持ち、そのために必要な準備をする。 3. 医療人および社会人としての自覚・姿勢をもつ。	
関連科目	診療放射線技師の義務と役割	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：毎回のテーマ（前回授業での課題も含む）について自分の考えを整理する 準備学習の時間：1時間程度	
教科書・参考書	教科書：「RT臨床実習ルートマップ」橋本光康編 メジカルビュー社	

オフィス・アワー	木曜日 13:00~19:00
国家試験出題基準	専門分野 I、II、III、IV、V、VI
履修条件・履修上の注意	
実務経験のある教員による授業	
実務経験	倉石 政彦（診療放射線技師）、星野 修平（診療放射線技師）、渡邊 浩（診療放射線技師）、加藤 英樹（診療放射線技師）、小池 正行（診療放射線技師）、岩井 譜憲（診療放射線技師）、齋藤 祐樹（診療放射線技師）、谷口 杏奈（診療放射線技師）、今尾 仁（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）
授業の概要	本科目は、実習病院で行う「臨床実習」を履修するにあたり、実習の目的、意義を明確にし、臨床に必要な最低限の知識・技能及び医療人・社会人としての常識を確認することを目的とする。様々な医療行為・医療業務が理解できる能力を培い、自己学習を促進するための学習姿勢を涵養する。具体的には、社会人としての礼儀作法から自職種、他職種の業務内容を理解し、医療専門職としてのコミュニケーション、患者に対する接遇について学ぶ。



講義科目名称：診療放射線学総合臨床実習

授業コード：1R080

英文科目名称：General Clinical Practice in Medical Radiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平	助教以上の全教員		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>専門科目である「診療画像解析学臨床実習Ⅰ」、「診療画像解析学臨床実習Ⅱ」、「核医学検査技術学臨床実習」、「放射線治療技術学臨床実習」で学んだ知識・技術を基に、臨床実践における課題を主体的に解決することの意義とその方法について学ぶ。また、チーム医療や医療安全など、医療専門職に求められる臨床能力や調整の重要性を学ぶ。具体的には、学生がそれまでに履修した臨床実習を基に、臨床において問題とされる課題から診療放射線技師の専門性に関係するテーマを提示し、臨床実習担当教員とともにディスカッションを経て、実習課題テーマを決定する。実習課題テーマは、診療放射線技師の関わる技術部門（画像検査、核医学検査、放射線治療）、患者との接遇・コミュニケーション、医療安全などに関する項目から設定する。学生は、教科書や参考文献、臨床実習担当教員のアドバイスを受けながら臨床実習施設内で関連する情報の収集を行い、実習報告書を作成する。作成された実習報告書をもとに臨床実習で得られた内容についてのプレゼンテーションを実習施設内で行い、臨床実習担当教員及び臨床実習指導者が評価を行う。</p> <p>実習課題テーマの具体例</p> <p>(1) 医療倫理と診療放射線技師の役割 インフォームド・コンセント・医療情報・生命倫理</p> <p>(2) 患者サービスと診療放射線技師の役割 患者満足度・医療サービス・医療経営・医療経済</p> <p>(3) 救急医療における診療放射線技師の役割 救命医療・災害時医療</p> <p>(4) 医療被曝低減と診療放射線技師の責任 医療被ばくガイダンスレベル・ガイドライン・低減目標</p> <p>(5) 医療施設における医療安全対策 リスクマネジメント・事故分析・インシデント・アクシデント</p> <p>(6) 患者と診療放射線技師の関わり 医療コミュニケーション・患者の自己決定権</p> <p>(7) チーム医療と多職種連携 協働・情報連携・コミュニケーション</p>	<p>各施設の 実習指導者</p> <p>各施設の 実習指導者</p> <p>各施設の 実習指導者</p> <p>各施設の 実習指導者</p> <p>各施設の 実習指導者</p> <p>各施設の 実習指導者</p> <p>各施設の 実習指導者</p>
科目の目的	放射線学及び臨床実習の総まとめとして診療放射線技師に必要な臨床実践能力を学び、知識を臨床現場において、主体的に実践することの意義とその方法について学ぶ。	
到達目標	<p>(1) 診療放射線技師が関わる臨床実践の課題を抽出し問題提起する。</p> <p>(2) 臨床実践の課題を整理し列挙する。</p> <p>(3) 臨床実習担当教員とともにディスカッションを経て、臨床実践の課題を実習課題テーマとして焦点化する。</p> <p>(4) 実習課題テーマに即して、臨床実習施設内で関連する情報の収集を行う。</p> <p>(5) 収集した情報から、課題を主体的に解決する方法を例示する。</p> <p>(6) 教科書や参考文献、臨床実習担当教員のアドバイスを受けながら実習報告書を作成する。</p> <p>(7) 実習報告書を基に、実習課題テーマについてプレゼンテーションを行い報告する。</p>	
関連科目	放射線医療学概論、診療放射線学実習直前演習、診療画像解析学臨床実習Ⅰ・診療画像解析学臨床実習Ⅱ・核医学検査技術学臨床実習・放射線治療技術学臨床実習	
成績評価方法・基準	<p>①臨床実習指導者による臨床実習評価（実習状況、学習評価、学習態度、総合評価）</p> <p>②臨床実習担当教授（科目責任者）による記録（実習ノート）の評価</p> <p>③臨床実習担当教授（科目責任者）による定期試験</p> <p>のそれぞれの評価を合算平均し、総合して成績判定を行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習前、実習後の自己学習として1時間程度	
教科書・参考書	教科書：RT臨床実習ルートマップ 橋本光康編集 メジカルビュー社 2016（3年時購入済）	
オフィス・アワー	事前に単位認定者に連絡すること	
国家試験出題基準	専門分野 I、II、III、IV、V、VI	
履修条件・履修上の注意		
実務経験のある教員による授業		

実務経験	倉石 政彦（診療放射線技師）、星野 修平（診療放射線技師）、渡邊 浩（診療放射線技師）、加藤 英樹（診療放射線技師）、小池 正行（診療放射線技師）、岩井 譜憲（診療放射線技師）、齋藤 祐樹（診療放射線技師）、谷口 杏奈（診療放射線技師）、今尾 仁（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）
授業の概要	これまで臨床実習で学んできた診療放射線学及び臨床実習の総まとめとして診療放射線技師に必要な臨床実践能力を学ぶ。専門科目で学んだ知識を臨床現場において、主体的に実践することの意義とその方法について学ぶ。また、チーム医療や医療安全など、医療職に求められる臨床能力や、調整等の重要性を学ぶ。具体的には、実習期間中に学んだ諸知識の中から問題点をとり上げ、その問題点を解決する方法について検討し、グループディスカッションを通して、協働の意義を理解する。

講義科目名称：診療画像解析学 I

授業コード：1R081

英文科目名称：Medical Image Analysis I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池正行	谷口杏奈	徳重佑美子

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴 DR画像の基礎、撮影基準面（線）を含む	加藤英樹
	第2回 頭部・頸部の撮影法と適正画像の条件 1 頭蓋骨、側頭骨、副鼻腔、顔面	谷口杏奈
	第3回 頭部・頸部の撮影法と適正画像の条件 2 頸部、歯科、他	谷口杏奈
	第4回 胸部単純撮影法と適正画像の条件	加藤英樹
	第5回 胸郭の撮影法と適正画像の条件 胸骨、肋骨、鎖骨、胸鎖関節	加藤英樹
	第6回 腹部撮影、小児撮影の撮影法と適正画像の条件 感染予防対策も含む	加藤英樹
	第7回 マンモグラフィの撮影法と適正画像の条件	谷口杏奈
	第8回 骨盤・股関節の撮影法と適正画像の条件	徳重佑美子
	第9回 脊椎の撮影法と適正画像の条件 1 頸椎、胸椎、腰椎、仙椎	徳重佑美子
	第10回 脊椎の撮影法と適正画像の条件 2 頸椎、胸椎、腰椎、仙椎	徳重佑美子
	第11回 上肢の撮影法と適正画像の条件 1	小池正行
	第12回 上肢の撮影法と適正画像の条件 2	小池正行
	第13回 下肢の撮影法と適正画像の条件 1	小池正行
	第14回 下肢の撮影法と適正画像の条件 2	小池正行
	第15回 科目全体の振り返りと総括	加藤英樹
科目の目的	様々ある放射線検査の中から、X線を用いた胸部、腹部、脊椎、四肢などの一般撮影領域の検査方法について学ぶ。 画像の成り立ち、撮影条件、撮影体位（ポジショニング）と入射方向と入射点の関係、撮影基準点などの検査技術を学び、加えてX線撮影を行う意義、説明と同意、適切な画像の条件、臨床画像がもつ情報などが理解できるようにする。【知識・理解・思考】	
到達目標	1 各部位によって異なる画像の特徴が理解できること 2 各部位によって異なる撮影方法・手技が理解できること 3 適切な画像を取得するための患者への配慮やケアの必要性が理解できること	
関連科目	診療画像解析学Ⅱ・Ⅲ、診療画像解析学演習、診療画像解析学実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学特論、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（100％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分	
教科書・参考書	教科書：「放射線技術学シリーズ・X線撮影技術学 改定3版」（オーム社）	
オフィス・アワー	各先生とも随時（前もってメールがあると良い）	
国家試験出題基準	3. 1. 1, 3. 1. 3. A~D,	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：診療画像解析学Ⅱ

授業コード：1R082

英文科目名称：Medical Image Analysis II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池 正行		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴	加藤英樹
	第2回 造影剤	加藤英樹
	第3回 胆道系・泌尿器系・生殖器系の造影検査	小池正行
	第4回 消化管造影検査	小池正行
	第5回 血管造影検査（脳・心臓・大血管）	小池正行
	第6回 血管造影検査（腹部・四肢等）	小池正行
	第7回 血管造影検査（その他）	小池正行
	第8回 IVR（インターベンショナルラジオロジー）	小池正行
	第9回 特殊造影検査 脊髄腔、関節腔、乳腺	小池正行
	第10回 頭頸部のX線CT検査	加藤英樹
	第11回 胸部のX線CT検査	加藤英樹
	第12回 心臓領域のX線CT検査	加藤英樹
	第13回 腹部・骨盤部のX線CT検査	加藤英樹
	第14回 CT画像の再構成、3次元画像処理	加藤英樹
	第15回 死亡時画像診断（オートプシー・イメージング：Ai）	加藤英樹
科目の目的	本科目では、X線を用いた複合画像を得る画像検査法について学習する。「診療画像解析学Ⅰ」で学んだ単純X線撮影を応用し、造影剤を用いた消化管造影検査、血管構造を描出する血管造影検査、検査と治療を同時に行うIVR（インターベンショナルラジオロジー）、歯科領域のX線検査、乳房のX線検査などについて学ぶ。また、X線CT、その応用である死亡時画像診断（オートプシー・イメージング：Ai）に関する撮影技術と画像再構成理論についても学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	1 X線検査で用いる造影剤について作用機序や製剤の特性を理解する 2 X線造影検査の基本的な特徴や原理、また検査方法と画像解剖を理解する 3 X線CT検査の基本的な特徴や原理、また検査方法と画像解剖を理解する	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学演習、診療画像解析学実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学特論、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（70%）、ミニテスト（20%）、レポート（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分	
教科書・参考書	教科書：「図解診療放射線技術実践ガイド 第4版」遠藤啓吾（文光堂） 教科書：「CT super basic」市川勝弘（オーム社）	
オフィス・アワー	加藤：①在室していれば随時、②質問・リクエストはいつでもメールで対応します 小池：①在室していれば随時、②質問・リクエストはいつでもメールで対応します	
国家試験出題基準	《専門》-I-3-A～G 《専門》-I-4-A～C	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：診療画像解析学Ⅲ

授業コード：1R083

英文科目名称：Medical Image Analysis III

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
谷口 杏奈	今尾 仁		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 超音波画像の表現法 エコーレベル、腫瘤周辺の表現、アーチファクトの種類と成因</p> <p>第2回 走査の基本と効率的な描出法について 腹部での走査法を中心に。</p> <p>第3回 臓器、組織の検査の実際(1) 肝臓の検査と画像の理解。</p> <p>第4回 臓器、組織の検査の実際(2) 胆嚢・胆道、膵臓の検査と画像の理解。</p> <p>第5回 臓器、組織の検査の実際(3) 腎・尿路、脾、骨盤臓器の検査と画像の理解と超音波所見。</p> <p>第6回 臓器、組織の検査の実際(4) 頸部(頸動脈、甲状腺、唾液腺など)の検査と画像。</p> <p>第7回 臓器、組織の検査の実際(5) 心エコー、下肢血管エコーについて。</p> <p>第8回 臓器、組織の検査の実際(6) 乳腺の検査と画像。</p> <p>第9回 MRI検査(1) 頭部(脳、下垂体、眼窩など)</p> <p>第10回 MRI検査(2) 頸部、胸部・縦隔、腹部(肝臓・胆嚢膵臓、腎など)</p> <p>第11回 MRI検査(3) 骨盤(女性、前立腺、膀胱など)</p> <p>第12回 MRI検査(4) 乳房、心臓・循環器系</p> <p>第13回 MRI検査(5) MRA・MRI造影剤、副作用について</p> <p>第14回 MRI検査(6) 四肢、その他の部位について</p> <p>第15回 科目全体の振り返りと総括</p>	<p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>今尾 仁</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p> <p>谷口 杏奈</p>
科目の目的	<p>電離放射線を使用しないモダリティである超音波検査やMRI検査の適用や疾患による特徴所見などを解説する。 超音波検査について、画像はアーチファクトによって構築されたものであり、診断の助けとなるアーチファクトも多いことが他のモダリティとはもっとも異なる点である。また、アーチファクトが病変に特有な超音波所見を描出させるため、これらの成因を知っておくことは極めて重要である。 次にMRIは磁場とラジオ波を利用したモダリティで検査件数も非常に多く推移している。操作上のパラメータが多いなか、基本的な画像としてT1・T2強調、FLAIRなどについて理論とそれらの画像を識別することを学ぶ。(知識・理解)</p>	
到達目標	<p>診断への有用な情報を提供できるようになるには経験が大きいといえるが、はじめの一步として各モダリティによる正常解剖(例えば肝の8区域分類)を理解することにある。また典型的な病変画像を供覧することで病変を指摘し、形状などの特徴を的確に表現できることが到達目標である。</p>	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、病理学、生化学、医療放射線機器学、放射線物理学	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習も重要であるが、与えられた演習や課題について学習することも重要で、これらに1時間以上を費やしたい。	
教科書・参考書	<p>教科書：新版 わかる音響の基礎と腹部エコーの実技 菅和雄編著 医療科学社</p> <p>教科書：超実践マニュアルMRI 小倉明夫著 医療科学社</p> <p>参考書：診療画像機器学〔第2版〕岡部哲夫著 医歯薬出版株式会社</p>	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準	《専門》－Ⅲ－1－4－A－a～p 《専門》－Ⅲ－1－4－B－a～h 《専門》－Ⅲ－1－4－C－a～d	
履修条件・履修上の注意	解剖を立体イメージすることが大事であるため、予習として与えられた画像のシェーマを作成し、詳細な解剖名称を記入すること。	

講義科目名称：診療画像解析学演習

授業コード：1R084

英文科目名称：Exercise in Medical Image Analysis

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池 正行	谷口杏奈	今尾 仁

授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴	加藤英樹
	第2回	診療放射線技師の役割と義務 医療倫理、チーム医療	小池正行
	第3回	X線撮影技術 画像の成り立ち、撮影体位	小池正行
	第4回	被ばくの低減と防護	小池正行
	第5回	撮影技術、画像解剖	小池正行
	第6回	X線造影検査	加藤英樹
	第7回	X線CT検査、画像解剖	加藤英樹
	第8回	診療画像検査学 1 MRI検査	谷口杏奈
	第9回	診療画像検査学 2 MRI検査、画像解剖	谷口杏奈
	第10回	診療画像検査学 3 MRI検査、画像解剖	谷口杏奈
	第11回	診療画像検査学 4 超音波検査、画像解剖	今尾 仁
	第12回	診療画像検査学 5 超音波検査、画像解剖	今尾 仁
	第13回	診療画像検査学 6 眼底カメラ検査、画像解剖	今尾 仁
	第14回	診療画像検査学 7 総合復習	今尾 仁
	第15回	科目全体の振り返りと総括	加藤英樹
科目の目的	診療画像解析学Ⅰで主に学んだ一般撮影検査法（単純X線撮影法）、診療画像解析学Ⅱで主に学んだ消化管造影検査・血管造影検査・IVR（インターベンショナルラジオロジー）・CT検査、そして診療画像解析学Ⅲで主に学んだMRI検査・超音波検査等について、応用編としてより実践的な内容を学習する。検査精度に影響する因子、検査機器や画像の品質管理、そして最新技術や臨床応用等についても理解する。【知識・理解】		
到達目標	1 臨床における放射線検査の役割と範囲を説明できること 2 放射線検査の質の概念を理解すること 3 本科目が関連する国家試験問題レベルの知識を身につけること		
関連科目	診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学特論、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ		
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、ミニテスト(30%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分		
教科書・参考書	教科書：「2022年版 診療放射線技師国家試験 完全対策問題集 一精選問題・出題年別」村上和夫（オーム社） 参考書：「2022年版 診療放射線技師国家試験 合格!Myテキスト」		
オフィス・アワー	各先生とも随時（前もってメールがあると良い）		
国家試験出題基準	《専門》-Ⅰ-3-A～G、《専門》-Ⅰ-4-A～c		
履修条件・履修上の注意			
実務経験のある教員による授業			
実務経験	加藤 英樹（診療放射線技師）、小池 正行（診療放射線技師）、谷口 杏奈（診療放射線技師）、今		

	尾 仁（診療放射線技師）
授業の概要	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に、診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、画像技術を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。

講義科目名称：診療画像解析学実習 I

授業コード：1R085

英文科目名称：Practice in Medical Image Analysis I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
谷口 杏奈	小池 正行	今尾 仁	徳重 佑美子

授業形態	実習		担当者
授業計画	第1回	実習ガイダンス：班分け 実習準備について、実習の進め方、レポートの書き方、後片付け	谷口、小池、今尾、徳重
	第2－4回	X線撮影技術（1） 1. DSAの基礎、2、胃X線透視造影検査法	小池
	第5－7回	MRI画像検査 磁場に関連する安全管理	徳重
	第8－10回	X線撮影技術（2）	小池
	第11－13回	超音波画像検査の精度管理	今尾
	第14－16回	マンモグラフィー	谷口
	第17－19回	X線撮影技術（3）	徳重
	第20－22回	学生による実習報告会	谷口、小池、今尾、徳重
	第23回	まとめ（全員） レポート作成、提出	谷口、小池、今尾、徳重
科目の目的	診療画像解析学の領域でX線撮影の基礎的实践と理解を深めるために実施する実習である。X線撮影における防護の理解、最適な画像を得るための手法、受診者への対応などをファントムを用いた実習を行う。		
到達目標	各テーマ別に、検査技術の特徴、および得られた画像の特徴について理解を深める。また、受信者への接遇や医療における安全管理についての基本姿勢を身に着ける。		
関連科目	診療画像解析学 I, II, III 医療放射線機器学 I, II, III		
成績評価方法・基準	レポート100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実験テーマに従って実施するので予習を十分に行うこと。		
教科書・参考書	教科書：「新・医用放射線技術実験 基礎編」田中仁，他（共立出版） 教科書：「新・医用放射線技術実験 臨床編」田中仁，他（共立出版） 参考書：X線撮影技術学、日本放射線技術学会、オーム社 参考書：画像診断、百島祐貴、医学教育出版社		
オフィス・アワー	随時		
国家試験出題基準	3.1.1, 3.1.3.A~D,		
履修条件・履修上の注意	白衣を忘れた場合は、実習に参加できない		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	谷口杏奈（診療放射線技師）、小池正行（診療放射線技師）、今尾仁（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）		
授業の概要	「診療画像解析学 I」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。X線撮影装置は、画像診断機器として最も歴史が長く広く普及している。学内実習室にてX線を発生させ、最適な画像を得るための手法、ポジショニング、画質評価、受診者[患者]への接遇とコミュニケーションを学ぶ。また、X線施設環境の整備、放射線防護の実際、ファントムを用いた撮影実習を通して、臨床実践に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。具体的には、頭部撮影、胸部撮影、腹部撮影、脊椎撮影、四肢撮影など臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。		



講義科目名称：診療画像解析学実習Ⅱ

授業コード：1R086

英文科目名称：Practice in Medical Image Analysis II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池正行 丸山 星	谷口杏奈	徳重佑美子

授業形態	実習		担当者
授業計画	第1回	学内実習合同説明会	加藤英樹、 小池正行、 谷口杏奈、 丸山星、徳 重佑美子
	第2, 3, 4回	X線CT装置の基礎 構成と操作方法（ファントム撮影）、品質管理	徳重佑美子
	第5, 6, 7回	画像評価法の基礎1 MTF（空間分解能）、NNPS（ノイズ特性）	丸山 星
	第8, 9, 10回	PACS（医用画像管理システム）の基礎 臨床画像の画像表示と画像解剖の実践	加藤英樹
	第11, 12, 13 回	MRIの安全管理 磁場、高周波のリスクマネジメント	小池正行
	第14, 15, 16 回	マンモグラフィの基礎 マンモグラフィ装置の管電圧特性	谷口杏奈
	第17, 18, 19 回	画像評価法の基礎 2 ROC解析	丸山 星
	第20, 21, 22 回	学生による実習報告会（学内実習合同）	加藤英樹、 小池正行、 谷口杏奈、 丸山星、徳 重佑美子
	第23回	まとめ レポート作成・提出	
科目の目的	実機を使用して、診療画像解析学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識を主体的・実践的に学ぶ機会とする。X線撮影装置及び、CT、MRI等の検査機器に実際に触れて、操作して、画像を取得し、取得した画像を基に評価・解析を行う。画像診断で使用される画像表示装置の成り立ちと操作方法についても実践する。		
到達目標	1 実機の基本的な操作手順や機器の名称を正しく言えること 2 撮影条件の変化がどのように画像に影響するのかを理解すること 3 取得した画像の画質評価の概念が説明できること		
関連科目	診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学演習、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学特論、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ		
成績評価方法・基準	レポート(80%)、ミニツツペーパー(10%)、操作・説明・作成への積極的な取り組み(10%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習前の予習60分、講義後の復習60分		
教科書・参考書	教科書：「新・医用放射線技術実験 基礎編」田中仁、他（共立出版） 教科書：「新・医用放射線技術実験 臨床編」田中仁、他（共立出版）		
オフィス・アワー	各教員とも随時（前もってメールがあると良い）		
国家試験出題基準	《専門》-I-3-A~G, 《専門》-I-4-A~C		
履修条件・履修上の注意			
実務経験のある教員による授業			
実務経験	加藤 英樹（診療放射線技師）、小池 正行（診療放射線技師）、谷口 杏奈（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）		
授業の概要	「診療画像解析学Ⅱ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。「診療画像解析学Ⅱ」で学んだ画像検査の成り立ち、特徴について臨床実践に即した学内実習を通して学ぶ。正常画像と症例を含む臨床画像を提示し、正常画像における解剖学の理解を深める。具体的には、消化管造影検査、X線CT検査、造影X線検査、US検査、超音波検査等の撮影実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。		

講義科目名称：診療画像解析学実習Ⅲ

授業コード：1R087

英文科目名称：Practice in Medical Image Analysis III

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
谷口 杏奈	小池 正行	今尾 仁	徳重 佑美子

授業形態	実習			担当者
授業計画	第1回	実習ガイダンス：班分け 実習準備について、実習の進め方、レポートの書き方、後片付け		谷口、小池、今尾、徳重
	第2-4回	MRI検査（1）		谷口、徳重
	第5-7回	臍臓、腎臓、脾臓の超音波検査法		今尾 仁
	第8-10回	眼底検査とマンモグラフィー検査		谷口 杏奈
	第11-13回	甲状腺と頸動脈エコー検査、下肢動静脈エコー検査		今尾 仁
	第14-16回	肝臓、胆嚢・胆道の超音波検査法		今尾 仁
	第17-19回	MRI検査（2）		小池、徳重
	第20-22回	学生による実習報告会		谷口、小池、今尾、徳重
	第23回	まとめ（全員） レポート作成、提出		谷口、小池、今尾、徳重
科目の目的	「医療画像機器学Ⅲ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。また、「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ画像処理、診断読影の知識の必要性について学ぶ。具体的には、立体的な解剖知識を必要とする超音波画像、MRI検査装置と画像、乳房検査装置と画像、診断読影、眼底検査の画像の読み方、読影等、実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。（技能・表現）			
到達目標	特に、侵襲性はないといってもよい超音波検査は実習を通じて画像解剖の知識を得るのに恰好のモダリティであることから、解剖の知識を効果的に得ること、人体構造のノーマルバリエーションなどの知識を実証的に得ること。また、他のモダリティとは同一の人体構造物でも同一の病態でも異なった画像となることを知ることも到達目標とする。			
関連科目	「医療画像機器学Ⅲ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。また、「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ画像処の読み方、読影等、実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。（技能・表現）			
成績評価方法・基準	レポート評価、実習成果発表にて評価を行う。また、すべての出席を要す。			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	診療画像解析学Ⅲの内容の見直し、事前に配布された資料を予習し、講義後の復習も重要とする。			
教科書・参考書	教科書：「新・医用放射線技術実験 基礎編」田中仁，他（共立出版） 教科書：「新・医用放射線技術実験 臨床編」田中仁，他（共立出版）  参考書：新版 わかる音響の基礎と腹部エコーの実技 菅和雄編著 医療科学社 参考書：よくわかる 超音波検査入門講座 佐久間浩・桑島章 編集 永井書店			
オフィス・アワー	随時			
国家試験出題基準	《専門》－Ⅲ－1－4－A－a～p 《専門》－Ⅲ－1－4－B－a～h 《専門》－Ⅲ－1－4－C－a～d			
履修条件・履修上の注意				
実務経験のある教員による授業				
実務経験	谷口杏奈（診療放射線技師）、小池正行（診療放射線技師）、今尾仁（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）			
授業の概要	「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ画像診断機器について画像処理、診断読影を行う。具体的には、超音波装置と画像、MRI装置と画像、乳房検査装置と画像、診断読影、検査、眼底検査の画像の読み方、読影等、実習を通し			

て、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。

講義科目名称：診療画像解析学特論

授業コード：1R088

英文科目名称：Advanced Medical Image Analysis

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	富田博信	氏田浩一	大築慎一
	後藤由香	吉田一美	五月女康作

授業形態	講義（オムニバス方式／全15回）	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴	加藤英樹
	第2回 X線CT検査における臨床知識と最新情報1	富田博信
	第3回 X線CT検査における臨床知識と最新情報2	富田博信
	第4回 X線CT検査における臨床知識と最新情報3（ゲストスピーカー）	田口 浩
	第5回 MRI検査における臨床知識と最新情報1	氏田浩一
	第6回 MRI検査における臨床知識と最新情報2	氏田浩一
	第7回 MRI検査における臨床知識と最新情報3	五月女康作
	第8回 血管造影検査及びI V Rにおける臨床知識と最新情報1	大築慎一
	第9回 血管造影検査及びI V Rにおける臨床知識と最新情報2	大築慎一
	第10回 血管造影検査及びI V Rにおける臨床知識と最新情報3（ゲストスピーカー）	奈良部 奈保子、中村侑亮
	第11回 マンモグラフィ検査における臨床知識と最新情報1	後藤由香
	第12回 マンモグラフィ検査における臨床知識と最新情報2	後藤由香
	第13回 超音波検査における臨床知識と最新情報1	吉田一美
	第14回 超音波検査における臨床知識と最新情報2	吉田一美
	第15回 科目全体の振り返りと総括	加藤英樹
科目の目的	<p>本科目では臨床施設で実際に診療にたずさわっている講師が臨床現場における実践的な講義を展開する。</p> <p>様々な放射線検査モダリティの中から、X線CT検査、MRI検査、血管造影・I V R、マンモグラフィと乳腺診療、超音波画像検査について、臨床の中で特に求められる知識や技術的な諸問題を解説する。</p> <p>日進月歩の医療技術の中で、診療放射線技師に何が求められるのか、また医療者として患者にどのように接することが求められるのかなど、多角的な視点でより臨床実践に近い内容の知識と理解を目指す。最新の技術開発についても言及する機会とする。</p>	
到達目標	<p>1 各モダリティ毎に、診療放射線技師と患者とのコミュニケーションは何が重要なのか、患者側の不安は何が大きいのか、それらに対してどのように不安感を和らげることが求められるのかを理解すること。</p> <p>2 各モダリティ毎に、検査機器や検査方法が今後発展してゆくのか衰退してゆくのかを議論できるような知識を持つこと。</p>	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学演習、診療画像解析学実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、レポート（50％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	該当する講義テーマに関連する領域をそれぞれ診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲについて、予習をすること（1時間程度）。加えて講義後の復習をすること（1時間程度）。	
教科書・参考書	教科書：なし（講義資料を配布する予定）	
オフィス・アワー	随時（事前にメールがあるとよい）	
国家試験出題基準	《専門》－Ⅲ－1－4－A－a～p 《専門》－Ⅲ－1－4－B－a～h 《専門》－Ⅲ－2－2－A～F	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称：医療放射線機器学 I

授業コード：1R089

英文科目名称：Medical Radiation Equipments I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 医療放射線機器学 I 概要 この講座のガイダンスを行う。	齋藤祐樹
	第2回 総論：X線の発見、X線の発生と減弱、画像の形成 X線画像形成に必要な物理現象を理解する。	齋藤祐樹
	第3回 X線管装置1 X線管の構造と諸特性 2極真空管の構造に起因するV-I特性、ヒール効果などを理解する。	齋藤祐樹
	第4回 X線管装置2 許容負荷と熱容量、付属機器 短・長時間許容負荷、放射線防護の観点から総ろ過を理解する。	齋藤祐樹
	第5回 X線高電圧装置1 2ピーク形X線装置の構成と高電圧発生装置 単相全波整流である2ピーク形X線装置の動作原理を理解する。	齋藤祐樹
	第6回 X線高電圧装置1 2ピーク形X線装置の制御装置 空間電荷補償回路および時限装置の動作原理を理解する。	齋藤祐樹
	第7回 既出事項のまとめ 第1～6回までの範囲で小テストを行う。	齋藤祐樹
	第8回 X線高電圧装置2 三相電源の特徴と三相6ピーク装置 三相電源におけるスター結線、デルタ結線を学び、6ピーク形のリップル百分率を計算できる。	齋藤祐樹
	第9回 X線高電圧装置2 三相2重6ピークおよび三相12ピーク装置 各装置の特徴を理解し、リップル百分率が計算できる。また、テトロート管を用いた定電圧装置を学ぶ。	齋藤祐樹
	第10回 X線高電圧装置3 インバータ式X線装置（非共振形・共振形） 非共振形のDutty比および共振形の共振現象によりインバータ式X線装置の動作原理を理解する。	齋藤祐樹
	第11回 X線高電圧装置3 インバータ式X線装置の特徴 インバータ式X線装置の制御方式（PWM、周波数）および、高電圧変圧器の損失を理解する。	齋藤祐樹
	第12回 X線高電圧装置4 コンデンサ式X線装置 移動形X線装置であるコンデンサ式の動作原理・特徴を理解する。	齋藤祐樹
	第13回 X線高電圧装置4 自己整流形装置 携帯形X線装置である自己整流形X線装置の特徴を理解する。	齋藤祐樹
	第14回 自動露出制御装置 自動露出機構（Auto Exposure Control）の構造と特性を理解する。	齋藤祐樹
	第15回 散乱線除去用グリッド 散乱線の発生機序およびグリッドの構造と特性を理解する。	齋藤祐樹
科目の目的	X線撮影で用いられる診療画像機器について、基礎的知識を習得する事を目的とする。専門科目に配置され、国家試験の出題が多いため理解すること。【知識・理解・思考】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X線画像形成過程を習得する。</li> <li>・X線源装置の構造、特性を習得する。</li> <li>・X線高電圧発生装置の構造、特性を習得する。</li> <li>・自動露出装置の構造、特性を習得する。</li> <li>・散乱線除去用グリッドの構造、特性を習得する。</li> </ul>	
関連科目	診療画像解析学 I、診療画像解剖学 I、医療放射線機器学 II、医療電気・電子工学 I	
成績評価方法・基準	期末試験50 %、小テスト50 %	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の予習60分、講義後の復習60分	
教科書・参考書	教科書：「改訂新版 放射線機器学（I）」小倉泉，根岸徹，沼野智一（コロナ社） 参考書：「新・医用放射線科学講座 診療画像機器学（第2版）」岡部哲夫，小倉敏裕，石田隆行（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	金 12:00～	
国家試験出題基準	《専門》- I -2-A～K	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称：医療放射線機器学Ⅱ

授業コード：1R090

英文科目名称：Medical Radiation Equipments II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Computed Radiography (CR) デジタルとアナログの相違、CRの構成および画像処理（平滑化、鮮鋭度）を理解する。	齋藤祐樹
	第2回 X線平面検出器 (Flat Panel Detector) フラットパネル検出器 (FPD)の構造と画質（コントラスト、鮮鋭度、粒状度、量子検出効率）を理解する。	齋藤祐樹
	第3回 X線透視装置1 X線映像装置 I. I. (イメージインテンシファイア)-DRの構造と動作原理について理解する。	齋藤祐樹
	第4回 X線透視装置2 血管造影検査で用いられるDigital Subtraction Angiographyの動作原理および造影剤自動注入器について理解する。	齋藤祐樹
	第5回 乳房用X線装置（トモシンセシス含む） 乳房用X線装置の構成を理解し、品質管理手法を理解する。	齋藤祐樹
	第6回 診断用X線装置の品質管理 IEC, JIS規格などの関係法規を理解し、不変性試験手法を理解する。	齋藤祐樹
	第7回 医用画像表示用モニター 医用画像のデータフォーマット (DICOM)、医用モニターの構造および品質管理手法を理解する。	齋藤祐樹
	第8回 既出事項のまとめ 第1～7回までの範囲で小テストを行う。	齋藤祐樹
	第9回 X線CT装置の原理 基本構成と走査方式の変遷および画像再構成法の種類を理解する。	齋藤祐樹
	第10回 画像再構成法 ラドン変換、FBP、逐次近似法、サイノグラムおよび180・360°補間について理解する。	齋藤祐樹
	第11回 ヘリカルスキャンとマルチスライス ピッチファクターの画質との関係を理解する。	齋藤祐樹
	第12回 3次元画像とアーチファクト MPR、表面表示およびボリュームレンダリングとアーチファクトを理解する。	齋藤祐樹
	第13回 X-CT画像の画質評価 JISファントムにおける画質評価法を理解する。	齋藤祐樹
	第14回 X-CT検査と線量管理 CTDIを計算することができDRL2020を評価できる。	齋藤祐樹
	第15回 眼底カメラと骨塩定量装置 無散瞳眼底装置、骨塩定量装置の構成と検査法および画像解剖を理解する。	齋藤祐樹
科目の目的	X線透視撮影装置、循環器用X線撮影装置、乳房用X線装置、X線CT装置について撮影・撮像原理、システムの構成と特長、動作原理、安全管理などについて学習する。専門科目に配置され、国家試験の出題が多いため理解すること。【知識・理解】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル画像の知識を習得する。</li> <li>診断用X線装置の品質管理法を習得する。</li> <li>造影検査で用いられるX線透視撮影装置の特徴を習得する。</li> <li>X線CT装置の特徴を習得する。</li> </ul>	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ、診療画像解析学Ⅱ、診療画像解剖学Ⅰ、診療画像解剖学Ⅱ、医療放射線機器学Ⅰ	
成績評価方法・基準	期末試験50%、小テスト50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の予習60分、講義後の復習60分	
教科書・参考書	教科書：「改訂新版 放射線機器学（Ⅰ）」小倉泉，根岸徹，沼野智一（コロナ社） 参考書：「新・医用放射線科学講座 診療画像機器学（第2版）」岡部哲夫，小倉敏裕，石田隆行（医歯薬出版） 参考書：「若葉マークの画像解剖学 改訂第3版」磯辺智範（メディカルビュー社）	



オフィス・アワー	木曜 12時～
国家試験出題基準	《専門》1-2-D~G 《専門》1-2-I~K
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療放射線機器学Ⅲ

授業コード：1R091

英文科目名称：Medical Radiation Equipments III

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 超音波診断装置の特徴 超音波の物理現象、装置の構造と特性を理解する。	齋藤祐樹
	第2回 超音波診断装置の表示とアーチファクト Aモード、Mモード、Bモードおよび臨床例を理解する。	齋藤祐樹
	第3回 ドブラ法、その他の技術と装置の安全性 ドブラ法の原理、ハーモニックイメージ、エラストグラフィおよび熱・機械特性を理解する。	齋藤祐樹
	第4回 既出事項のまとめ 第1～3回までの範囲で小テストを行う。	齋藤祐樹
	第5回 NMR現象 核スピンおよびT1、T2緩和およびNMR信号について理解する。	齋藤祐樹
	第6回 MRIシステムの構成 静磁場、傾斜磁場、RFパルスおよびMRI装置安全性を理解する。	齋藤祐樹
	第7回 MRIシーケンス1 Spin Echo 法 90、180パルス、TR、TE、などの撮像パラメータからT1WI、T2WI、PDIを理解する。	齋藤祐樹
	第8回 MRIシーケンス2 Gradient Echo法 フリップ角、反転傾斜磁場などの撮像パラメータから画像コントラストを理解する。	齋藤祐樹
	第9回 MR画像の最適化 撮像パラメータとコントラスト、S/Nの関係を理解する。	齋藤祐樹
	第10回 MR画像の組織抑制技術 水抑制、脂肪抑制技術を理解する。	齋藤祐樹
	第11回 MRIのアーチファクト 各種アーチファクトの発生機序および対策を理解する。	齋藤祐樹
	第12回 MRアンジオグラフィと造影剤 TOF法とPC法およびT1、T2短縮造影剤を理解する。	齋藤祐樹
	第13回 高速スピンエコー法とEcho Planner Imaging FSEとEPIの相違点および高速撮像法におけるアーチファクトを理解する。	齋藤祐樹
	第14回 還流画像、拡散協調画像、functional MRI、化学シフト 高速撮影法、流れと拡散のイメージン、ケミカルシフト、BOLB効果、アーチファクト	齋藤祐樹
	第15回 MRI装置の品質管理 MRI装置の品質管理法を理解する。	齋藤祐樹
科目の目的	放射線を使用しない検査機器である超音波診断装置とMRI装置が対象となる。専門科目に配置され、国家試験の出題が多いため理解すること。【知識・理解】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>超音波の物理特性を習得する。</li> <li>超音波診断装置の構成および特性を習得する。</li> <li>超音波検査のアーチファクトを習得する。</li> <li>NMRの物理特性を習得する。</li> <li>MRI装置・シーケンスを習得する。</li> <li>MRIコントラストを習得する。</li> <li>MR検査の安全を習得する。</li> </ul>	
関連科目	診療画像解析学Ⅲ、診療画像解剖学Ⅲ、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	期末試験50%、小テスト50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前の予習60分、講義後の復習60分	
教科書・参考書	教科書：新版 わかる音響の基礎と腹部エコーの実技 菅和雄編著 医療科学社 教科書：MRIの基本 パワーテキスト 荒木力監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 参考書：MRI完全解説第2版 荒木力著 秀潤社	
オフィス・アワー	木曜 12時～	
国家試験出題基準	《専門》－Ⅲ－1－2－H－a～d 《専門》－Ⅲ－1－2－I－a～d 《専門》－Ⅲ－1－2－J－a～	

	b
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：診療画像解剖学 I

授業コード：1R092

英文科目名称：Medical Imaging Anatomy I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池正行	谷口杏奈	徳重佑美子

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴 画像検査と画像解剖学、放射線画像の成り立ち	加藤英樹
	第2回 四肢の単純X線画像	加藤英樹
	第3回 脊椎の単純X線画像	加藤英樹
	第4回 頭蓋骨の単純X線画像	小池正行
	第5回 胸部の単純X線画像	加藤英樹
	第6回 腹部の単純X線画像	加藤英樹
	第7回 骨盤部の単純X線画像	加藤英樹
	第8回 マンモグラフィ	谷口杏奈
	第9回 消化管の造影画像	小池正行
	第10回 胆道系・泌尿器系の造影画像	小池正行
	第11回 画像腹部の血管造影画像	小池正行
	第12回 頭頸部の血管造影画像	小池正行
	第13回 心血管の血管造影画像	小池正行
	第14回 生殖器系の造影画像	徳重佑美子
	第15回 科目全体の振り返りと総括	加藤英樹
科目の目的	診療放射線技師が行う画像検査は、人体内部の状態を解剖学的構造として描画するもの、生理機能を可視化する機能画像などがある。また、画像再構成によって再構築された三次元画像や時間軸に沿って収集されたデータから構成される動画像など様々である。本科目では、単純X線撮影や造影X線撮影などの画像検査において描出された診療画像において、人体の内部構造がどのように描出されるのか画像診断学の立場から、画像解剖学で学んだ基礎的知識と対比させ、読影の補助として理解する。【知識・理解・思考】	
到達目標	1 放射線画像に描出される人体の内部構造がどのように描出されるのかを、解剖学で学んだ基礎的知識と関連づけて理解する。 2 放射線画像に描出される構造について、X線の基本的な物理特性と対比して理解する。 3 診断や治療に必要な画像解剖と疾病の知識を学ぶ。	
関連科目	診療画像解剖学Ⅱ、診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学演習、診療画像解析学実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ	
成績評価方法・基準	定期試験(60%)、ミニテスト(20%)、レポート(10%)、授業内ハンズオンレポート(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分	
教科書・参考書	教科書：「若葉マークの画像解剖学 改訂第3版」磯辺智範（メディカルビュー社） 教科書：「グレイ解剖学 2版」塩田浩平（エルゼビア・ジャパン） 参考書：「ポケット正常画像A to Z」後関武彦	
オフィス・アワー	加藤：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。 小池：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。 谷口：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。 徳重：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。	
国家試験出題基準	《専門》- I -5-A~C	
履修条件・履修上		



講義科目名称：診療画像解剖学Ⅱ

授業コード：1R093

英文科目名称：Medical Imaging Anatomy II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池 正行	今尾 仁	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 本科目で学ぶ範囲の俯瞰と特徴 X線CT画像、MRI画像、超音波画像の特徴	加藤英樹
	第2回 頭部のX線CT、MRI画像	小池正行
	第3回 頸部のX線CT、MRI画像	小池正行
	第4回 脊椎・脊髄のX線CT、MRI画像	小池正行
	第5回 四肢のX線CT、MRI画像	小池正行
	第6回 心臓のX線CT、MRI 画像	小池正行
	第7回 胸部のX線CT、MRI画像	加藤英樹
	第8回 乳線のX線CT、MRI画像	加藤英樹
	第9回 腹部のX線CT、MRI画像 1 肝胆膵領域	加藤英樹
	第10回 腹部のX線CT、MRI画像 2 消化管、泌尿器領域	加藤英樹
	第11回 骨盤部のX線CT、MRI画像	加藤英樹
	第12回 頸部の超音波画像	今尾 仁
	第13回 心臓、乳腺の超音波画像	今尾 仁
	第14回 腹部・骨盤部の超音波画像、無散瞳眼底写真画像等	今尾 仁
	第15回 科目全体の振り返りと総括	加藤英樹
科目の目的	診療放射線技師が行う画像検査は、人体内部の状態を解剖学的構造として描画するもの、生理機能を可視化する機能画像などがある。また、画像再構成によって再構築された三次元画像や時間で描出された軸に沿って収集されたデータから構成される動画画像など様々である。本科目では、X線CT、MRI、超音波検査や造影X線撮影などの画像検査で描出された診療画像において、人体の内部構造がどのように描出されるのか、診療画像解剖学Ⅰで学んだ基礎的知識と対比させ、読影の補助として理解する。【知識・理解】	
到達目標	1 X線CT、MRI画像等に描出される人体の内部構造がどのように抽出されるのかを、解剖学で学んだ基礎的知識と関連づけて理解する。 2 画像検査で生成される医用画像から、画像診断や治療に必要な画像解剖と疾病の知識を学ぶ。	
関連科目	診療画像解剖学Ⅰ、診療画像解析学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学演習、診療画像解析学実習Ⅰ～Ⅲ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ～Ⅲ、医療放射線機器学Ⅰ～Ⅲ、診療画像解剖学Ⅰ～Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験(60%)、ミニテスト(20%)、レポート(10%)、授業内ハンズオンレポート(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行うこと。 学習時間の目安：予習60分、復習60分	
教科書・参考書	教科書：「若葉マークの画像解剖学 改訂第3版」磯辺智範（メディカルビュー社） 教科書：「グレイ解剖学 2版」塩田浩平（エルゼビア・ジャパン） 参考書：「ポケット正常画像 A to Z」後閑潤彦（メジカルビュー社）	
オフィス・アワー	加藤：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。 小池：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。 今尾：①在室していれば随時 ②質問・リクエストはいつでもメールで対応します。	
国家試験出題基準	《専門》-Ⅰ-6-A～C 《専門》-Ⅰ-5-C	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：診療画像解析学臨床実習 I

授業コード：1R094

英文科目名称：Clinical Practice in Medical Image Analysis I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
加藤 英樹	小池 正行	谷口杏奈	今尾 仁
	丸山 星	徳重佑美子	

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>「診療画像解析学Ⅰ」「診療画像解析学Ⅱ」「診療画像解析学Ⅲ」「医療放射線機器学Ⅰ」「医療放射線機器学Ⅱ」「医療放射線機器学Ⅲ」で習得した知識、「診療画像解析学実習Ⅰ」「診療画像解析学実習Ⅱ」「診療画像解析学実習Ⅲ」で獲得した知識・技術・態度を基に医療施設において診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。</p> <p>実習グループに臨床実習指導者を配置し、臨床実習施設にて学生指導を行う。実習は診療画像解析学Ⅰに関して以下の実習項目における知識・技術・態度の3領域について実践的に学ぶ。</p> <p>(1) 診療放射線技師の役割と義務          ・医療倫理・関係法規・照射記録・患者接遇          ・チーム医療・医療コミュニケーション・救急救命措置          ・医療安全・患者の援助技術・感染予防</p> <p>(2) 診療画像機器          ・X線装置・X線高電圧装置・X線映像装置          ・X線画像処理装置・関連・付属機器・PACS          ・乳房用X線装置・可搬型X線撮影装置          ・眼底写真撮影装置          ・診療画像機器の品質・安全管理</p> <p>(3) X線撮影技術          ・画像の成立・撮影体位・被ばく低減と防護          ・X線撮影・撮影条件・アーチファクト          ・画像処理・解析・評価</p> <p>(4) 診療画像検査          ・単純X線検査・眼底カメラ検査</p> <p>(5) 画像解剖          ・X線画像・眼底画像</p>	<p>加藤英樹、小池正行、谷口杏奈、今尾仁、丸山星、徳重佑美子</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p>
科目の目的	診療画像解析学Ⅰで必要とされる知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。	
到達目標	<p>(1) 医療倫理や患者待遇、医療安全について診療放射線技師の役割と義務を説明できる。</p> <p>(2) 適切な患者待遇、医療コミュニケーションが実践できる。</p> <p>(3) X線装置などの診療画像機器の基本原理や取扱いについて説明できる。</p> <p>(4) 診療画像機器の適切で安全な操作ができる。</p> <p>(5) 診療画像検査に求められるX線撮影技術について説明できる。</p> <p>(6) 撮影体位や撮影条件、画像処理などX線撮影技術を自ら実践できる。</p> <p>(7) 単純X線検査などの診療画像検査の意義について説明できる。</p> <p>(8) 単純X線画像における画像解剖が臨床的に説明できる。</p>	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ・診療画像解析学Ⅱ・診療画像解析学Ⅲ、診療画像解析学実習Ⅰ・診療画像解析学実習Ⅱ、診療画像解析学臨床実習Ⅱ、診療放射線学総合臨床実習	
成績評価方法・基準	<p>①臨床実習指導者による臨床実習評価（実習状況、学習評価、学習態度、総合評価）</p> <p>②臨床実習担当教授（科目責任者）による記録（実習ノート）の評価</p> <p>③臨床実習担当教授（科目責任者）による定期試験</p> <p>のそれぞれの評価を合算平均し、総合して成績判定を行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習前、実習後の自己学習として1時間程度	
教科書・参考書	教科書：RT臨床実習ルートマップ 橋本光康編集 メジカルビュー社 2016（3年時購入済）	
オフィス・アワー	事前に単位認定者に連絡すること	
国家試験出題基準	専門分野 I、IV、V、VI	
履修条件・履修上の注意		
実務経験のある教員による授業		

実務経験	加藤 英樹（診療放射線技師）、倉石 政彦（診療放射線技師）、星野 修平（診療放射線技師）、渡邊 浩（診療放射線技師）、小池 正行（診療放射線技師）、岩井 譜憲（診療放射線技師）、齋藤 祐樹（診療放射線技師）、谷口 杏奈（診療放射線技師）、今尾 仁（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）
授業の概要	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に医療施設において診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、診療画像解析を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
谷口 杏奈	小池 正行	加藤 英樹	今尾 仁
	丸山 星	徳重 佑美子	

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>「診療画像解析学Ⅰ」「診療画像解析学Ⅱ」「診療画像解析学Ⅲ」を基礎として、血管造影、X線CT、MRI、超音波検査、眼底検査等に関する各機器の取扱いや撮影技術、画像評価、データ処理について学ぶ。また、これらの画像検査は技師と患者との対応だけでなく、医師、看護師、他の医療スタッフとの連携を要し、チーム医療や医療情報連携、医療コミュニケーションの機会を通して、診療放射線技師の機能と役割を理解する。</p> <p>実習グループに臨床実習指導者を配置し、臨床実習施設にて学生指導を行う。実習は診療画像解析学Ⅱに関して以下の実習項目における知識・技術・態度の3領域について実践的に学ぶ。</p> <p>(1) 診療放射線技師の役割と義務  ・医療倫理・診療放射線技師の役割  ・多職種連携・医療環境  ・医療事故防止・医療安全対策  ・読影の補助・検像・画像の確定</p> <p>(2) 診療画像機器  ・X線CT装置・MRI装置・超音波画像診断装置  ・造影剤自動注入器・X線透視撮影装置  ・循環器用X線装置・歯科用X線装置  ・骨密度測定装置  ・診療画像機器の品質・安全管理</p> <p>(3) X線撮影技術  ・X線造影検査・X線CT検査・造影剤・IVR・歯科X線検査  ・アーチファクト・三次元処理  ・画像処理・解析・評価</p> <p>(4) 診療画像検査  ・MRI検査・超音波検査</p> <p>(5) 画像解剖  ・X線造影画像・X線CT画像・MR画像・超音波画像</p>	<p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p> <p>各施設の実習指導者</p>
科目の目的	診療画像解析学Ⅱで必要とされる知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。チーム医療や医療情報連携、医療コミュニケーションの機会を通して、診療放射線技師の機能と役割を理解する。	
到達目標	<p>(1) 多職種連携や医療安全対策について診療放射線技師の役割と義務を説明できる。</p> <p>(2) 読影の補助、検像、画像の確定について診療放射線技師の役割と義務を説明できる。</p> <p>(3) X線CT装置、MRI装置、超音波画像診断装置などの診療画像機器の基本原理や取扱いについて説明できる。</p> <p>(4) 診療画像機器の適切で安全な操作ができる。</p> <p>(5) 診療画像検査に求められるX線撮影技術、画像撮影検査について説明できる。</p> <p>(6) 撮影体位や撮影条件、画像処理など、X線撮影、画像撮影を自ら実践できる。</p> <p>(7) X線CT線検査やMRI検査、超音波画像検査などの診療画像検査の意義について説明できる。</p> <p>(8) 診療画像検査における画像解剖が臨床的に説明できる。</p>	
関連科目	診療画像解析学Ⅰ・診療画像解析学Ⅱ・診療画像解析学Ⅲ、診療画像解析学実習Ⅰ・診療画像解析学実習Ⅱ、診療画像解析学臨床実習Ⅰ、診療放射線学総合臨床実習	
成績評価方法・基準	<p>①臨床実習指導者による臨床実習評価（実習状況、学習評価、学習態度、総合評価）</p> <p>②臨床実習担当教授（科目責任者）による記録（実習ノート）の評価</p> <p>③臨床実習担当教授（科目責任者）による定期試験</p> <p>のそれぞれの評価を合算平均し、総合して成績判定を行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習前、実習後の自己学習として1時間程度	
教科書・参考書	教科書：RT臨床実習ルートマップ 橋本光康編集 メジカルビュー社 2016（3年時購入済）	
オフィス・アワー	事前に単位認定者に連絡すること	
国家試験出題基準	専門分野 I、IV、V、VI	
履修条件・履修上の注意		

実務経験のある教員による授業	
実務経験	谷口 杏奈（診療放射線技師）、星野 修平（診療放射線技師）、倉石 政彦（診療放射線技師）、渡邊 浩（診療放射線技師）、小池正行（診療放射線技師）、岩井 譜憲（診療放射線技師）、齋藤 祐樹（診療放射線技師）、加藤英樹（診療放射線技師）、今尾 仁（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）
授業の概要	これまで学内で学んできた診療画像解析学の諸科目を基礎として、血管造影、X線CT、MRI、超音波検査、眼底検査に関する各機器の取扱い法や撮影技術、画像評価、データ処理について学ぶ。また、これらの検査は技師と患者との対応だけではないため、医師、看護師、コ・メディカルの連携を知る機会であることを自覚する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
渡邊 浩	渡邊 浩		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 核医学検査の概要 核医学の歴史と核医学検査とはどんな検査なのか、核医学検査の特徴と概要を講義する。	渡邊 浩
	第2回 核医学検査で分かる臓器の機能と人体の病態 臓器の機能や人体の病態を画像化できる核医学検査について放射性医薬品の人体投与から画像および診断情報作成までの過程を講義する。	渡邊 浩
	第3回 核医学検査技術学のための放射化学 核医学検査技術学の基礎となる放射化学（人工放射性核種、放射性核種の継時的変化を中心に）を講義する。	渡邊 浩
	第4回 核医学検査技術学のための放射線物理学 核医学検査技術学の基礎となる放射線物理学（放射性壊変、放射線と物質との相互作用を中心に）を講義する。	渡邊 浩
	第5回 核医学検査技術学のための放射線生物学 核医学検査技術学の基礎となる放射線生物学（内部被ばく、生物効果比を中心に）を講義する。また、核医学検査により患者が受ける線量の人体影響についてグループワークを行って知識を深める。	渡邊 浩
	第6回 核医学検査技術学のための放射線計測学 核医学検査技術学の基礎となる放射線計測学（エネルギー分解能、スペクトロメトリ、放射能測定を中心に）を講義する。	渡邊 浩
	第7回 核医学検査・治療に用いられる核種 核医学検査・治療にはそれぞれ適した核種が使用されている。核医学に適した核種の特徴について講義する。また、核医学検査・治療に適した核種の特徴についてグループワークを行って知識を深める。	渡邊 浩
	第8回 放射性医薬品及びRIの製造 核医学検査・治療に用いられる放射性医薬品の集積機序等の特徴とRI（ラジオアイソトープ）の製造方法について講義する。	渡邊 浩
	第9回 核医学検査・治療に用いられる機器 ガンマカメラ、PET装置等、核医学検査・治療に用いられる機器の種類と概要について講義する。	渡邊 浩
	第10回 ガンマカメラを用いた検査1（脳神経系と循環器系） ガンマカメラを用いた検査の種類と概要について理解するために脳神経系と循環器系に絞って講義する。	渡邊 浩
	第11回 ガンマカメラを用いた検査2（内分泌系と骨・腫瘍系） ガンマカメラを用いた検査の種類と概要について理解するために内分泌系と骨・腫瘍系に絞って講義する。	渡邊 浩
	第12回 PET検査 PET検査の種類と概要を理解するために腫瘍系に絞って講義する。	渡邊 浩
	第13回 核医学画像技術 核医学検査は放射性医薬品の人体内投与から画像および診断情報作成までの過程で、収集補正、再構成、画像補正などの画像技術を必要とする。これらの種類と概要について講義する。	渡邊 浩
	第14回 核医学治療、インビトロ検査および核医学の放射線防護 核医学は検査だけでなく治療することも特徴である。核医学治療の種類と治療法を示しながら核医学治療の特徴について講義する。また、インビトロ検査の種類と特徴についても講義する。さらに、非密封RIを使用する核医学の放射線防護について講義する。	渡邊 浩
	第15回 核医学検査・治療の特徴と概要の総括 核医学検査技術学 I で講義してきた核医学検査・治療の様々な特徴と概要について総括して講義する。	渡邊 浩

科目の目的	<p>人体の病態や生理機能を画像化する核医学検査について、基礎的原理および放射性医薬品の人体内投与から画像および診断情報作成までの過程を学習する。 核医学検査に用いられる核種、放射性医薬品ならびに撮像原理の基礎について学習する。 核医学検査技術学を理解する際、付随して必要とされる基礎事項（放射線物理学、放射化学、放射線生物学、放射線計測学）について学習する。 核医学検査・治療を安全に実施するための前提となる放射線防護および医療安全方策について学習する。 これらの学習を通じて核医学検査・治療の特徴について理解することを目的とする。 【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>核医学検査・治療の基礎原理となる放射化学および放射線物理学が説明できる。</li> <li>核医学検査・治療の基礎原理となる放射線生物および放射線計測学が説明できる。</li> <li>核医学検査・治療に用いられる核種、放射性医薬品、機器について説明できる。</li> <li>核医学検査の放射性医薬品の人体内投与から画像および診断情報作成までの過程の概略を説明できる。</li> <li>放射性医薬品を用いた治療やインビトロ検査の概要について説明できる。</li> </ol>
関連科目	核医学検査技術学Ⅱ、核医学機器工学、核医学検査技術学演習、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射化学、放射線生物学、放射線計測学Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、授業ごとの課題、レポート（30％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に教科書あるいは講義資料を熟読してください。また、課題あるいはレポートを出しますので必ず提出してください。予習と復習で1時間～1時間30分
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>A 新核医学技術総論 技術編 日本核医学技術学会編 山代印刷株式会社 B 新核医学技術総論 臨床編 日本核医学技術学会編 山代印刷株式会社</p> <p>参考図書</p> <p>A 核医学検査技術学 改訂3版 日本放射線技術学会監修 オーム社 B 放射線取扱の基礎 8版 日本アイソトープ協会</p>
オフィス・アワー	随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	《核医学検査技術学》-Ⅱ-1-A～D, Ⅱ-2-A～D, Ⅱ-3-A-a～f, Ⅱ-5-A-a, Ⅱ-5-B-a, Ⅱ-5-D-a, Ⅱ-5-H-a
履修条件・履修上の注意	予習と復習を行って確実に講義内容を習得してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
渡邊 浩	渡邊 浩		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 核医学検査・治療の臨床的特徴と必要な知識 臨床核医学の概要と履修するために必要な知識や他の検査との違いについて講義する。	渡邊 浩
	第2回 脳神経系 脳神経系核医学検査である脳血流検査、脳疾患検査等とその定量法について放射性医薬品ごとの特徴を含めて講義する。	渡邊 浩
	第3回 循環器系 循環器系核医学検査について、心筋血流検査、脂肪酸代謝検査、交感神経検査等について放射性医薬品ごとの特徴を含めて講義する。	渡邊 浩
	第4回 呼吸器系、内分泌系 呼吸器系および内分泌系核医学検査について、肺血流検査、肺換気検査、甲状腺検査、副甲状腺検査等について放射性医薬品ごとの特徴を含めて講義する。	渡邊 浩
	第5回 骨・腫瘍・炎症系 骨・腫瘍・炎症系核医学検査である 骨シンチ、ガリウムシンチ、腫瘍シンチ等について放射性医薬品ごとの特徴を含めて講義する。	渡邊 浩
	第6回 消化器系、泌尿器系、血液・末梢系 消化器系、泌尿器系および血液・末梢系核医学検査である肝代謝検査、消化管出血シンチ、レノグラム検査、副腎シンチ等について放射性医薬品ごとの特徴を含めて講義する。	渡邊 浩
	第7回 小児核医学とインビトロ検査 小児核医学検査について脳血流検査、腎シンチ等について放射性医薬品ごとの特徴を含めて講義する。また、インビトロ検査の特徴についても講義する。	渡邊 浩
	第8回 PETの撮像法---脳と心筋 脳と心筋のPET検査のプロトコール、使用機器、注意点等の撮像法について講義する。	渡邊 浩
	第9回 PETの撮像法---腫瘍 腫瘍のPET検査のプロトコール、使用機器、注意点等の撮像法について講義する。	渡邊 浩
	第10回 PETの臨床---脳と心筋 脳と心筋のPET検査の臨床について正常例や疾患例を講義する。	渡邊 浩
	第11回 PETの臨床---腫瘍 腫瘍のPET検査の臨床について正常例や疾患例を講義する。	渡邊 浩
	第12回 核医学治療 核医学は検査だけでなく治療することができることも特徴であり、この分野の進展が期待されている。他の治療法と核医学治療の違いを示しながら核医学治療の特徴と実際について講義する。	渡邊 浩
	第13回 核医学検査・治療における放射線防護 核医学は非密封RIを使用するため放射線管理項目が多く、また、内部被ばくという特徴がある。これらに付随した放射線防護の具体的方策について講義する。	渡邊 浩
	第14回 核医学検査・治療における医療事故防止 核医学は放射性医薬品を投与して検査を行うという特徴がある。それに伴って誤投与等の医療事故も発生する可能性がある。核医学特有の医療事故とその防止策について講義する。	渡邊 浩
	第15回 核医学検査・治療の臨床的特徴の総括 核医学検査技術学Ⅱで講義してきた臨床核医学検査・治療について総括して講義する。	渡邊 浩
科目の目的	核医学検査技術学Ⅰで学習した内容を踏まえて、人体の病態・生理機能の情報を画像化する原理を再確認しながら実際の画像を通じて核医学検査の特徴を学習する。 医学的・解剖学的基礎知識を復習しながら正常例と疾患例を比較する。また、それぞれの検査では臓器や機器の特徴を踏まえた収集法や解析手技について学習する。 これらの学習を通じて核医学検査・治療の臨床を理解することを目的とする。	

	<b>【知識・理解】</b>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 核医学検査の器官系・臓器別ごとに放射性医薬品の人体臓器等への集積機序を説明できる。</li> <li>2. 各検査の目的、方法、前処置、負荷、副作用を説明できる。</li> <li>3. 各検査の正常画像および主な疾患画像、アーチファクト画像を説明できる。</li> <li>4. 核医学治療について具体的に説明できる。</li> <li>5. 核医学検査における放射線防護と医療安全方策について具体的に説明できる。</li> </ol>
関連科目	核医学検査技術学Ⅰ、核医学機器工学、核医学検査技術学演習、核医学検査技術学実習、核医学検査技術学臨床実習、解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、診療放射線学概論、診療画像解析学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、授業ごとの課題、レポート（30％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に教科書あるいは講義資料を熟読してください。また、講義ごとに要点を再確認するための課題あるいはレポートを出しますので次の講義までに行ってください。次の講義の最初に確認を行います。予習と復習で1時間～1時間30分
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>A 新核医学技術総論 技術編 日本核医学技術学会編 山代印刷株式会社</p> <p>B 新核医学技術総論 臨床編 日本核医学技術学会編 山代印刷株式会社</p> <p>参考書</p> <p>A 最新臨床核医学 第3版 金原出版株式会社</p>
オフィス・アワー	随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	《核医学検査技術学》-Ⅱ-1-A～D、Ⅱ-2-A～D、Ⅱ-3-A、Ⅱ-4-A、Ⅱ-5-A～J
履修条件・履修上の注意	予習と復習を行って確実に講義内容を習得してください。

講義科目名称：核医学機器工学

授業コード：1R098

英文科目名称：Nuclear Medicine Equipment Engineering

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
渡邊 浩	渡邊 浩		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 核医学機器工学の概要 核医学機器工学を履修するために必要な知識・技術について講義する。	渡邊 浩
	第2回 放射性医薬品と核医学機器の関係 核医学撮像装置に適したRIの特徴や製造方法を講義する。	渡邊 浩
	第3回 In Vivo 検査システム---検出器とコリメータ等 In Vivo 検査システムを構成する検出器とコリメータ等について講義する。	渡邊 浩
	第4回 In Vivo 検査システム---周辺装置 In Vivo 検査システムのドーズキャリブレーション、自動分注器等の周辺装置について講義する。	渡邊 浩
	第5回 SPECT装置と画像再構成 SPECT装置と画像再構成法であるFBP法・OSEM法の特徴と長短等について講義する。	渡邊 浩
	第6回 核医学検査の画像処理 核医学検査の画像処理として前処理、フィルター処理、吸収補正および散乱補正等について講義する。	渡邊 浩
	第7回 核医学機器と検査法 核医学検査の画像処理（補正法含む）について講義する。	渡邊 浩
	第8回 SPECT/CT装置と画像の重ね合わせ SPECT/CT装置を使用した画像の重ね合わせの有用性と注意点について講義する。	渡邊 浩
	第9回 ガンマカメラの性能評価 ガンマカメラの性能評価法と保守点検方法について講義する。	渡邊 浩
	第10回 PET装置の計測原理 PET装置の概要と計測原理について講義する。	渡邊 浩
	第11回 2D収集と3D収集 PET検査の2D収集と3D収集法の違いと長短について講義する。	渡邊 浩
	第12回 PET装置の性能評価と補正法 PET装置の性能評価と補正法について講義する。	渡邊 浩
	第13回 PET検査の周辺機器と核医学の放射線管理用施設・設備 サイクロトロンや合成装置等のPET検査の周辺装置について講義する。また、核医学の放射線管理用施設・設備について講義する。	渡邊 浩
	第14回 核医学診療の医療安全と防護 核医学診療特有の医療安全と放射線防護方策を講義する。	渡邊 浩
	第15回 核医学機器工学のまとめ 核医学機器工学で講義してきた内容を総括して講義する。	渡邊 浩
科目の目的	核医学検査は、核医学撮像装置と撮像技術ならびに画像処理・解析技術を駆使することで精度の高い検査を行うことができます。本科目では核医学検査に使用する撮像装置を中心に関連装置・技術も含めて核医学検査に関連する機器の機構と役割について学習します。【知識・理解】	
到達目標	ガンマカメラの基本原則、構成機器の役割および性能評価法について説明できる。 PET装置の基本原則、構成機器の役割および性能評価法について説明できる。 核医学周辺ならびに関連装置の機構、役割、性能等について説明できる。 プログラムを使った画像処理、補正法および解析法について説明できる。 画像重ね合わせと核医学技術の特徴や有用性を説明できる。	
関連科目	核医学検査技術学ⅠとⅡ、核医学検査技術学演習、核医学検査技術学実習、放射化学、放射線物理学ⅠとⅡ、放射線計測学ⅠとⅡ	
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、課題あるいはレポート（30％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に教科書あるいは講義資料を熟読してください。また、要点を再確認するための課題あるいはレポートを出しますので必ず提出してください。予習と復習で1時間30分	
教科書・参考書	参考書 新核医学技術総論 技術編 日本核医学技術学会編 山代印刷株式会社（2年次に購入済） 参考書 新核医学技術総論 臨床編 日本核医学技術学会編 山代印刷株式会社（2年次に購入済）	

オフィス・アワー	随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	《核医学検査技術学》-Ⅱ-1-A～D、Ⅱ-2-A～F、Ⅱ-3-A～B、Ⅱ-4-A～B
履修条件・履修上の注意	予習と復習を行って確実に習得してください。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
渡邊 浩	渡邊 浩		

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 核医学検査技術学演習の概要 核医学検査技術学演習を履修するために必要な知識や演習の流れについて講義する。	渡邊 浩
	第2回 核医学検査の目的と対象疾患 核医学検査の目的と有用性の高い対象疾患について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第3回 放射性医薬品の動態解析と病態との関係 核医学検査は臓器の機能を画像化できる有用性があり投与した放射性医薬品の体内動態を知ることが非常に重要である。そこで、放射性医薬品の動態解析と病態との関係について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第4回 核医学検査の特徴と収集方法 核医学検査は投与したRIの体内動態に合わせて動態、静態、断層等の収集方法を選択あるいは組み合わせて実施している。そこで、核医学検査ごとの特徴を踏まえた収集方法について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第5回 核医学検査の特徴と前処置 精度の高い核医学検査を実施するためには前処置を的確に実施する必要がある。そこで、核医学検査の特徴を踏まえた検査ごとく前処置について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第6回 循環器系・内分泌系の放射性薬剤の集積機序と検査法 循環器系・内分泌系核医学検査に使用される放射性薬剤ごとの集積機序と検査法について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第7回 脳神経系核医学検査の定量法と解析法 脳神経系核医学検査に用いられているパトラックプロット法等の種々の定量法と解析法等について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第8回 呼吸器系の放射性薬剤の集積機序と検査法 呼吸器系核医学検査では肺血流シンチと肺換気シンチを併用することで精度を高めている。そこで、呼吸器系の放射性薬剤の集積機序と検査法について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第9回 泌尿器系核医学検査の定量法の基本原理 泌尿器系核医学検査では放射性薬剤を使い分けてそれぞれの臓器機能指標を定量評価している。そこで、泌尿器系核医学検査の定量法の基本原理について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第10回 骨腫瘍系の放射性薬剤の集積機序と検査法 核医学検査の代表的な検査である骨腫瘍系核医学検査に用いられる放射性薬剤の集積機序と検査法について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第11回 臨床核医学領域等の総括 臨床核医学領域等の総括を行うとともに単位取得のための授業内試験（筆記）を行う。	渡邊 浩
	第12回 撮像装置の性能評価 核医学検査において撮像装置の性能を維持することは重要であり定期的な保守管理も必要になる。その基礎となる撮像装置の性能評価について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第13回 核医学検査の画像処理及び解析 核医学検査の前処理、フィルター処理等の画像処理及び解析について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩

	第14回 PET装置の性能評価と臨床的有用性 PET検査は研究目的から進展し汎用的に用いられている。そこで、PET装置の性能評価と臨床的有用性について教科書等の問題をグループディスカッションにて演習する。	渡邊 浩
	第15回 核医学検査技術学演習のまとめ 本科目の演習により得られた診療放射線技師としての知識や問題解決能力を総括して演習する。	渡邊 浩
科目の目的	核医学検査は、放射性医薬品、核医学撮像装置、撮像技術ならびに画像処理・解析技術が適切に融合してはじめて精度の高い検査を行うことができます。本科目では「核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ」等で学んだことを基に核医学検査の定量性向上を目的とした収集法・画像再構成法・解析法、検査ごとの放射性薬剤の集積機序・体内動態・対象疾患等について問題等を用いて総合的に演習を行い、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養います。【思考・判断】	
到達目標	疾患に合わせた核医学検査と放射性薬剤の組みあわせとその選択理由を説明できる。 放射性薬剤の体内動態とその解析法ならびに病態との関係を説明できる。 核医学検査ごとの前処置と撮像方法を説明できる。 核医学検査ごとの定量法と注意点を説明できる。 核医学検査に用いられる撮像装置と周辺装置の特性と性能評価法ならびに保守管理法について説明できる。	
関連科目	核医学検査技術学ⅠとⅡ、核医学検査技術学機器工学、核医学検査技術学実習、放射化学、放射線物理学ⅠとⅡ、放射線計測学ⅠとⅡ	
成績評価方法・基準	授業内試験（70%）、レポート（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習と復習で1時間～1時間30分	
教科書・参考書	教科書：2021年版 診療放射線技師国家試験 合格！Myテキスト 過去問データベース+模擬問題付 オーム社	
オフィス・アワー	随時（前もってメールがあると良い）	
国家試験出題基準	《核医学検査技術学》Ⅱ-1～5	
履修条件・履修上の注意	予習と復習を行って確実に習得してください。	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	渡邊 浩（診療放射線技師）	
授業の概要	「核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ」及び「核医学機器工学」等で学んだことを基に総合的に演習を行い、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、SPECT検査の定量性向上を目的とした収集法・画像再構成法・解析法やコンパートメントモデル解析、デコンボリューション解析の概念を学習し、シミュレーション等の演習を行う。	

講義科目名称：核医学検査技術学実習

授業コード：1R100

英文科目名称：Practice in Nuclear Medicine Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
渡邊 浩	渡邊 浩	丸山 星	

授業形態	実習		担当者
授業計画	第1回	合同ガイダンスおよび実習概論 実習の進め方、レポート指導および実習事前学習	渡邊 浩、丸山 星
	テーマ1	RIのDynamic投与と腎動態シンチの実際 RIのDynamic投与にて検査を行う腎動態シンチを前処置からポジショニング・検査までをコールドランにて実際に体験する。	渡邊 浩
	テーマ2	均一性の評価 SPECTの均一性は検出器の感度均一性に影響を受けるものであり、不均一な場合は様々なアーチファクトが出現する。シミュレーションソフトを使用し様々な条件における標準偏差、変動係数、均一性を求め、均一性の評価方法を修得する。	丸山 星
	テーマ3	骨シンチの実際 核医学検査の代表的な検査である骨シンチについて前処置から、誤投与防止対策を含めたRI投与、着替え、検査、全身像からの追加撮像や問診までを体験し核医学検査の流れとそれぞれのポイントを理解できるようにする。	渡邊 浩
	テーマ4	データ処理法による画質の変化 核医学画像のデータ処理法には前処理、再構成、フィルタ、吸収補正、散乱線補正など様々な処理が含まれる。シミュレーションソフトを使用し様々な条件における画質の変化を評価し、データ処理方法を修得する。	丸山 星
	テーマ5	核医学検査の患者や家族への説明 核医学検査の特徴を踏まえた患者や家族への説明資料を作成し実際に模擬的に説明を行う。	渡邊 浩
	テーマ6	ミルクキング等の放射性同位元素の安全取扱 核医学検査は検査に用いる核種が短寿命核種である場合、自施設においてミルクキング、標識を行い製剤の準備を行っている。模擬試料を使用して検査に必要な放射性薬剤の安全な操作方法を修得する。	丸山 星
	第15回	総合実習報告会 本科目による実習で習得したことを学生全員で報告会を行い、学生の習得状況の相互確認を行うとともに発表に関する知識・技術を習得する。	渡邊 浩、丸山 星
科目の目的	核医学検査技術学の諸科目で得られた基礎知識により、装置の保守管理・性能試験について実習を通して学習する。核医学画像のデータ処理法には前処理、再構成、フィルタ、吸収補正、散乱線補正など様々な処理があり、シミュレーションソフトを使用し様々な条件における画質の変化を評価し、データ処理方法を修得する。また、核医学検査は非密封放射性同位元素を使用する特徴があり、その特徴に合わせた放射線施設管理を行うとともに放射線診療従事者ならびに一般公衆の安全を確保する必要がある。放射線防護法令に規定された線量基準を担保していることを確認するための安全評価法である核医学領域のしゃへい計算法を習得するとともに核医学検査に使用する放射性同位元素の特徴を理解する。さらに、ミルクキング等の放射性同位元素の安全取扱ならびに核医学検査の特徴を踏まえた患者説明方法を習得する。【思考・判断】 【技能・表現】		
到達目標	核医学しゃへい計算（空間線量）を実践することにより放射性同位元素の1日最大使用予定数量等の基準、管理区域の境界等の空間線量基準およびしゃへい計算の考え方の理解する。 核医学しゃへい計算（空気中濃度・排気中濃度）を実践することにより放射性同位元素の飛散率、空気中濃度限度および排気中濃度限度について理解する。 核医学検査の特徴を踏まえた患者や家族への説明資料を作成し実際に模擬的に説明を行うことでインフォームドコンセントの重要性や核医学検査において患者や家族に説明すべきことを理解する。 核医学検査画像における総合均一度の評価方法を修得する。 核医学画像の画質に影響を及ぼすデータ処理の方法を修得する 模擬試料を使用してミルクキングや標識など検査に必要な手技を修得する		
関連科目	核医学検査技術学Ⅰ、核医学検査技術学Ⅱ、核医学機器工学、核医学検査技術学演習、核医学検査技術学臨床実習、放射線安全管理学、放射線関連法規		
成績評価方法・基準	レポート評価（100%）、レポートは提出時に指導し返却する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書、参考書あるいは事前配布資料で各実習テーマに関する予習を行い、実習後に復習を各1時間行うこと。		
教科書・参考書	参考書：新医用放射線技術実験 臨床編 共立出版 参考書：放射線取扱の基礎第8版（あるいは第9版） 日本アイソトープ協会		

オフィス・アワー	随時（前もってメールがあると良い）
国家試験出題基準	《核医学検査技術学》-Ⅱ-1-A-a～c, D、Ⅱ-2-B-b～e, F-a～b、Ⅱ-4-A-a～f、Ⅱ-5-D-a, F-a, H-a
履修条件・履修上の注意	実習中は白衣を着用すること。
実務経験のある教員による授業	
実務経験	渡邊 浩（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）
授業の概要	核医学検査技術学の諸科目で得られた基礎知識により、装置の保守管理・性能試験の実習を通して学習する。性能試験方法は関連する協会・学会・委員会が種々の方法を提案し、規格勧告として公表している。具体的には、画像の処理技術、ガンマカメラについては計数特性、直線性、均一性、分解能、SPECT（コリメータ）については空間分解能、感度不均一性、データ収集法による画質の変化、データ処理法による画質の変化等について学習する。

講義科目名称：核医学検査技術学臨床実習

授業コード：1R101

英文科目名称：Clinical Practice in Nuclear Medicine Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
渡邊 浩			

授業形態	実習	担当者
授業計画	第1回 参加観察実習（1） 施設内全体概要：施設全体、放射線検査室あるいは核医学検査室等 施設行動規程：施設内各種規程 診療放射線技師の役割と義務：診療放射線技師の役割と医療倫理、患者接遇 核医学診療の概要：核医学診療の種類、放射性医薬品および検査法等	実習先医療 機関担当者
	第2回 参加観察実習（2） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第3回 参加観察実習（3） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第4回 参加観察実習（4） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第5回 参加観察実習（5） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第6回 参加観察実習（6） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第7回 参加観察実習（7） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第8回 参加観察実習（8） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者
	第9回 参加観察実習（9） 核医学測定装置：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術：ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析：データ処理装置 核医学画像処理・解析：データ処理/画像解析ソフト 核医学診療：当日の核医学診療	実習先医療 機関担当者

	第10回 参加観察実習 (10) 核医学測定装置 : ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学測定技術 : ガンマカメラ/SPECT装置/PET装置の何れか 核医学データ処理・解析 : データ処理装置 核医学画像処理・解析 : データ処理/画像解析ソフト 核医学診療 : 当日の核医学診療	実習先医療機関担当者
科目の目的	これまで学内で学んできた核医学検査技術学の諸科目などを基礎として、臨床現場における放射性医薬品の取扱い、診療画像機器の操作・取扱い、データ処理ならびにRI廃棄物の取扱い手法について学ぶ。また、検査を展開しながら患者への対応方法に関する様々な知識及び患者接遇を学び、実践に即した核医学検査技術学について学習する。さらに、他職種との連携の重要性も実践を通じて理解する。	
到達目標	(1) 核医学検査における診療放射線技師の役割と義務を説明できる。 (2) 放射性医薬品の特徴、集積機序ならびに取扱いについて説明できる。 (3) 核医学検査装置の基本原理や取扱いについて説明できる。 (4) 核医学検査装置の適切で安全な操作ができる。 (5) 核医学検査技術について説明できる。 (6) 核医学検査におけるデータ解析、画像処理ならびに画像評価について説明できる。 (7) 核医学検査の意義について説明できる。 (8) 核医学検査画像やデータについて臨床的に説明できる。	
関連科目	核医学検査技術学Ⅰ、核医学検査技術学Ⅱ、核医学検査技術学演習、核医学機器工学、核医学検査技術学実習	
成績評価方法・基準	臨床実習委託医療機関における判定結果等を基に単位責任者が判定する (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	これまで学習してきた知識と技術を実習開始までに各自復習し整理しておくこと。	
教科書・参考書	参考書 核医学技術総論 (既に購入済)。ただし、実習先に持参する必要はない。	
オフィス・アワー	事前に連絡すること	
国家試験出題基準	I-A-a <sup>~</sup> c, D、II-A-g, I、B-b <sup>~</sup> e, F-a <sup>~</sup> b、IV-A-a <sup>~</sup> c	
履修条件・履修上の注意	実習医療機関のルール等に従うこと	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	渡邊 浩 (診療放射線技師)、倉石 政彦 (診療放射線技師)、星野 修平 (診療放射線技師)、加藤 英樹 (診療放射線技師)、小池 正行 (診療放射線技師)、岩井 譜憲 (診療放射線技師)、齋藤 祐樹 (診療放射線技師)、谷口 杏奈 (診療放射線技師)、今尾 仁 (診療放射線技師)、丸山 星 (診療放射線技師)、徳重佑美子 (診療放射線技師)	
授業の概要	これまで学内で学んできた核医学検査技術学の諸科目などを基礎として、臨床現場における放射性医薬品の取扱い法、診療画像機器の操作・取扱い法、データ処理、RI廃棄物の取扱い手法について学ぶ。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に即した核医学検査技術学について学習する。また、他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。	

講義科目名称：放射線治療技術学 I

授業コード：1R102

英文科目名称：Radiation Therapy Technologies I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
岩井 譜憲	岩井 譜憲		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 がん治療概論① 悪性腫瘍の特徴 第2回 がん治療概論② 悪性腫瘍の治療法 第3回 放射線治療概論① 放射線治療の特徴 第4回 放射線治療概論② 集学的治療（他の治療法との併用） 第5回 放射線治療の基礎① 治療に用いる放射線 第6回 放射線治療の基礎② 放射線の生物効果 第7回 放射線治療① 放射線治療機器総論 第8回 放射線治療② 高エネルギー X線計測 第9回 放射線治療③ 高エネルギー電子線計測 第10回 放射線治療④ 空間線量分布、線量計算 第11回 放射線治療⑤ 患者の心理、患者とのコミュニケーション 第12回 放射線治療⑥ 多職種連携 第13回 放射線治療⑦ 放射線治療に関わるネットワーク 第14回 放射線治療⑧ 診療報酬 第15回 総合演習 演習及びグループワーク	岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲 岩井 譜憲
科目の目的	<p>診療放射線技師が行う放射線治療の概要について学ぶ。講義では、外部照射、腔内照射、組織内照射を大別し、治療計画、線量計算方法、照射方法、などの基礎的事項について学ぶ。近年はコンピュータで全て線量計算から記録までを行うが、本科目では、手計算とコンピュータによる計算の差や、照合、記録、画像の取扱いについても学ぶ。また、治療を受ける患者の心理や家族の状況など、医療コミュニケーションの重要性についても学ぶ。</p> <p>【知識・理解】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 癌治療の意義について説明できる</li> <li>2. 集学的治療について説明できる</li> <li>3. 放射線治療で用いる放射線の特徴を説明できる</li> <li>4. 放射線治療の流れを説明できる</li> <li>5. 放射線治療計画の意義と目的を説明できる</li> <li>6. 放射線治療の際の空間線量分布の要素について説明できる</li> <li>7. 放射線治療の吸収線量の計算ができる</li> <li>8. 放射線治療にかかわる専門職者とその役割について説明できる</li> <li>9. 放射線治療患者の心情を理解しようとすることができる</li> </ol>	
関連科目	放射線物理学 I・II, 放射線生物学, 病理学	
成績評価方法・基準	定期試験（80%）, レポート（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：予め授業予定の単元を熟読し、問題意識をもって授業に臨むこと 準備学習の時間：概ね1時間	
教科書・参考書	教科書：「放射線治療基礎知識図解ノート」, 磯辺智範編, 金原出版 教科書 「図解診療放射線技術実践ガイド 第4版」遠藤啓吾 編（文光堂） 参考書：「放射線治療技術学」熊谷考三編著, オーム社	
オフィス・アワー	月曜日～木曜日の午後	
国家試験出題基準	《専門》-III-3-1, 3, 5-A～D, G	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--



講義科目名称：放射線治療技術学Ⅱ

授業コード：1R103

英文科目名称：Radiation Therapy Technologies II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
岩井 譜憲	岩井 譜憲		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 総論 放射線治療技術学Ⅰの復習	岩井 譜憲
	第2回 放射線治療計画① 治療計画の流れ、インバースプランニング	岩井 譜憲
	第3回 放射線治療計画② 空間線量分布の評価、時間的線量配分	岩井 譜憲
	第4回 照射術式（照射の理論と技術）① X線・γ線：固定照射（SSD法、STD法）	岩井 譜憲
	第5回 照射術式（照射の理論と技術）② X線・γ線：運動照射、原体照射、全身照射	岩井 譜憲
	第6回 照射術式（照射の理論と技術）③ X線・γ線：定位照射、ノンコプラナ照射	岩井 譜憲
	第7回 照射術式（照射の理論と技術）④ X線・γ線：IMRT	岩井 譜憲
	第8回 照射術式（照射の理論と技術）⑤ X線・γ線：IGRT	岩井 譜憲
	第9回 照射術式（照射の理論と技術）⑥ 電子線	岩井 譜憲
	第10回 照射術式（照射の理論と技術）⑦ 荷電重粒子線（陽子線、炭素イオン線）、中性子線（BNCT）	岩井 譜憲
	第11回 照射術式（照射の理論と技術）⑧ 密封小線源（IGBTを含む）	岩井 譜憲
	第12回 非密封核種内用療法 I, Sr, RI標識モノクローナル抗体	岩井 譜憲
	第13回 関連療法 ハイパーサーミア、放射線化学療法	岩井 譜憲
	第14回 リスクマネジメント 放射線治療の医療安全	岩井 譜憲
	第15回 総合演習 演習及びグループワーク	岩井 譜憲
科目の目的	放射線治療は、癌の三大療法の一つであり、放射線治療を実施する場合には、腫瘍についての知識や放射線の物理的作用、線量測定の方法や放射線の生物的作用についての知識が必要となる。これらの基礎知識に加えて腫瘍と正常細胞に対する放射線の効果についての知識を踏まえて、放射線照射技術の特長、対象疾患、管理の手法について理解する。 【知識・理解】	
到達目標	1. 放射線治療計画に関連する項目について理解できる。 2. 照射術式の方法について説明できる。 3. 線量計算方法について理解できる。 4. 高精度放射線治療について理解できる。 5. 非密封核種内用療法について理解できる。 6. 放射線治療におけるリスクマネジメントを理解できる。	
関連科目	放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射線生物学、放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、放射線腫瘍学、放射線治療機器工学、放射線関係法規	
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、レポート（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：予め授業予定の単元を熟読し、問題意識をもって授業に臨むこと 準備学習の時間：概ね1時間	
教科書・参考書	教科書 「放射線治療 基礎知識図解ノート」磯辺智範 編（金原出版） 教科書 「やさしくわかる放射線治療学」公益社団法人 日本放射線腫瘍学会 監修（秀潤社） 参考書 「図解診療放射線技術実践ガイド 第4版」遠藤啓吾 編（文光堂）	
オフィス・アワー	月曜日～木曜日の午前中	
国家試験出題基準	《専門》-Ⅲ-1, 3-C～F, 4, 5-B～E	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線治療機器工学

授業コード：1R104

英文科目名称：Radiation Therapy Equipment Engineering

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
岩井 譜憲	岩井 譜憲		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 総論 放射線治療機器工学を学ぶ目的・意義</p> <p>第2回 線形加速装置① 装置の概要と加速原理</p> <p>第3回 線形加速装置② X線の発生、ガントリの構造、MLC</p> <p>第4回 I M R T 専用装置 トモセラピー、サイバーナイフ</p> <p>第5回 粒子線装置 他 サイクロトロン、シンクロトロン、マイクロトロン</p> <p>第6回 シミュレーター装置 X線シミュレータ、CTシミュレータ</p> <p>第7回 放射線治療計画装置 アルゴリズムの概要、コミッシュニング</p> <p>第8回 照合装置、固定具 IGRT機器、患者固定具</p> <p>第9回 外部放射線治療機器の品質管理① 性能評価法</p> <p>第10回 外部放射線治療機器の品質管理② 精度管理</p> <p>第11回 小線源治療機器 線源形状、使用目的（RALSを含む）</p> <p>第12回 小線源治療の品質管理 性能評価法、精度管理</p> <p>第13回 温熱治療装置 装置の構成と制御方法</p> <p>第14回 安全管理 機器の管理、安全管理、関係法規</p> <p>第15回 総合演習 演習及びグループワーク</p>	<p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p> <p>岩井 譜憲</p>
科目の目的	放射線治療機器、及び治療システムを把握し、診療放射線技師として必要な各装置の動作原理、動作特性、機器構成、活用法を学び、機器の有効な活用と管理を理解する。また放射線治療の重要な要素である治療計画装置のアルゴリズムや関連補助器具等についても理解を深め、高精度な放射線治療システムの運用と照射技術について学ぶ。具体的には、照射システムと照合システムの関連性や品質管理について学習する。【知識・理解】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加速器の加速原理が理解できる</li> <li>2. 加速器の構成と各役割が理解できる</li> <li>3. 小線源治療装置の構成役割が理解できる</li> <li>4. 放射線治療計画装置のアルゴリズムが理解できる</li> <li>5. X線シミュレータ、CTシミュレータ等の関連機器の役割等が理解できる</li> <li>6. 放射線治療システムが理解できる</li> <li>7. 放射線治療装置システムの具体的なQAQCを理解することができる</li> <li>8. 高精度放射線治療を概観することができる</li> </ol>	
関連科目	放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射線生物学、放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、放射線腫瘍学、放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線関係法規	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：予め授業予定の単元を熟読し、問題意識をもって授業に臨むこと 準備学習の時間：概ね1時間	
教科書・参考書	<p>教科書 「改訂版 放射線機器学（Ⅱ）」 齋藤秀敏、福土政広 監著（コロナ社）</p> <p>参考書 「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法—標準計測法12」 日本医学物理学会編（通商産業研究社）</p> <p>参考書 「放射線治療 基礎知識図解ノート」 磯辺智範 編（金原出版）</p>	
オフィス・アワー	月曜日～木曜日の午後	

国家試験出題基準	《専門》-3-2
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線腫瘍学

授業コード：1R105

英文科目名称：Radiation Oncology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
黒崎 弘正	石橋章彦		

授業形態	講義：主にパワーポイントを使って講義する		担当者
授業計画	第1回	総論I：放射線治療の歴史・治療計画総論 放射線治療の歴史：特に現在行われていない低エネルギーX線照射装置やコバルト60などについても言及する	黒崎弘正
	第2回	総論II：通常照射 もっとも行われている3D-CRTを中心に説明を行う	黒崎弘正
	第3回	IMRTおよびSRT・粒子線 強度変調照射・定位照射、重粒子線・陽子線・中性子捕捉療法について	黒崎弘正
	第4回	中枢神経 原発性脳腫瘍を中心に概説する	黒崎弘正
	第5回	頭頸部 上中下咽頭がんや喉頭がんなど、手術では機能や見た目の障害を起こすが、放射線治療では形態と機能を温存することを理解する	黒崎弘正
	第6回	胸部 肺がんを中心に概説する	黒崎弘正
	第7回	消化器 食道がんでは根治照射、直腸がんでは術前照射など目的を理解される	黒崎弘正
	第8回	泌尿器・婦人科 小線源治療についても説明する	黒崎弘正
	第9回	血液・リンパ・皮膚・骨・軟部 リンパ腫では素早い縮小が得られることを理解する	黒崎弘正
	第10回	核医学治療（放射線内用療法）について ゲストスピーカー（石橋章彦）	黒崎弘正
	第11回	放射線装置の導入について：放射線治療装置を含めてI ゲストスピーカー（石橋章彦）	黒崎弘正
	第12回	放射線装置の導入について：放射線治療装置を含めてII ゲストスピーカー（石橋章彦）	黒崎弘正
	第13回	緩和照射 放射線治療の2割を占める治療である	黒崎弘正
	第14回	良性疾患 数は少ないものの国家試験でも出ており、理解が必要	黒崎弘正
	第15回	正常組織の耐量線量・放射線治療の副作用について 副作用についての理解	黒崎弘正
科目の目的	放射線治療は、放射線診断とともに医学における電離放射線利用の柱であり現在でも大きく進歩しつつある領域である。機能、形態を損なうことなく悪性腫瘍を治療できる方法としての特徴があり、その意義は大きい。基本的な局所解剖学の知識を前提として、特に悪性腫瘍の治療に対して、放射線生物学に基づいた、放射線治療、手術、化学療法による治療法の選択やその効果、メリット、デメリットなどを学ぶとともに最新のがん治療のトピックスを概観的に学習する。【知識・理解】		
到達目標	放射線治療にかかわるの総理解（放射線物理学・放射線化学・放射線生物学・機器工学・法律防護）だけでなく、悪性腫瘍の治療方法としての放射線治療の立場を個々の疾患別に理解すること		
関連科目	（画像）解剖学、放射線生物学、放射線治療物理学に加え、放射線治療技術学 I の復習をしておくこと		
成績評価方法・基準	出席およびテスト		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	放射線腫瘍学は生物学、化学、物理学、医学の全てが統合された総合科目です。今まで学んできたものを再度復習し、新たな気持ちで講義に臨んでください。疑問に思うことは、他人も疑問に思うことが多く、講義中の質問は非常に役立つため、疑問点があるときは、必ず質問をすること。講義の前後は短時間（15分ずつでもよい）でも必ず予習復習を行うこと。		
教科書・参考書	教科書 「放射線治療計画ガイドライン」公益社団法人 日本放射線腫瘍学会 編（金原出版） 2020年版 第5版が出ています 参考書 「放射線治療 基礎知識図解ノート」磯辺智範 編（金原出版） その他の参考書 「新 医用放射線科学講座」放射線腫瘍学 松本光弘 監修・編集（医歯薬出版株式会社）		
オフィス・アワー	講義終了後30分間 講義室にて		

国家試験出題基準	<<専門>>-Ⅲ-1-A~C <<専門>>-Ⅲ-5-A~H
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：放射線治療技術学演習

授業コード：1R106

英文科目名称：Exercise in Radiation Therapy Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
岩井 譜憲	岩井 譜憲		

授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	講義 放射線治療総論	岩井 譜憲
	第2回	講義 線量評価	岩井 譜憲
	第3回	講義 照射術式	岩井 譜憲
	第4回	講義 放射線治療	岩井 譜憲
	第5回	講義 放射線治療機器	岩井 譜憲
	第6-15回	演習 国家試験問題の設問の理解・解釈，論理的判断の基礎となる知識について検討	岩井 譜憲
科目の目的	「放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基に総合的に演習し、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、外部放射線治療の計算、小線源の線量計算を中心に、部位別放射線治療方法について実践形式で学ぶ。【知識・理解】		
到達目標	1. がん全体及び放射線治療を中心とするがん治療について理解し、説明出来る。 2. 各部位のがんに対する放射線治療の方法・障害・対処法に関して理解し、説明出来る。 3. 放射線治療技術に関して理解し、説明出来る。		
関連科目	放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、放射線生物学、放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、放射線腫瘍学、放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線治療機器工学、放射線関係法規		
成績評価方法・基準	定期試験（100%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：予め授業予定の単元を熟読し、問題意識をもって授業に臨むこと 準備学習の時間：概ね1時間		
教科書・参考書	教科書：「2022年版 診療放射線技師国家試験 合格!Myテキスト」オーム社 編（オーム社） 参考書1：「診療放射線技師国家試験対策全科 第13版」西谷源展・遠藤啓吾・赤澤博之（金芳堂） 参考書2：「診療放射線技師ブルーノート 第4版」福士政広 編（メジカルビュー社） 参考書3：「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法—標準計測法12」日本医学物理学会編（通商産業研究社）		
オフィス・アワー	月曜日～木曜日の午後		
国家試験出題基準	《専門》-3		
履修条件・履修上の注意			
実務経験のある教員による授業			
実務経験	岩井 譜憲（診療放射線技師）		
授業の概要	「放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基に総合的に演習し、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、外部放射線治療の計算、小線源の線量計算を中心に、部位別放射線治療方法について実践形式で学ぶ。		

講義科目名称：放射線治療技術学実習

授業コード：1R107

英文科目名称：Practice in Radiation Therapy Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岩井 譜憲	岩井 譜憲	山崎 真	

授業形態	実習		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション 本科目の目的、内容、実施方法および各回の実習内容、実習の進め方、課題について説明する	岩井譜憲
	第2回	実習テーマ1 放射線治療患者への説明と心理理解 1	岩井譜憲
	第3回	実習テーマ2 X線吸収線量の算出	岩井譜憲
	第4回	実習テーマ3 放射線治療患者への説明と心理理解 2	岩井譜憲
	第5回	実習テーマ4 線量分布の作成	岩井譜憲
	第6回	実習テーマ5 放射線治療患者への説明と心理理解 3	岩井譜憲
	第7回	実習テーマ6 ビームデータの管理	岩井譜憲
	第8回	実習報告会 各グループごとにテーマを決めて、実習内容をまとめプレゼンテーションを行う。	岩井譜憲
科目の目的	放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱで修得した知識を基に、実践場面で必要とされる技術を学ぶ。特に外照射の線量計算は、治療計画の根幹をなすものであり、また照射法による線量分布の差異を理解しておくことは重要であることから、これらについて治療計画装置を用いて実習する。また、一般に放射線治療は長期間に及ぶため、治療患者の心理を理解し、放射線治療をスムーズに進めるためのコミュニケーションは重要である。これについても、ロールプレイを通して実践的に理解修得する。		
到達目標	1. 放射線治療計画装置を使って外照射の線量分布を作成できる。 2. X線・電子線の吸収線量を測定できる。 3. 出力係数など放射線治療装置のパラメータを決定できる。 4. 放射線治療について患者・患者家族に説明できる。 5. 放射線治療患者の心理を理解するためのコミュニケーションがとれる		
関連科目	放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線生物学、放射線物理学Ⅰ・Ⅱ、心理学、生命倫理		
成績評価方法・基準	実習への取り組み姿勢（20%）、実習レポート（80%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習内容：オリエンテーションで示した実習内容について、背景となっている理論、実際の方法について調べる。 学習時間：2時間程度		
教科書・参考書	教科書：「放射線治療技術標準テキスト」奥村雅彦・小口宏・保科正夫（編）編、医学書院 教科書：「放射線治療計画ガイドライン2020」（公益社団法人日本放射線腫瘍学会）、金原出版 教科書：「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法—標準計測法12」日本医学物理学会編、通商産業研究社 参考書：放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書、参考書、配布資料		
オフィス・アワー	月曜日～木曜日の午前中		
国家試験出題基準	《専門》-Ⅲ-3-1, 3, 5-A~D, G		
履修条件・履修上の注意			
実務経験のある教員による授業			
実務経験	岩井 譜憲（診療放射線技師）		
授業の概要	放射線治療に必要な基礎技術の習得を目標とし、標準測定法によるビームデータの収集技術、及び線量計算アルゴリズムを理解する。具体的には高エネルギーX線及び電子線を用いた治療計画の作成、小線源治療の線量計算について学ぶ。照射補助器具の作成、使用方法、矩形照射野の計算手法を習得する。また、モンテカルロシミュレーションの理解、治療計画のQA、QC、患者接遇等について学ぶ。		

講義科目名称：放射線治療技術学臨床実習

授業コード：1R108

英文科目名称：Clinical Practice in Radiation Therapy Technology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
岩井 譜憲			

授業形態	実習		担当者
授業計画	初日 中間 最終日	臨床実習ガイダンス 施設全体・放射線治療施設の概要、実習生の行動規範など  参加観察実習 放射線治療の実践場面で総合的に学ぶことが必要であり、日々の実習項目は特定できない。ただし、以下の項目を念頭に置き、各学生が自ら日々の目標を設定して実習に臨むこと。 放射線治療の流れ：放射線治療の流れを理解し、そのなかで必要とされる知識・技術を再確認する。 患者セットアップ：正確なセットアップのための技術を実践の中で確認する。 チーム医療：放射線治療に関わる他の医療職者が関わるタイミング・役割を実践的に確認し理解する。 患者・患者家族とのコミュニケーション：実習施設の治療担当技師の患者とのコミュニケーションを観察し、技術・態度へんば理解を深める。  まとめ 実習施設で学んだことを実習指導者とともに確認する。	各施設の実習指導者 各施設の実習指導者        各施設の実習指導者
科目の目的	放射線治療領域における診療放射線技師の役割を理解し、必要とされる知識、技術及び態度を確認する。 また、放射線治療に係わる医療専門職との連携の重要性を理解する。 さらに、放射線治療患者・家族等とのコミュニケーションを通してペイシエントケアの実践力を高める。		
到達目標	放射線治療患者やその家族とのコミュニケーションを実践し、医療専門職者としての態度を涵養する。 また、放射線治療に関わる他の医療専門職の役割を理解し、チーム医療を推進する姿勢を育む。		
関連科目	放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ、放射線治療機器工学、放射線治療技術学実習、放射線腫瘍学、放射線医療学概論、診療放射線学実習直前演習		
成績評価方法・基準	実習への取組（70%）、課題提出物（30%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎日1時間程度		
教科書・参考書	教科書：RT臨床実習ルートマップ、橋本光康編、メジカルビュー社 教科書：カルタを読むための医学用語・略語ミニ辞典、浜家一雄 編、医学書院 参考書：放射線治療技術学関連科目で指定された教科書及び参考書		
オフィス・アワー	月曜日～木曜日の午前中		
国家試験出題基準	《専門分野》Ⅲ		
履修条件・履修上の注意			
実務経験のある教員による授業			
実務経験	岩井 譜憲（診療放射線技師）、倉石 政彦（診療放射線技師）、星野 修平（診療放射線技師）、渡邊 浩（診療放射線技師）、加藤 英樹（診療放射線技師）、小池 正行（診療放射線技師）、齋藤 祐樹（診療放射線技師）、谷口 杏奈（診療放射線技師）、今尾 仁（診療放射線技師）、丸山 星（診療放射線技師）、徳重佑美子（診療放射線技師）		
授業の概要	これまで学内で学んできた放射線治療技術の諸科目などを基礎として放射線治療装置の操作、取扱い方法、治療計画の策定、実施、線量測定照射方法について、臨床現場において学ぶ。医療施設において放射線治療の実践を体験することにより、放射線治療の進め方、必要とされる知識及び技術、態度を統合し、放射線治療領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、放射線治療を受ける対象である患者や家族との医療コミュニケーションを通してペイシエント・ケアの実践力を高めるとともに、他の医療専門職との連携について理解する。		



講義科目名称：医療画像情報学 I

授業コード：1R109

英文科目名称：Medical Imaging Information I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
丸山 星	丸山 星		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 医療画像情報学の概要 ・医療画像情報学の概要と医療画像の特徴について講義する。</p> <p>第2回 アナログシステム（1） ・画像形成の基礎について、アナログシステムの概要を含めて講義する。</p> <p>第3回 アナログシステム（2） ・画像形成の基礎について、センシトメトリの方法や考え方を含めて講義する。</p> <p>第4回 情報科学の基礎（1） ・医療画像を扱う上で必要となる情報理論、論理回路について講義する。</p> <p>第5回 情報科学の基礎（2） ・コンピュータやネットワークの基礎について講義する。</p> <p>第6回 デジタル画像（1） ・画像のデジタル化について、データ量の計算方法などを含めて講義する。</p> <p>第7回 デジタル画像（2） ・デジタル画像の特徴について、データ圧縮の理論と方法を含めて講義する。</p> <p>第8回 画像処理の基礎（1） ・階調処理、空間フィルタ処理、空間周波数フィルタ処理について講義する。</p> <p>第9回 画像処理の基礎（2） ・エッジ保存型平滑化フィルタ、エッジ検出フィルタについて講義する。</p> <p>第10回 画像処理の基礎（3） ・2値化、ラベリング、モルフォロジカルフィルタについて講義する。</p> <p>第11回 画像処理の基礎（4） ・DR圧縮、ボケマスク処理、マルチ周波数処理について講義する。</p> <p>第12回 画像処理の基礎（5） ・画像間演算、3次元画像処理、その他の画像処理手法について講義する。</p> <p>第13回 画像認識（1） ・コンピュータ支援診断について講義する。</p> <p>第14回 画像認識（2） ・画像特徴量の検出と医療応用について講義する。</p> <p>第15回 画像認識（3） ・機械学習の基礎と医療応用について講義する。</p>	丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星
科目の目的	医療画像情報の基礎として情報理論、論理回路、コンピュータの基礎を学ぶ。そして、画像形成の基礎理論をアナログシステムの概要とともに理解する。また、画像を構成する画素と画像データ量の関係や、標本化・量子化によるデジタル画像の生成過程を習得する。さらに、画像処理の基礎的知識を身につけ、画像診断における活用法を学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	医療画像の特徴を理解し、画像処理の目的や方法、画像診断への応用方法がわかる。 個別目標： 1. 情報科学の基礎、情報理論や論理回路、コンピュータの構成を説明できる。 2. アナログ画像の基本について説明できる。 3. デジタル画像の特徴と画像情報量について説明できる。 4. 画像処理の目的と方法、その応用方法が説明できる。	
関連科目	情報処理、情報リテラシー、医療画像情報学Ⅱ、放射線情報システム学、医療画像情報学演習	
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、授業内に実施するミニテスト（30％） ※定期試験は100点満点で実施するが70点満点に換算する。 ミニテストは3回実施して各10点満点の合計30点満点とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに教科書及び参考書等で事前学習（60分）・事後学習（60分）を行うこと。	
教科書・参考書	教科書（1）：よくわかる医用画像情報学、石田隆行編、オーム社、2018 参考書（1）：よくわかる医用画像工学、改訂2版、石田隆行編 オーム社、2017 参考書（2）：医用画像情報工学、藤田広志・寺本篤司・岡部哲夫編、医歯薬出版、2018 参考書（3）：医用画像情報学、下瀬川正幸監修、医療科学社、2010	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準	3-4-1-A, 3-4-1-B, 3-4-1-C, 3-4-1-D, 3-4-2-A, 3-4-2-B, 3-4-2-C	
履修条件・履修上の注意		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
丸山 星	丸山 星		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 医療画像の解析と評価 ・画質評価の意義、画質に影響する因子とその評価について講義する。	丸山 星
	第2回 畳み込み積分 ・画像処理・解析における畳み込み積分の基礎について講義する。	丸山 星
	第3回 フーリエ変換 ・画像処理・解析におけるフーリエ変換の基礎について講義する。	丸山 星
	第4回 画像のデジタル化 デジタル画像の画質について、画像のデジタル化の理論を含めて講義する。	丸山 星
	第5回 画像の基本特性（入出力特性） ・入出力特性とその評価方法について、コントラストの考え方を含めて講義する。	丸山 星
	第6回 画像の基本特性（解像特性1） ・解像特性の理論とその評価方法について講義する。	丸山 星
	第7回 画像の基本特性（解像特性2） ・解像特性の測定方法について講義する。	丸山 星
	第8回 画像の基本特性（ノイズ特性1） ・ノイズ特性の理論とその評価方法について講義する。	丸山 星
	第9回 画像の基本特性（ノイズ特性2） ・ノイズ特性の測定方法について講義する。	丸山 星
	第10回 信号対雑音比に基づく総合評価 ・総合的な画質評価指標の理論と評価方法について講義する。	丸山 星
	第11回 画像処理と画像特性 ・画像処理による画質特性の変化について講義する。	丸山 星
	第12回 画像の主観評価（視覚評価） ・視覚評価に関連する画像認知、視覚の特性、心理学的計測法について講義する。	丸山 星
	第13回 画像の主観評価（信号検出理論） ・視覚評価における信号検出理論の応用について講義する。	丸山 星
	第14回 画像の主観評価（ROC解析） ・ROC解析の理論と実験方法、観察実験全般について講義する。	丸山 星
	第15回 医療画像の解析と評価のまとめ ・医療画像の解析と評価の実例を紹介し、本科目の内容について総括する。	丸山 星
科目の目的	X線画像の形成過程を理解し、画質を客観的に評価するための定量的評価法を習得する。画像の評価には物理的特性の評価と視覚評価による主観的な評価があり、各評価法の理論や目的、測定方法を理解し、評価結果を解釈するための知識を身につける。また、これらを理解するために必要な畳み込み積分やフーリエ変換といった基礎的知識も学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	X線画像の解析と評価についての基本的事項がわかる。 個別目標： 1. X線画像の形成過程を理解し、画質に影響を及ぼす因子について説明できる。 2. 物理的画質評価法の理論と目的、測定方法について説明できる。 3. 主観的評価法の理論と目的、測定方法について説明できる。 4. 医療画像の画質を解析・評価することの意義を説明できる。	
関連科目	情報処理、情報リテラシー、医療画像情報学Ⅰ、放射線情報システム学、医療画像情報学演習	
成績評価方法・基準	定期試験（70%）、授業内で実施するミニテスト（30%） ※定期試験は100点満点で実施するが70点満点に換算する。 ミニテストは3回実施して各10点満点の合計30点満点とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに教科書及び参考書等で事前学習（60分）・事後学習（60分）を行うこと。	
教科書・参考書	教科書（1）：よくわかる医用画像工学 改訂2版、石田隆行編、オーム社、2017 参考書（1）：標準 デジタルX線画像計測 市川勝弘監修、オーム社、2010 参考書（2）：医用画像情報工学、藤田広志・寺本篤司・岡部哲夫編、医歯薬出版、2018	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準	3-4-1-C, 3-4-2-A, 3-4-2-B, 3-4-2-D	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線情報システム学

授業コード：1R111

英文科目名称：Radiation Information System

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線技術領域における医療情報とは ・データ・情報・知識 ・医療情報の特質	星野 修平
	第2回 放射線情報システムに必要なネットワークの基礎 ・医療情報ネットワークの概要 ・無線LAN ・VPNとVLAN	星野 修平
	第3回 病院情報システム(HIS)の概要とシステム構成 ・病院情報システム(HIS)の概要	星野 修平
	第4回 放射線情報システム(RIS)の概要とシステム構成 ・放射線情報システム(RIS)の概要	星野 修平
	第5回 医療画像情報管理システム(PACS)の概要と基本構成 ・PACSの概要と基本構成	星野 修平
	第6回 医療画像情報管理システム(PACS)の構築と運用管理 ・PACSの構築、運用管理	星野 修平
	第7回 医療画像表示装置の性能と特徴 ・医療画像表示用装置の基本構成	星野 修平
	第8回 医療画像表示装置の性能と特徴 ・医療画像表示用装置の特性 ・医療画像表示用装置の運用と管理	星野 修平
	第9回 医療クラウドや遠隔画像診断の概要と構成 ・医療クラウドの臨床応用 ・遠隔画像診断の概要	星野 修平
	第10回 標準と標準規格：DICOM ・標準規格の理解 ・DICOMの基本的知識	星野 修平
	第11回 標準と標準規格：HL7、JJ1017 ・標準規格の理解 ・HL7の基本的知識 ・JJ1017の基本的知識	星野 修平
	第12回 標準と標準規格：IHE ・標準規格の理解 ・IHEの基本的知識 ・IHEによる情報連携	星野 修平
	第13回 セキュリティの概要と安全管理ガイドライン ・医療情報のセキュリティ ・医療情報システムの安全管理に関するガイドライン	星野 修平
	第14回 電子保存とネットワークセキュリティ ・電子保存による情報管理と情報共有 ・ネットワークセキュリティの基本的理解	星野 修平
	第15回 放射線部門におけるマネージメント ・放射線部門のICT化に向けて ・放射線部門のマネージメント	星野 修平
科目の目的	医療情報の基本事項としてDICOM、HL7、IHEなどの標準化と情報セキュリティ、電子保存の意義について学ぶ。また放射線部門における医療情報システムの構成について、病院情報システム(HIS)、放射線情報システム(RIS)、医療画像情報管理システム(PACS)の構築と情報連携、運用と管理について学び、医療情報管理の意義について理解する。さらに、検像システムの運用や医療画像表示用モニタの品質管理を通して、医療画像情報の品質管理、画像読影、画像の確定の概念を理解する。	
到達目標	放射線情報システム及び画像情報システムの構成と情報共有の意義を理解する。 1. 放射線情報システムの構成について説明できる。 2. 医療画像情報の標準化の意義について説明できる。	

	3. 医療画像情報システムの管理と運用について説明できる。
関連科目	情報処理、情報リテラシー、医療画像情報学Ⅰ、医療画像情報学Ⅱ、医療画像情報学演習
成績評価方法・基準	定期試験(100%) 定期試験の結果については、AAで解説します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予め教科書及び参考書、参考文献等で事前学習(90分)・事後学習(90分)を行うこと
教科書・参考書	教科書(1) : 放射線システム情報学, 奥田保男・小笠原克彦・小寺吉衛共編, オーム社, 2010 参考書(1) : よくわかる医用画像情報学, 李 鎔範・小笠原克彦共編, 石田隆行監修, オーム社, 2018 参考書(2) : 医用画像情報工学, 藤田広志・寺本篤司・岡部哲夫編, 医歯薬出版, 2018
オフィス・アワー	事前にE-mail にて予約 (s-hoshino@paz.ac.jp)
国家試験出題基準	3-4-3-A, 3-4-3-B, 3-4-3-C
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療画像情報学演習

授業コード：1R112

英文科目名称：Exercise in Medical Image Information

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
丸山 星	丸山 星		

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 医療画像情報学の基礎 ・画像処理・画質評価の理論と方法について解説する。 第2回 デジタル画像の基礎（1） ・情報理論、論理回路について演習する。 第3回 デジタル画像の基礎（2） ・デジタル画像の特徴について解説する。 第4回 画像処理の理論と方法（1） ・階調処理、空間フィルタ処理、空間周波数フィルタ処理について演習する。 第5回 画像処理の理論と方法（2） ・DR圧縮処理、ボケマスク処理、マルチ周波数処理について演習する。 第6回 画像処理の理論と方法（3） ・サブトラクション処理、3次元画像表示について演習する。 第7回 画像処理の理論と方法（4） ・画像再構成について演習する。 第8回 画質評価の理論と方法（1） ・画質因子と評価方法について解説する。 第9回 画質評価の理論と方法（2） ・入出力特性について演習する。 第10回 画質評価の理論と方法（3） ・解像特性について演習する。 第11回 画質評価の理論と方法（4） ・ノイズ特性について演習する。 第12回 画質評価の理論と方法（5） ・総合的な画質評価指標について演習する。 第13回 画質評価の理論と方法（6） ・視覚評価、信号検出理論、ROC解析について演習する。 第14回 医療情報システム（1） ・医療情報システムの概要と構成、標準規格について解説する。 第15回 医療情報システム（2） ・医用画像表示用装置の特性と運用管理について解説する。	丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星
科目の目的	「医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ」で得られた知識をもとに、医用画像の特徴を理解し、具体的な画像処理法や画質評価の方法を演習を通して習得する。特に、画像処理法については実際に体験することによって、原理や処理による画質の変化を学ぶ。また、「放射線情報システム学」で得られた知識をもとに、情報システムの概要と運用管理について理解する。【知識・理解】 【思考・判断】	
到達目標	医療画像情報学に関連する基礎知識を身につける。 個別目標： 1. 画像形成理論を理解し、医療画像の特徴が説明できる。 2. 画像処理の方法、処理による画像の変化を説明できる。 3. 画質評価の理論、画質の測定方法を説明でき、評価結果が解釈できる。 4. 医療情報システムの基本的概念を理解し、運用と管理について説明できる。	
関連科目	情報処理、情報リテラシー、医療画像情報学Ⅰ、医療画像情報学Ⅱ、放射線情報システム学	
成績評価方法・基準	課題（講義時間内に行うミニテスト、レポート、演習課題）100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配布資料をもとに参考書等で事前学習（60分）・事後学習（60分）を行うこと。	
教科書・参考書	教科書：指定しない 参考書（1）：よくわかる医用画像情報学、石田隆行編、オーム社、2018 参考書（2）：よくわかる医用画像工学、改訂2版 石田隆行編、オーム社、2017 参考書（3）：放射線システム情報学、奥田保男・小笠原克彦監修 オーム社、2010	
オフィス・アワー	随時	
国家試験出題基準	3-4-1-A, 3-4-1-B, 3-4-1-C, 3-4-1-D 3-4-2-A, 3-4-2-B, 3-4-2-C, 3-4-2-D 3-4-3-A, 3-4-3-B, 3-4-3-C	
履修条件・履修上の注意	国家試験における2科目分（画像情報学・画像工学）の演習である。本科目を苦手とする学生も多いため、積極的に履修してほしい。	

実務経験のある教員による授業	
実務経験	丸山 星（診療放射線技師）
授業の概要	「医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ」で得られた知識を基に、画像処理法を演習を通して理解する。スムージング関数、周波数処理、再構成フィルター等のコンピュータ画像処理法について学習する。また、画像処理方法と臨床画像の関係について理解する。

講義科目名称：放射線安全管理学

授業コード：1R113

英文科目名称：Radiation Safety Management

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
齋藤 祐樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 放射線安全管理の概要 放射線管理の意義、放射線防護に関する量について理解する。	齋藤 祐樹
	第2回 国際放射線防護委員会の勧告 ICRPの設立と役割、放射線防護体系、職業被ばく、公衆被ばく、線量限度、線量拘束値、参考レベルについて理解する。	齋藤 祐樹
	第3回 自然放射線源と人工放射線源 自然放射性核種、人工放射性核種、医療用放射線源について理解する。	齋藤 祐樹
	第4回 放射線防護の基本概念 確定的影響と確率的影響、身体的と遺伝的影響および組織感受性について理解する。	齋藤 祐樹
	第5回 放射線防護の基準 放射線加重係数、組織加重係数、実効線量、等価線量、個人被ばく線量限度について理解し、評価できるようにする。	齋藤 祐樹
	第6回 外部被ばくの防護 防護の3原則について理解し、放射線の遮へい、遮へい計算ができるようになる。	齋藤 祐樹
	第7回 内部被ばくの防護 物理的半減期、生物的半減期、有効半減期、摂取経路、内部被ばく防止の3D2Cの原則	齋藤 祐樹
	第8回 既出事項のまとめ 第1～7回までの確認として中間試験を行う。	齋藤 祐樹
	第9回 放射線取り扱い施設の管理 医療法施行規則、診断用X線装置の使用施設、RI法、放射性同位元素の使用施設、高エネルギー放射線発生装置の使用施設について理解する。	齋藤 祐樹
	第10回 環境の管理 管理区域の定義、管理用放射線測定器、サーベイメータの使用法、外部放射線の管理、空气中放射性同位元素の管理、水中放射性同位元素の管理、表面汚染密度の管理について理解する。	齋藤 祐樹
	第11回 個人被ばくの管理 外部被ばく線量の測定器、内部被ばく線量の測定器について理解し、健康診断の評価をできるようにする。	齋藤 祐樹
	第12回 放射性廃棄物の処理 核医学施設における廃棄物処理、放射性気体廃棄物の処理、放射性液体廃棄物の処理、放射性固体廃棄物の処理、放射性医薬品を投与された患者の退出基準、放射線治療病室等から退出基準について理解する。	齋藤 祐樹
	第13回 事故対策 放射線事故の分類、事故の予防措置、緊急措置の原則と手順について理解する。	齋藤 祐樹
	第14回 医療被ばく 診断参考レベル（DRLs2015）、医療被ばく低減への取り組みについて理解する。	齋藤 祐樹
	第15回 関係法令 法体系、診療放射線技師法、医療法施行規則、電離放射線障害防止規則、放射性同位元素等の規制に関する法律について理解する。	齋藤 祐樹
科目の目的	診療放射線技師が、医療施設内において放射線診療業務を行うにあたって必要な放射線防護の基本的概念、施設・環境における放射線計測と被曝管理に係る計測技術を学ぶ。また、放射線取扱施設及び放射線（線源）管理の方法と不測の事故発生時の対応についてその基本的概念と具体的な方法を習得する。特に、放射線事故発生時における診療放射線技師の対応や、緊急作業、緊急被曝医療について、放射線安全管理に関する専門的知識と管理技術を学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	放射線を正しく管理し、安全な医療を提供するために放射線防護の概要を理解する。ICRPの防護体系から放射線施設、環境測定と個人の放射線被ばく管理法を習得する。	
関連科目	放射線物理学I、放射線物理学II、放射化学、放射線生物学、放射線計測学I、放射線計測学II、放射線関係法規	
成績評価方法・基	定期試験（50%）、中間試験（50%）	

準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習復習を1時間以上行う。
教科書・参考書	教科書：「放射線・医療安全管理学」藤淵俊王（南山堂） 参考書：「放射線技術学シリーズ 放射線安全管理学」西谷源展、鈴木昇一（オーム社） 参考書：「放射線概論」柴田徳思（通商産業研究者）
オフィス・アワー	金曜 12時～
国家試験出題基準	<<専門分野>>-V-1-A-a ～ D-a <<専門分野>>-V-2-A-a ～ D-c <<専門分野>>-V-3-A-a ～ C-c <<専門分野>>-V-4-A-a ～ A-c <<専門分野>>-V-5-A-a ～ D-d
履修条件・履修上の注意	国家試験科目であるため理解を深めてもらいたい。



講義科目名称：診療放射線技師の義務と役割

授業コード：1R114

英文科目名称：Duty and Role of Radiological Technologist

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 診療放射線技師とは 職業としての診療放射線技師	星野 修平
	第2回 診療放射線技師の法的根拠と医療資格制度 診療放射線技師の法的根拠となる診療放射線技師法	星野 修平
	第3回 診療放射線技師の教育制度とその変遷 診療放射線技師養成学校の変遷と教育制度	星野 修平
	第4回 診療放射線技師の卒後教育 診療放射線技師の卒後教育とキャリアアップ	星野 修平
	第5回 診療放射線技師の研究と学取得 診療放射線技師が行う研究の意義と大学院進学の意味	星野 修平
	第6回 診療放射線技師の業務（放射線画像診断） 放射線画像診断における診療放射線技師の役割	星野 修平
	第7回 診療放射線技師の業務（核医学） 放射性同位元素の管理と検査、治療	星野 修平
	第8回 診療放射線技師の業務（放射線治療） 放射線照射管理と治療計画、患者ケア	星野 修平
	第9回 診療放射線技師の業務（放射線情報管理） 放射線情報、医療情報の管理と運用	星野 修平
	第10回 診療放射線技師の活躍する職域（医療機関：病院・診療所） 総合病院、大学附属病院、中核病院、診療所、検診センターで働く診療放射線技師	星野 修平
	第11回 診療放射線技師の活躍する職域（医療機器ベンダー） 医療機器メーカー、医療関連ベンダーで働く診療放射線技師	星野 修平
	第12回 診療放射線技師の活躍する職域（行政・研究所・教育） 行政・研究所・教育で働く診療放射線技師	星野 修平
	第13回 医療安全と診療放射線技師の責任 診療放射線技師の担う医療安全における責任	星野 修平
	第14回 診療放射線技師に求められるペーシェント・ケア 医療コミュニケーションと患者ケア	星野 修平
	第15回 診療放射線技師に求められる連携 チーム医療に必要な共働と連携、組織活動とメンバーシップ	星野 修平
科目の目的	診療放射線技師の医療における役割、他職種との連携、患者と関係のについて説明できる。 診療放射線技師の医療専門職としての責務について、その法的根拠について説明できる 診療放射線技師の業務、職域による機能と役割の違いについて説明できる。【知識・理解】 診療放射線技師職に必要なコミュニケーション、連携能力、問題解決能力を知覚する。【思考・判断】	
到達目標	1. 診療放射線技師の役割について説明できる。 2. 放射線診断部門や放射線治療部門での臨床における診療放射線技師の役割について説明できる。 3. 臨床以外の診療放射線技師の役割について説明できる。	
関連科目	診療放射線学概論、大学の学び専門への誘い、放射線安全管理学、放射線関係法規	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前の情報収集・学修(60分)、事後学修(60分)	
教科書・参考書	参考書:診療放射線技師プロフェッショナルガイド 東村享治 文光堂(1年時購入済)	
オフィス・アワー	予めE-mail等で予約	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：放射線関係法規

授業コード：1R115

英文科目名称：Laws and Regulations of Radiation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 診療放射線技師に関わる法令体系と法の構成 この講義の概要、法体系と行政</p> <p>第2回 医療における法体系 医療法・医療法施行令・医療法施行規則</p> <p>第3回 医療法における放射線管理 医療法・医療法施行令・医療法施行規則</p> <p>第4回 医療における労働者の安全管理大系 労働法・電離則・人事院規則（1）</p> <p>第5回 労働者に対する放射線障害防止 労働法・電離則・人事院規則（2）</p> <p>第6回 診療放射線技師法の目的と意義、構成（1） 診療放射線技師法</p> <p>第7回 診療放射線技師法の目的と意義、構成（2） 診療放射線技師法施行令・施行規則</p> <p>第8回 診療放射線技師の教育関連法令 診療放射線技師養成所学校指定規則</p> <p>第9回 放射線防護と安全管理関連法令の大系 国際放射線防護委員会（ICRP）と国際原子力機関（IAEA）</p> <p>第10回 放射線障害防止法の目的と規制対象 原子力基本法と放射線障害防止法</p> <p>第11回 放射線障害防止法の具体的内容（1） 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律</p> <p>第12回 放射線障害防止法の具体的内容（2） 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行令</p> <p>第13回 放射線障害防止法の具体的内容（3） 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行規則</p> <p>第14回 電離放射線障害防止規則の目的 電離放射線障害防止規則等</p> <p>第15回 電離放射線障害防止規則の意義 電離放射線障害防止規則等</p>	<p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p>
科目の目的	医療法と放射線障害防止法、診療放射線技師法などの構成と内容及びそれぞれの法令用語を学習し、放射線の安全管理全般に関する各法令間の相互関連について理解する	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療放射線技師に関わる法令、ガイドラインなどの法的大系が説明できる。</li> <li>2. 診療放射線技師法が説明できる。</li> <li>3. 放射線安全管理に関する法令が説明できる。</li> <li>4. 放射線防護に関する法令が説明できる。</li> </ol>	
関連科目	放射線安全管理学、診療放射線学概論、大学の学び 専門への誘い	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前の情報収集・学修（60分）、事後学修（60分）	
教科書・参考書	放射線関係法規概説第9版 川井恵一著、通商産業研究社	
オフィス・アワー	予めE-mailにて予約	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：医療安全管理学

授業コード：1R116

英文科目名称：Medical Safety Management

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義、実習	担当者
授業計画	1：4/6 I 医療安全概論 1 医療安全管理とは、この講義の意義と構成	星野
	2：4/6 II 医療安全概論 2 診療放射線技師教育における医療安全管理学の位置づけ、指定規則の改正による業務内容の拡大	岩井
	3：4/13 I 医療事故とその対応 1 放射線業務における医療安全の確保について	岩井
	4：4/13 II 医療事故とその対応 2 病院内におけるリスクマネジメント、インシデント・アクシデントレポート	岩井
	5：4/20 I 医療安全対策 1（一般撮影） 一般撮影における医療安全対策（単純撮影、透視検査）	小池
	6：4/20 II 医療安全対策 2（病室撮影・手術室撮影） 病室撮影・オペ室撮影における医療安全対策（ポータブル検査他）	小池
	7：4/27 I 医療安全対策 3（超音波検査、眼底検査） 超音波検査、眼底検査における医療安全対策（超音波検査、眼底検査）	今尾
	8：4/27 II 医療安全対策 4（乳房検査） 乳房検査における医療安全対策（マンモグラフィ検査、乳腺超音波検査、乳房MRI検査等）	谷口
	9：5/11 I 医療安全対策 5（CT検査） CT検査における医療安全対策（X線CT検査、MRI検査）	丸山
	10：5/11 II 医療安全対策 6（MRI検査） MRI検査における医療安全対策（MRI検査）	谷口
	11：5/18 I 医療安全対策 7（核医学検査） 核医学検査における医療安全対策（核医学検査）	渡邊
	12：5/18 II 医療安全対策 8（放射線治療） 放射線治療における医療安全対策（放射線治療）	岩井
	13：5/25 I 医療安全対策 9（医療情報） 医療情報セキュリティに関する医療安全対策	星野
	14：5/25 II 医療安全対策 10（技師法と責任範囲、医療倫理） 臨床業務における技術者倫理に関する医療安全対策	齋藤
	15：6/1 I 技師法改正によって拡大した医療技術の基礎知識 診療放射線技師法、指定規則の改正等によって変わった診療放射線技師の役割と責任について	岩井
	16：6/1 II 災害時の放射線医療 災害時のX線撮影、放射線トリアージ、DMATの活動	岩井
	17：6/8 I 医療安全管理に関する基礎知識のまとめ 1 (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 演習、実習に向けて、これまでに学んだ知識・技術をグループワークによって整理する。	岩井
	18：6/8 II 医療安全管理に関する基礎知識のまとめ 2 (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 演習、実習に向けて、これまでに学んだ知識・技術をグループワークによって整理する。	岩井
	19：6/15 I 下部消化管検査、治療等に関する知識と技術 下部消化管検査、治療等に関する直腸カテーテル挿入に必要な知識及び技術	小池
	20：6/15 II 医療安全管理技術の技術評価 (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 直腸カテーテル挿入に必要な技術評価	岩井
21：6/22 I 感染管理 2（針刺し、切創の予防）（標準予防策） 造影剤を使用する画像検査における抜針及び止血に必要な知識・技術	小池	
22：6/22 II 感染管理に関する演習・実習 2 (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 抜針及び止血に必要な知識・技術に関する演習	岩井	

	23 : 6/29 I	一次救命処置 (Basic Life Support:BLS) 患者急変時の対応、一次救命処置の基本的な知識、技術	岩井
	24 : 6/29 II	医療安全管理技術の技術評価 (岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 次救命処置 (Basic Life Support:BLS)に関する技術的評価	岩井
	25 : 7/6 I	感染管理 (標準予防策) 医療における感染対策の基本、標準予防策、感染経路予防策	岩井
	26 : 7/6 II	感染管理に関する演習・実習 (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 標準予防策に関する基礎演習	岩井
	27 : 7/13 I	医療安全管理のまとめ1 (グループ演習) (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 本講義、演習をとおして学習した内容をテーマに沿ってグループディスカッションを行う。また、検討した内容をプレゼンテーションとしてまとめる。	岩井
	28 : 7/13 II	医療安全管理のまとめ2 (グループ演習) (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 本講義、演習をとおして学習した内容をテーマに沿ってグループディスカッションを行う。また、検討した内容をプレゼンテーションとしてまとめる。	岩井
	29 : 7/20 I	医療安全管理のまとめ3 (演習発表) (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 演習、実習を通して学んだ成果をプレゼンテーションとして発表し、他グループの発表を共有することによって、医療安全管理の重要性を確認する。	岩井
	30 : 7/20 II	医療安全管理のまとめ4 (演習発表) (小池・岩井・谷口・今尾・丸山・徳重・島崎・鳴海) 演習、実習を通して学んだ成果をプレゼンテーションとして発表し、他グループの発表を共有することによって、医療安全管理の重要性を確認する。	岩井
科目の目的	近年、医療現場においては医療従事者一人一人が医療安全に関する基本的な知識を持つことが必須となっており、医療安全に対する意識の向上を基に医療安全の推進に向けて行動することが求められている。ここでは、医療安全の目的、リスクマネジメントの基礎、医療事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーの定義及びその発生要因・防止対策、事故・事例の分析方法、対策の立て方等を系統的に学習する。また、診療時の合併症発生や救急医療に対して、救急疾患の診断、治療救命処置の重要性を理解し、一次救命処置、二次救命処置の方法を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全の目的、臨床における具体的な内容、発生要因・防止対策、事故・事例の分析方法、対策の立て方等を系統的に説明できる。</li> <li>・診療、救急医療における診療放射線技師の具体的な対応方法について実践できる。</li> <li>・一次救命処置の五体的な方法について実践できる。</li> </ul>		
関連科目	診療放射線学概論、診療画像検査学概論、診療放射線学直前演習、大学の学び入門―専門への誘い―		
成績評価方法・基準	課題 (50%) 及び定期試験 (50%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 60分 事後学習 60分		
教科書・参考書	教科書：「診療放射線技師のための医療安全管理学」成田浩人(株式会社PILAR PRESS)		
オフィス・アワー	随時 (予めE-mail等で、確認することが望ましい。)		
国家試験出題基準	専門分野 6 医療安全管理学 1-A-a、1-A-b、1-A-c、1-B-a、1-B-b 2-A-a、2-A-b、2-A-c、2-A-d、2-B-a、2-B-b、2-B-c、2-B-d、2-C-a、2-C-b、2-C-c、2-C-d、 3-A-a、3-A-b、3-B-a、3-B-b、3-C-a、3-C-b		
履修条件・履修上の注意	演習時は、白衣 (ユニフォーム)、上履き等、臨床実習と同等の準備が必要となります。		

講義科目名称：放射線科学特別講義

授業コード：1R117

英文科目名称：Radiation Science Special Lecture

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
倉石 政彦	倉石 政彦	星野 修平	渡邊 浩
	加藤 英樹	齋藤 祐樹	

授業形態	講義	担当者
授業計画	1 ガイダンス、教育者としての診療放射線技師	倉石 政彦
	2 研究者としての診療放射線技師	渡邊 浩
	3 大学病院の診療放射線技師	須藤高行 (群馬大学 医学部附属 病院)
	4 地域中核病院の診療放射線技師 ゲストスピーカー：森田昌幸（石井病院）	倉石 政彦
	5 診療所の診療放射線技師 ゲストスピーカー：室田克也（あさくらスポーツリハビリテーションクリニック）	倉石 政彦
	6 健診機関の診療放射線技師 ゲストスピーカー：本田今朝男（神奈川県労働衛生福祉協会）	倉石 政彦
	7 障害者施設の診療放射線技師	倉石 政彦
	8 施設に所属しない診療放射線技師 ゲストスピーカー：岡井康広（合資会社アーテリー）	倉石 政彦
	9 転勤のある職場で働く診療放射線技師	倉石 政彦
	10 海外で働く診療放射線技師	加藤 英樹
	11 パートタイムで働く診療放射線技師	倉石 政彦
	12 診療放射線技師の関連企業での活躍 ゲストスピーカー：鈴木敦（Office Suzuki）	倉石 政彦
	13 診療放射線技師の学会	齋藤 祐樹
	14 診療放射線技師会	星野 修平
	15 討論 それぞれが目指す診療放射線技師像について討論する	倉石 政彦
科目の目的	放射線機器の開発、放射線技術を利用した医療技術は、日々進歩を遂げている。本科目では、様々な形態の医療機関で活躍している診療放射線技師の業務について理解を深める。また、保健・福祉関連施設や放射線関連企業における診療放射線技師の業務と役割についても知見を広げ、診療放射線技師の将来について検討する。これらを通して、「放射線学科のディプロマポリシーの一つである「人と社会に関心を持ち、自らの医療技術力を応用し、様々な分野で貢献する活動力」を涵養する。	
到達目標	1. 様々な医療機関における診療放射線技師の業務と役割について理解する。 2. 保健・福祉施設における診療放射線技師の業務と役割について理解する。 3. 診療放射線技師が学術研究を行う意義について説明できる。 4. 診療放射線技師の社会への貢献について説明できる。	
関連科目	放射線領域の専門基礎科目・専門科目	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習の内容：当該授業で展開される診療放射線技師の姿について情報収集し、疑問点を抽出する。 事後学習の内容：事前学習で抽出した疑問点について、授業で得られた知見に基づき検討し、レポートにまとめる。 事前・事後学習の時間：2時間程度	
教科書・参考書	教科書：指定しない。 参考書：指定しない。	
オフィス・アワー	倉石：火曜日 13：00～19：00。他の曜日についてはメール等で確認のこと。 他の講師については、倉石に確認のこと。	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称：診療放射線学総合演習

授業コード：1R118

英文科目名称：General Exercise of Radiological Sciences

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平	星野修平・酒井 健一・倉石 政彦	渡邊 浩・菅 和雄・小川 清	加藤 英樹・小池 正行・岩井 譜
	斎藤 祐樹・谷口 杏奈・今尾 仁		

授業形態	演習	担当者
授業計画	1 演習1・放射化学	酒井 健一
	2 演習3・基礎医学大要	今尾 仁
	3 演習5・骨一般撮影、眼底と画像読影	土屋 仁
	4 演習7・US、マンモグラフィと画像読影	谷口 杏奈
	5 演習9・MRI検査と画像読影	加藤 英樹
	6 演習11・X線CTと画像読影	小川 清
	7 演習13・X線造影検査と画像読影	小池 正行
	8 演習15・医用工学	斎藤 祐希
	9 演習17・医療画像情報学及び画像工学	星野 修平
	10 演習19・核医学検査技術学	渡邊 浩
	11 演習21・放射線物理学	倉石 政彦
	12 演習23・放射線治療技術学	岩井 譜憲
	13 演習25・放射線計測学	菅 和雄
	14 演習27・放射線安全管理学	斎藤 祐希
	15 演習29・放射線生物学	倉石 政彦
	16 演習2・放射化学に関する現状と諸問題	酒井 健一
	17 演習4・基礎医学大要に関する現状と諸問題	今尾 仁
	18 演習6・診療画像技術学に関する現状と諸問題	土屋 仁
	19 演習8・診療画像技術学に関する現状と諸問題	谷口 杏奈
	20 演習10・診療画像技術学に関する現状と諸問題	加藤 英樹
	21 演習12・診療画像技術学に関する現状と諸問題	小川 清
	22 演習14・診療画像技術学に関する現状と諸問題	小池 正行
	23 演習16・医用工学に関する現状と諸問題	斎藤 祐希
	24 演習18・医療画像情報学に関する現状と諸問題	星野 修平
	25 演習20・核医学検査技術学に関する現状と諸問題	渡邊 浩
	26 演習22・放射線物理学に関する現状と諸問題	倉石 政彦
	27 演習24・放射線治療技術学に関する現状と諸問題	岩井 譜憲
	28 演習26・放射線計測学に関する現状と諸問題	菅 和雄
	29 演習28・放射線安全管理学に関する現状と諸問題	斎藤 祐樹

	30	演習30・放射線生物学に関する現状と諸問題	倉石 政彦
科目の目的	<p>診療放射線技師に必要な知識を確実なものにするために、これまで学んできた授業内容を総復習する。また、臨床実践において直面する様々な課題について、診療放射線技師が自分自身で表現し、意思決定を行う訓練を行う。これらの学習を通して、キャリア形成の重要性を知り、社会の一員としての教養と責任感を身に付ける。(オムニバス方式/全30回)</p>		
到達目標	<p>診療放射線技師国家試験出題基準の大項目・中項目・小項目で示されるキーワードに関する知識を獲得する。  具体的には、  (1) 出題基準の各項目と国家試験科目の関係について説明できる。  (2) 小項目毎に設定される国家試験問題形式の設問について、その解答及び解法について説明できる。</p>		
関連科目	すべての専門基礎・専門科目		
成績評価方法・基準	前期：国家試験形式で実施する定期試験（30％） 後期：国家試験形式で実施する定期試験（70％）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習：90分 事後学習：90分		
教科書・参考書	教科書：2022年度版 診療放射線技師国家試験問題集 技師教育研究会編 共立出版 2021年4月 参考書：読影の基礎 第4版 診療放射線技術学のための問題集 読影の基礎 編集委員会編 共立出版 2017年12月		
オフィス・アワー	授業前及び授業後 それ以外の時間を希望する場合は、各担当教員と直接連絡をとって、別途、オフィスアワーの時間を設定すること		
国家試験出題基準	診療放射線技師国家試験出題基準（H32年度版）全範囲		
履修条件・履修上の注意	この科目は、診療放射線技師国家試験を受験する上で重要な知識の理解を深めるための科目であり、十分な事前学習、事後学習を心がけること。		



講義科目名称：診療放射線技術と研究

授業コード：1R119

英文科目名称：Radiological Technology and Research

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平	星野 修平	倉石 政彦	酒井 健一
	渡邊 浩	加藤 英樹	齋藤 祐樹

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 研究の基本的プロセス 診療放射線学研究の具体的な方法、手順について述べる	星野
	第2回 研究の意義 診療放射線学における【研究】の意義について述べる	酒井
	第3回 先行研究の探索と調査研究 先行研究の調査と文献検索、研究レビューの方法について述べる	齋藤
	第4回 実験の種類 実験研究の種類、方法について述べる	渡邊
	第5回 研究デザインと再現性 診療放射線学研究の研究デザインと再現性、検証について述べる	星野
	第6回 データ処理と解析 研究精度、データの有効性について述べる	倉石
	第7回 プレゼンテーションの手法 プレゼンテーションの作成と発表手法について述べる	加藤
	第8回 論文作成の技術 論文の構成、執筆の具体的な方法について述べる	星野
科目の目的	本科目では、診療放射線学の各領域における研究の特長を検討し、診療放射線学研究の意義と重要性について考える。また、専門文献の検索、講読を行い、最新の研究論文や技術報告などを理解する。具体的には研究の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの仕方について学ぶ。	
到達目標	診療放射線学研究の意義を理解し、研究課題の抽出と研究方法論について説明できる。	
関連科目	診療放射線学における専門領域全般	
成績評価方法・基準	レポート課題（先行研究のレビュー）による評価（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習（90分）、事後学習（90分）	
教科書・参考書	参考書：研究方法論と基礎統計学（日本放射線技術学会編） 参考書：ヘルスリサーチの方法論 井上洋士 放送大学大学院教材	
オフィス・アワー	授業前、授業後に各担当教員と調整を行い、別途実施する。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	本科目は、診療放射線学研究Ⅰ、診療放射線学研究Ⅱで、卒業研究を行うための方法論を学ぶ科目に位置付けられる。	

講義科目名称：診療放射線学研究Ⅰ

授業コード：1R120

英文科目名称：Radiological Technology Research I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平	助教以上の専任教員全員		

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	<p>本科目では、「診療放射線技術と研究」で学んだ診療放射線学の研究の意義、研究方法を用いて、実際に診療放射線学研究の計画立案を学ぶ。具体的には、群馬パース大学 放射線学科の4つの研究領域「放射線情報学」「放射線教育学」「放射線防護学」「放射線利用学」の研究領域に分かれて、それぞれ研究領域ごとに、文献調査、先行研究レビュー等を行い、個別の研究テーマを模索し、研究計画を立案する。</p> <p>コーディネーター；星野</p> <p>第1～6回 診療放射線学研究の理解 4つの領域に分かれて、各領域にそれぞれの専任教員の提示する先行研究を基に、研究課題の明確化、研究目的の理解、研究結果の解釈等から研究方法の具体的な方法を学ぶ。</p> <p>第7～8回 個別研究テーマの設定と研究ゼミナールの担当教員の決定 専任教員の提示する研究テーマを基に、学生が自ら、個別研究テーマを策定し、指示された個別研究テーマを担当する教員を決定する。 なお、個別テーマは、個人またはグループとし、担当教員は、主担当教員と副担当教員を配置するものとする。</p> <p>第9～14回 研究ゼミナール 個別テーマを基に、具体的な研究計画を立案する。</p> <p>第15回 個別研究テーマの発表 個別研究テーマと研究計画を発表する。 「放射線情報学」領域 「放射線教育学」領域 「放射線防護学」領域 「放射線利用学」領域</p>	<p>星野</p> <p>星野</p> <p>星野</p> <p>星野</p>
科目の目的	放射線学研究は課題の明確化、解決方法の提案、実証、検討、研究成果のまとめなどの一連のプロセスにより構成されることを理解する。また、研究手段としての文献調査、理論的考察、検証、実験的検証などの技術を習得する過程を通して、診療放射線学研究についての理解を深め、診療放射線技術を展開・発展させるために必要な基本的な姿勢を学ぶ。「診療放射線技術と研究」の学習成果を基に、自分自身で専門分野を絞り、自分に合った研究テーマを選択する。	
到達目標	個別研究テーマの設定、研究計画の立案ができる。	
関連科目	診療放射線学における専門領域全般	
成績評価方法・基準	レポート課題（研究計画書）による評価（60%）および研究活動における活動状況（40%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習（60分）、事後学習（60分）	
教科書・参考書	参考書：研究方法論と基礎統計学（日本放射線技術学会編）、 参考書：ヘルスリサーチの方法論（放送大学大学院印刷教材）	
オフィス・アワー	授業前、授業後、ゼミナール中に担当教員と調整を行い、随時実施する。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	将来、大学院進学を希望する学生は、個別研究テーマの設定を行う際には、グループ研究ではなく個人で研究テーマ設定すること。	

講義科目名称：診療放射線学研究Ⅱ

授業コード：1R121

英文科目名称：Radiological Technology Research II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	必修
単位認定者	担当者		
星野 修平	助教以上の専任教員全員		

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>本科目では、「診療放射線学研究Ⅰ」で立案した、診療放射線学研究を、実際に観察、調査、実験、実習等のプロセスを経て、診療放射線学研究の実践を学ぶ。具体的には、群馬パース大学放射線学科の3つの研究領域「放射線情報学」「放射線教育学」「放射線防護学」「放射線利用学」の研究領域に分かれて、それぞれ研究指導教員の指導のもと、研究活動を実践する。 コーディネータ；星野</p> <p>初回 診療放射線学研究ガイダンス 研究スケジュール、評価方法等</p> <p>中間 研究ゼミナール 立案した個別研究テーマを基に、具体的な研究活動を実践する。</p> <p>前期後半 中間発表会 実践の途中経過を中間発表会としてまとめ、各領域毎に公表する。</p> <p>後期前半 成果報告会 研究実践の過程と結果についてまとめ、公表する。</p> <p>後期中間 研究成果報告書 研究実践の過程と結果についてまとめ、研究成果報告書にして提出する。</p>	<p>星野 修平</p> <p>研究指導教員</p> <p>研究指導教員</p> <p>研究指導教員</p> <p>研究指導教員</p>
科目の目的	放射線学研究は課題の明確化、解決方法の提案、実証、検討、研究成果のまとめなどの一連のプロセスにより構成されることを理解する。また、研究実践としての文献調査、理論的考察、検証、実験的検証などの過程を通して、診療放射線学研究についての理解を深め、診療放射線技術を展開・発展させるために必要な基本的な姿勢を学ぶ。「診療放射線技術研究Ⅰ」の学習成果を基に、研究テーマの実践から、診療放射線学研究を意義を理解する。	
到達目標	診療放射線学研究の意義を理解し、研究課題の抽出と研究方法論について実践できる。 経過内容と成果についてまとめることができる。 研究成果報告書として研究実践をまとめることができる。	
関連科目	診療放射線学における専門領域全般	
成績評価方法・基準	研究成果報告書による評価（50%）および研究活動における活動状況・中間発表会・成果報告会（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習（60分）、事後学習（60分）	
教科書・参考書	参考書：研究方法論と基礎統計学（日本放射線技術学会編）、 参考書：ヘルスリサーチの方法論（放送大学大学院印刷教材）	
オフィス・アワー	授業前、授業後、ゼミナール中に担当教員と調整を行い、随時実施する。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	将来、大学院進学を希望する学生は、個別研究テーマの設定を行う際には、グループ研究ではなく個人で研究テーマを設定すること。	